

岩手県立一関清明支援学校

研究テーマ

児童生徒の主体性を育む支援のあり方について

2年次研究(令和6～7年度)

< 研究のまとめ >

目次

1 全校研究主題 -----	1
2 研究の目的と内容 -----	1
3 研究の経過 -----	2
4 各グループの研究テーマ -----	3
5 推進内容 -----	4
6 各グループの実践報告 -----	5
* 本校舎幼小小学部(令和6年度の研究実践) -----	5
* 本校舎幼小中学部 -----	12
* 本校舎高等部 -----	21
* 山目校舎わかば -----	35
* 山目校舎なのはな -----	48
* あすなろ分教室 -----	66
* 千厩小中学部 -----	72
7 全体研究のまとめ -----	79
8 次年度研究について -----	79
9 終わりに -----	80

「児童生徒の主体性を育む支援のあり方について」

本校では、学校教育目標(めざす児童生徒像)である、「自分のよさに気づき、自己実現のための向上心を持ちつづける人」を育てるために、児童生徒がどのような力を発揮しているかを具体的に見取りながら、授業実践を積み重ねていくことにより、「質の高い学び」に努めている。実現すべき、「令和の日本型学校教育」の姿として言われている「個別最適な学び」、「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていきたいと考える。

主体的な学びの姿を引き出し、深めることで、「人やもの、ことを意識したり関わったりし、自分の考えを広げ、深めよう」とする対話的な学びが生まれ、「もっとやってみよう」、「次は工夫してやってみよう」、「学びを他の場面で生かしてみよう」という深い学びの姿につながる。また、児童生徒の主体性を育むための支援方法のあり方を探ることは、前回研究で取り組んだ「一人一人の豊かな学び」の実現とも通じることである。前回研究で得た成果のさらなる充実と発展を図り、児童生徒一人一人の可能性を引き出すことができるような支援方法を探っていきたい。

2 研究の目的と内容

1 研究の目的

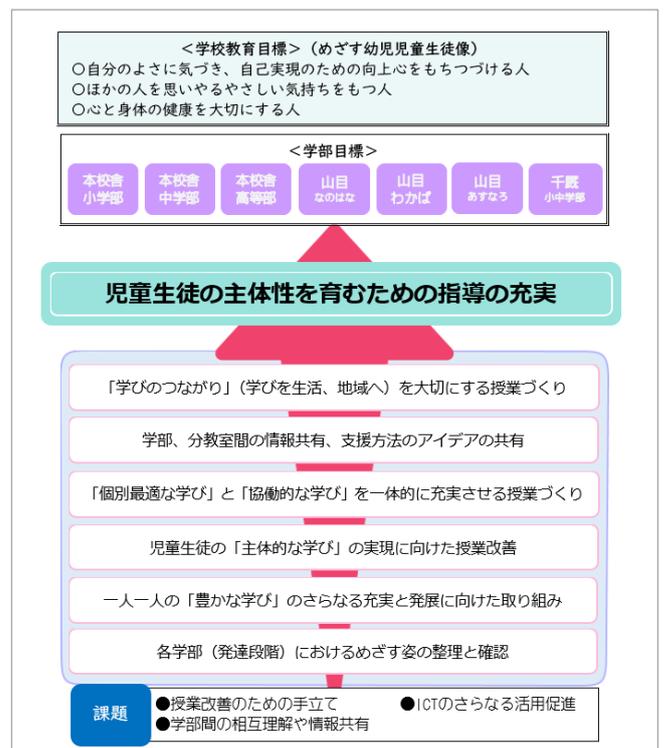
本校における「主体的な姿」の具体的なあり方を、各学部や発達段階に応じて整理し、児童生徒の主体性を育むための支援方法を検証することを目的とする。その取り組みを通して、児童生徒が自らの力を発揮しながら学びに向かう姿を的確に見取り、「質の高い学び」を実現するための指導の充実を図る。

2 研究の構造図

図1は、本研究の全体構造を示したものである。前回研究で得られた成果を土台として、今回の研究をさらに発展させることで、各学部および分教室で掲げている目標、並びに本校のめざす幼児児童生徒像(学校教育目標)の実現に寄与することを表現している。

3 研究の方針と内容

- ① 各学部や発達段階における、めざす「主体的な姿」の確認・共有
- ② 「授業および指導実践シート(以下、実践シートと記す)」(図2)を活用し、主体的な姿を育むための支援に焦点を当てた授業実践と授業改善
- ③ 働き方改革に資する効率的な研究推進(指導案作成の負担軽減、情報共有の工夫)



【図1 研究の構造図】

※実践シートについて

実践シートの様式(図2)については、グループの実態や授業内容に応じて項目を自由に変更できるものとし、この1枚で「目標」「手立て」「研究会で出た意見やアイデア」「授業改善の内容」「児童生徒の変容」をすべて網羅できるようにした。

また、取り扱う実践は授業1時間すべてではなく、日常の授業や授業以外の様々な指導場面の中から一場面を取り上げてよいこととする。

授業(実施)日		学部	
単元名(指導場面)		授業者(指導者)	
目標			
手立て	・ ・		
アイデアの共有			
①	②		
・ ・	・ ・		
授業改善後(授業研究会を受け、実践したこと、児童生徒の様子等)			

【図2 実践シート(様式)】

3 研究の経過

本研究は2年間にわたり実施した。

1年次は、児童の実態把握をもとに、主題にかかる課題の整理と研究視点の共有を進め、授業改善の基盤をつくった。2年次は、1年次で築いた基盤を生かし、授業改善を継続しながら質的な向上を図り、児童生徒の主体性を育むための具体的な手立てを深めることに重点を置いた。

1 1年次(令和6年度)の取り組みについて

(1)各学部や発達段階に応じた、めざす児童生徒の「主体的な姿」を整理

本校は、4障がい種に対応する特別支援学校として、同じ学部の中にも多様で幅広い実態の児童生徒が在籍している。そのため、学部として共通の方向性を見失わないようにしつつ、発達段階に応じた個性にも目を向けた「主体的な姿」の整理が必要であった。

整理をすることで、多様な障がい特性や学習スタイルをもつ児童生徒に対しても、学部としてめざす方向性を共有でき、授業改善において“どの姿を伸ばすのか”“どの関わりが必要か”を具体的に見取る基盤が構築された。

(2)「実践シート」の活用

本校では、一般的な指導案や指導略案に替えて、本研究の目的に沿った独自様式である「授業及び指導実践シート」を活用した。シートの項目は、児童生徒の実態や各グループの研究テーマに応じて柔軟に変更できるようにし、実践に即した記録が可能となるよう工夫した。また、授業研究会後には、助言やアイデアを受けて行った授業改善の内容を追記し、児童生徒の変容や授業の改善点が一連の流れとしてみえるようにした。

これにより、個々の実践が研究主題とつながり、教員間で共通理解が深まるとともに、次の授業づくりに生かしやすい記録となった。

※「2025年度06-研究部⇒02_校内研究⇒00_R6 全校研究会資料」のフォルダ内に実践集を格納

(3)「働き方改革」の推進

実践シートを活用することで、指導案作成にかかる負担を軽減し、授業づくりに必要なポイントを効率よく整理できるようにした。

また、第2回全校研究会では、1年次の実践のまとめとして、全ての実践シートを「実践集」として一つにし、デスクネットで資料を共有する形とした。それぞれの実践を相互に参照し、授業改善の視点を広げる機会となった。

2 2年次(令和7年度)の取り組みについて

(1)実践シートの活用と改良

1枚で目標・手立て・改善点・児童生徒の変容を整理できる様式を継続し、グループの実態に応じて柔軟に項目を調整。授業研究会での意見や改善内容を追記し、授業改善の流れを可視化した。

(2)授業改善の深化

1年次の実践やアイデアを踏まえ、2年次は主体的な場面づくりに焦点を当てた授業をさらに進めた。授業後には研究会で出た意見やアイデアを取り入れて改善し、その改善を評価して次の授業に生かすという往還を重視した。

(3)情報共有の工夫

実践シートと短時間動画を組み合わせて共有し、学部や校舎を越えた学び合いを促進した。誰もが無理なく自由に視聴できる環境を整えることで、互いの授業改善に活かせる体制づくりを進めた。

(4)働き方改革の推進

引き続き、指導案作成の負担を軽減し、効率的な授業準備をできるようにし、研究活動を無理なく継続できる体制づくりを進めた。

4 各グループの研究テーマ

各グループの課題や実状をもとにテーマを設定し、進めた。本校舎幼小中学部は1年次に「主体的に表現する力を育む～気持ちを安定させて活動に取り組むためには～」をグループテーマに掲げて推進したが、2年次は在籍児童が1名となったことから、本校舎幼小中学部グループとして、中学部グループのテーマを引き継ぎ、一つのグループとして推進した。

グループ	研究テーマ
本校舎幼小中学部	児童生徒の主体性を引き出す授業づくり
本校舎高等部	社会人・職業人として自立できる実践的な知識・技能・態度を育む支援のあり方 ～高等部段階でのキャリア教育の視点から～
山目わかば	個々の学びを深め、集団学習や日々の生活に生かす授業づくり
山目なのはな	児童の実態と手立ての共有
あすなる分教室	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現をめざした授業実践
千厩小・中学部	選ぶ そして 動く ～児童生徒の選択ができるような環境をととのえる～

5 推進内容

1 1年次(令和6年度)の取り組み

月	主な取り組み	内 容
4	第1回全校研究会(18日)	校内研究の方向性提案
5	研究日①(16日)	研究テーマの確認、方針等の検討
6	研究日②(18日)	各グループにおける「主体的な姿」の検討、実態把握、共通理解
7	研究日③(17日)	授業実践、授業研究会、授業改善
	高教研講演会(31日)	講師:臨床心理士 松丸未来先生 講演:「安心を届ける認知行動療法で発達にチャレンジする ～学校での実践で大切なこと～」
8		授業実践、授業改善
9	研究日④(3日)	授業実践、授業研究会、授業改善
10	研究日⑤(23日)	授業実践、授業研究会、授業改善
11	研究日⑥(14日)	授業実践、授業研究会、授業改善
12	研修報告会	H. C. R2024第51回福祉機器展示&フォーラム
	研究日⑥(16日)	1年次研究のまとめ
1	研究日⑦(22日)	次年度に向けて
2	第2回全校研究会(18日)	実践シートをまとめた実践集作成(デスクネット開催)
3	研修報告会	第68回岩手県教育研究発表会

2 2年次(令和7年度)の推進計画

月	主な取り組み	内 容
4	第1回全校研究会(16日)	校内研究の方向性提案
5	研究日①(14日)	研究テーマの確認、方針等の検討
6	研究日②(17日)	児童生徒の実態把握、共通理解
7	研究日③(16日)	授業実践、授業研究会、授業改善
	高教研講演会(31日)	講師:平熱先生 講演:「わかるようでわからない ちょっとわかる特別支援教育」
8		授業実践、授業改善
9	研究日④(3日)	授業実践、授業研究会、授業改善
10	研修報告会	第64回岩手県特別支援教育研究大会 久慈地区大会
	研究日⑤(20日)	授業実践、授業研究会、授業改善
11	研究日⑥(25日)	授業実践、授業研究会、授業改善
12	研修報告会	岩手大学部附属特別支援学校第25回学校公開研究会
	研究日⑥(16日)	2年次研究のまとめ
1	研究日⑦(21日)	2年次研究のまとめ
2	研修報告会	東京学芸大学附属特別支援学校 研究協議会
	第2回全校研究会(20日)	2年次研究のまとめの報告、次年度に向けて
3	研修報告会	第66回岩手県教育研究発表会
		まとめHP掲載

* 幼小部グループは、在籍児童数の関係から、令和6年度に1年次研究として推進しました。
本資料は、令和6年度に作成したものです。

本校舎 幼小部グループ

研究主題

主体的に表現する力を育む ～気持ちを安定させて活動に取り組むためには～

1 主題設定の理由

今年度の本校舎幼小部の児童は、全員聴覚障がいがあるが、医療的ケアを要する児童や知的障がいを併せもつ児童も在籍している。

児童の表現方法は、音声、手話や指文字、ジェスチャー、文字、イラスト、VOCA、アプリ(指伝話、読み上げ)等である。

自信がなかったり、気が乗らなかったりすると活動に背を向ける児童や、気になることがあると、活動に向かうまでに時間を要したりする児童、また、自信がないときや見通しをもちにくい活動のときに情緒が不安定になりやすい児童がいる。安定した気持ちで活動できるように、休憩を長めにする、見通しを丁寧に伝える等の対応をしている。学習面については、興味、関心のある内容を取り入れながら進めている。3名とも「できる」「分かる」と思うことには意欲的に取り組んでいる。

このような児童の実態から、気持ちを安定させて活動できる環境であることが、自分で考え、表現するために必要だと考える。また、友達同士の関わりも大切にしたい。児童の表現を認め、自信をもち安心して活動できる環境を整え、他者との関わりを意識しながら、児童の実態に合わせた表現力を育てていきたい。

2 推進計画

月 日	内 容
4月 18 日	第1回全校研究会
5月 16 日	研究日① テーマ、研究方針、推進計画書作成に向けて
6月中	授業の様子をビデオ撮影
7月 17 日	研究日②
9月 3 日	研究日③
10月 23 日	研究日④
11月 14、15 日	東北聾教育研究大会(福島大会)
12月 16 日	研究日⑤ 今年度のまとめについて
1月 22 日	実践のまとめ
2月 18 日	第2回全校研究会(資料提案)

3 めざす「主体的な姿」

- ①考えたり、感じたりしたことを音声、手話、指文字、ジェスチャー、文字、絵、アプリ(読み上げ)、VOCAなどで表現する。
- ②「相手に伝えたい」「知りたい」「分かってほしい」という気持ちをもつ。
- ③「やってみたい」という気持ちを持ち、様々な活動に取り組む。

4 研究方針

今年度の在籍は児童3名である。それぞれが児童会長、児童会副会長、生活図書委員長を務め、前に出て話をする機会が多くなる。そのような場面で、安心して自信をもって自分の考えや気持ちを伝えるための支援を考えていきたい。

また、3人とも聴覚障がいがあり、手話を使ってコミュニケーションをとっている。そのうち2名は音声と手話や指文字を併用してコミュニケーションをとっている。1名は気管切開のため発声困難であり、iPadで「指伝話」「読み上げ」等のアプリを利用している。自分の伝えたいことや発表内容をアプリに打ち込み、アプリの音声で内容を読み上げている。それに合わせて手話をして発表する方法を実践していきたい。

また、児童の行動を予想し、様々な対応パターンを考え、共有し、職員が落ち着いて対応できるようにしたい。

5 研究内容

- ・授業、活動の様子の映像を記録する。(元気元気集会、朝の自立活動での絵日記発表)
- ・学部内で振り返りをする。
- ・他学部の職員から意見や感想をもらう。

6 授業実践

実践1

令和6年度 授業及び指導実践シート（幼小学部）

授業（実施）日	6月25日1校時	学 部	本校舎小学部4・6年AB組
単元名 （指導場面）	自立活動「みんなに伝えよう」 『つめを切ったこと』	授業者 （指導者）	佐藤 まゆ 細川 絵里加
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって、経験したことや感じたことを手話や指文字で発表する。 ・質問に正しく答える。 		
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・音の出る拍手や急に盛り上げる行動は控え、自信をもって安心して発表できる環境をつくる。 ・「分からない」と答えた時や答えにくい質問の時は、二択にして質問する。 		
実態	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害がある。気管切開をしているため、表現方法は手話や指文字、iPad（読み上げアプリ）、文字である。 ・家で毎日、母親と一緒に日記を書いている。 ・手話が伝わる相手には手話でやり取りする。iPadの音声読み上げアプリを使用し、コミュニケーションを取ることもあるが、1時間目の自立活動の前に入力する時間がないため、日記発表では利用していない。あいさつ、よくする質問等決まった内容については、自分で入力し、使用している。運動会の得点発表、小学部の児童総会等では事前にアプリに話す内容を入力し、その音声に合わせて手話で発表することができた。 ・拍手や急な盛り上がりが苦手である。 ・本当は答えが分かっている質問でも「分からない」と答えることも多い。 		
アイデアの共有			
① 自信をもって質問に答えるための手立て		② 感想やアプリ、ICT機器のアイデア等	
<ul style="list-style-type: none"> ・事前に練習する。事前に予想される質問を想定してやりとりする。その質問が出ない場合は教師が質問して練習通りのやりとりができるようにする。手助けがなくてもできる場面を積み重ねていく。 ・事前に、家でまたは学校で、自分が一番言いたいところは何なのか、朱線で引かせ、朱線の文についての質問を求めるようにする。 <p>例：一番言いたいことは家に帰ったらお父さんがいたので嬉しかったことです。質問はありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の質問に対しては、「できるだけ答える」、分からないことは「分からない」という約束を理解させた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・日記は、出来事や事柄の発表が多くなりがちだが、その時の気持ちに触れさせながら指導者が進めることで、聞く側の感想にも「ぼくは」「ぼくも」など発表内容に深まるが得られていると感じた。 	

令和6年度 授業及び指導実践シート (幼小学部)

授業（実施）日	6月26日1時間目	学 部	本校舎小学部4・6年AB組
単元名 (指導場面)	自立活動「みんなに伝えよう」 『テレビ(あばれる君)を見たこと』	授業者 (指導者)	佐藤 まゆ 細川 絵里加
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを安定させ、自信をもって経験したことを伝える。 ・質問に音声、絵や文字、手話や指文字で答える。 		
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・日記発表の前に教師とやり取りしながら、ホワイトボードに絵や文字をかき、発表の準備をする。 ・児童の発言やかいた文字や絵から、児童の伝えたいことをくみ取り、児童が「伝わった」と実感できるようにする。 ・キーワードになる言葉は正しい文字を伝え、書くように促す。 		
実態	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害がある。表現方法は音声、手話や指文字、文字、イラストである。 ・自分が経験したことを伝えたい気持ちがある。家で見たDVDや、昨日食べた夜ご飯について話すことが多い。また、楽しい予定についても話題にしている。 ・気持ちの安定のため、正しく言い直す等の指導は日記発表の際は行っていない。 ・授業日は、気持ちが落ち着かなくなり、朝ホワイトボードに書いた内容を消してしまった。気持ちを立て直し、自分の発表の順番になると、もう一度ホワイトボードに文字や絵をかいて、伝えることができた。 		
アイデアの共有			
① 気持ちを安定させて活動（発表）するための手立て		② 感想	
<ul style="list-style-type: none"> ・発表する児童が伝えたい内容を伝えられず、気持ちが不安定な状態にならないために、また聞く側も理解が深まるように、指導者が一つの事象から関連した内容で問答形式に発表内容をまとめられるような聞き取りを進める。 ・前日に各家庭（児童も教師も）で同じテレビ番組を視聴し、次の日その番組のことを語り合う(面白かった場面など)のはどうか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・発表を一度聞いただけでは理解が難しい内容もある中、T1の指導者が、発表児童と聞く児童の間に立ち、理解を深めるために、ウェービングマップ的に思考をつなげてあげる進め方がとてもうまくいった。それによって、発表者も発表に満足感が得られ気持ちの安定を図ることができたと感じた。 ・T1T2の発表者の役割が明確であった。T2の聞く児童への支援のよって質問するたびに内容の理解が深めることができた。 ・テレビについての情報が少なくても、T1とT2が児童のかいた絵や文字から一生懸命内容を読み取ろうとする姿勢が素晴らしかった。発表する児童もその安心感の中発表することができたと思う。発表したい内容が伝わるととてもスッキリすると思うし、また発表をしたいと感じると思う。 	

実践3

令和6年度 授業及び指導実践シート（幼小学部）

授業（実施）日	6月26日1時間目	学 部	本校舎小学部4・6年AB組
単元名 （指導場面）	自立活動「みんなに伝えよう」 『浄水場のこと』	授業者 （指導者）	佐藤 まゆ 細川 絵里加
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したこと(学習したこと)を正しく伝える。 ・質問に正しく答える。 		
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が話した後、正しい言葉や文章、手話でもう一度話すように促す。 ・質問をし、児童から知っている事柄を引き出す。 ・児童が事実を正しく話したり、気持ちを話したりした際は称賛する。 		
実態	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害がある。表現方法は音声、手話や指文字、文字、イラストである。 ・自分が経験したことを伝えたい気持ちがある。 ・事実と異なることを話してしまうことがある。 ・過去のことはあいまいに覚えていることが多いが、印象深い内容についてはイラスト等を書いて詳しく話すこともある。 		
アイデアの共有			
① 児童が経験したことを、自信をもって伝えるための手立て		② 感想	
<ul style="list-style-type: none"> ・質問を受けてそれに答えるという活動が、発表することへのさらなる意欲・自信につながるようなので、質問タイムって重要だと思う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・児童が話した後、正しい言葉や文章、手話でもう一度話すように促すことは、聞く児童にとっても理解が深まるし、発表児童の自信にもつながると感じた。 ・笑顔で発表している点も、いつか称賛してあげたい。 	

6 授業実践

(1) 成果

☆ビデオ提案した授業について

○6月中は、自立活動の様子を撮影することで、学部内で自立活動の発表の様子を共有し、振り返ることができた。今まで行っていた手立てが有効だという確認をするとともに、児童がさらに自信をもったり、気持ちを安定して発表したりするための方法を考えることができた。

○自分から質問することが苦手な児童については、職員が質問を考え、職員の声に合わせて手話で質問することができた。質問の仕方が分かってきたので、その後自分で考えて質問する機会を設けた。

○友達の発表を聞き、自分で質問を考えて、質問することができた。「これは何ですか？」と絵を見て質問したり、「〇〇は元気になりましたか？」と今までの経験や職員が質問したことを手本として質問したりすることができた。

○発表者と質問者の共通の話題(好きなテレビ番組など)であれば、話に興味をもち、質問の内容も考えやすいようだった。

☆ビデオ提案以外の授業や発表の様子について

○家での出来事を日記という形で発表するスタイルの継続が他の活動にも良い影響を与えている。質問や答え方のパターンは積み重ねて活かすことができた。

○自立活動の発表の順番を決めるときに「○番に発表したいです」と言えるようになったことで、生活単元学習の授業でも「○○をしたいです」や「お願いします」と言えるようになった。

○日記の発表で伝えたいことをうまく伝えられると気持ちが安定し、2校時以降も意欲的に授業に参加できていたと感じた。気持ちが安定したことで集中する時間も長くなり、休憩することなく時間いっぱい活動することができた。

○発声が難しい児童は「読み上げ」等のアプリを利用した。自分の伝えたいことや発表内容を自分でアプリに打ち込み、アプリの音声の内容を読み上げ、それに合わせて手話をして発表することができた。自信をもって、大きな手話で発表することが増えてきた。また、医療的ケアを受けている児童のケアの場面や、他学部の職員に対しては、読み上げアプリを利用し、自分で挨拶や質問を入力することができた。自分で考えたことを相手に伝える手段として、とても有効だった。

○読み上げアプリは大きな成果だった。職員や友達の前で、児童が自力で入力した言葉を音声で発表できたことが素晴らしい。

○ロイノートを読み上げ機能を活用したことにより、入力した内容を音声で答えることができ、意欲につながった。手話で答えるには難しい言葉もあるので、音声で確認することで、本人のフィードバックになった。

○iPadアプリ「ガレージバンド」の録音機能を活用することで、発表することに積極的になる様子がみられた。演奏や発表に自信がない児童も、自分のタイミングで録音したものと発表に抵抗がないようであった。

○児童会長あいさつの際は、発表する内容を教師と相談して決めた。発表内容を自分で紙(メモ)に書き、そのメモを大切に保管し、発表前に見て確認していた。発表の際は自分でメモをポケットに入れていた。準備をすることで気持ちを安定させて、自信をもって発表することができた。

(2) 課題

☆ビデオ提案した授業について

●聞かれたくない質問は「分かりません」と話す様子もあった。聞かれたくない質問には、落ち着かない様子になり、会話を終わらせ、次の内容を話し始めることもあった。

●分からないことはだめなことではない。ただ質問者に対しては別の機会に答えられるように設定したい。

☆ビデオ提案以外の授業や発表の様子について

●児童の気持ちを安定させて活動する環境をつくり、児童が主体的に表現できるようにした。そのため、児童に声を掛け過ぎないようにした。活動することをメインに考えているが、マナーについても伝えていきたい。

●一呼吸、二呼吸と待つ姿勢は良い。児童に問いかけたこと、指示したことには時間を与え、考える時間を確保することは大切だと思う。

- 気持ちが安定する環境や手立てを職員間で共有すること。児童が安定した中で少しずつ次のステップを目指していくタイミングを共有し、関わっていくこと。

(3) 終わりに

児童の話を十分に聞くことで、相手に伝わったという経験を繰り返すことが、自身の気持ちの安定や自信につながった。

児童の実態によっては、児童の力を信じ、あえて声を掛け過ぎないことで自分から活動する様子もみられた。「児童を待つこと」「児童を褒めること」「児童の考えを認めること」を大切にこれからも関わっていききたい。

児童の様子を職員間で共有し、支援や成長の様子を気軽に話せる環境が大切だと感じる。色々な考えを聞いた上でどうするか考えていくことが児童のためになる。

来年度の小学部は陽向さん1名となる。小学部での学習を工夫したり、他学部の協力を得たり、盛岡聴覚支援学校、赤荻小学校、交流籍校との交流を行ったりしながら、陽向さんが気持ちを安定させ、楽しく意欲的に学習できる環境を整えていきたい。陽向さんが自信をもち、主体的に表現する力を育むための支援を模索していきたい。

研究主題

児童生徒の主体性を引き出す授業づくり

1 主題設定の理由

幼小中学部には、本校が対象とする病弱(情緒含む)、肢体不自由、聴覚障がい、知的障がいの4障がいすべての障がい種の児童生徒が在籍している。さらに、学習グループやクラスの中でも実態は様々で、個々に抱える課題や必要な支援、指導の方法も異なる。研究テーマを授業づくりとし、生徒の「主体性」を引き出すための指導方法や支援方法の検討・実践を繰り返すことで、よりよい授業づくりができると考え、テーマを設定した。

幼小小学部の児童人数が1名となったため、2年目は、幼小中学部グループとして研究を進めていくこととした。

2 推進計画

月 日	研究活動	内 容
4月16日	第1回全校研究会	
5月14日	グループ研究会①	1年次目の取り組みの確認と、研究方針や内容の検討、研究内容アンケートの実施
6月17日	グループ研究会②	東北聾研青森大会レポート発表と、発表内容の検討会。
7月16日	グループ研究会③	授業実践、授業研究会
9月3日	グループ研究会④	授業実践、授業研究会
10月20日	グループ研究会⑤	授業実践、授業研究会(授業改善後の様子)
11月25日	グループ研究会⑥	授業実践、授業研究会(授業改善後の様子)
12月16日	グループ研究会⑦	グループ研究まとめ
1月21日	グループ研究会⑧	グループ研究まとめ
2月20日	第2回全校研究会	グループ研究の発表、全校研究のまとめ

3 めざす「主体的な姿」

- ・授業の中で学んだこと(知識・技能)を使おう、生かそうとする。
- ・次の学習への期待感が高まる言動や行動がみられる。
- ・他の授業場面や学校生活で身に付けた力を生かそうとする。

など、活動に意欲を示す姿。

4 1年次目の研究概要

1年次目は、国語、数学グループに分かれ、実践シートの作成、活用、授業実践、授業改善のサイクルで授業実践に取り組んだ。学部で授業実践シートの様式項目を変更し、目標、手立て、生徒の実態、研究会でのアイデアの共有、授業改善後の生徒の様子について1枚で網羅できるようにした。授業実践の成果を職員にアンケートした結果、主体性を引き出す授業づくりができた職員が74%、少しできたが26%という結果だった。成果は、グループ学習の様子を動画で見ながら、意見交換できたことや課題を解決するアイデアをもらうことができた。また、すぐに実践に役立てることができた。課題としては、グループ以外の授業を見る余裕がなかった、主体的な姿をグループや学部で共有できればよかったという意見があった。

5 2年次目の研究実践

(1) 研究方針

幼小小学部の児童人数が1名となったため、2年次は幼小中学部での研究実践とした。中学部の研究主題で推進していく。実践シートを活用して授業実践に取り組み、研究会でのアイデアの共有、授業改善後の生徒の様子について職員間で意見交換する。

(2) 実践シートの活用について

実践シートを基に、目標、手立て、生徒の実態、研究会でのアイデアの共有、授業改善後の生徒の様子について1枚で網羅できるようにした。

(3) 授業実践と授業改善

実践1

令和7年度 授業及び指導実践シート(幼小中学部)

授業日	6月26日～毎週木曜日	学 部	中学部3学年
単元(題材)名 (指導場面)	音楽 「聴いてみよう」	授業者 (指導者)	及川慧子
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・声や楽器の旋律の特徴を聴く。[知] ・声や旋律の違いに気づく。[思] ・聴き取ったことや、感じ取ったことを表現する。[主] 		
(目標に対する)実態	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞に対して親しみはあるが、集中して聴き続けることは難しい。 ・音楽に合わせて身体を動かしながら表現することを好む。 ・質問に対して、自分なりの表現で感想を発表しようとする。 		
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞のポイントとなる「言葉カード」を提示する。 ・「言葉カード」を読み、曲中の言葉に親しみをもてるようにする。 ・言葉が聞こえたら、挙手をしたり、立ったりして動きを取り入れながら鑑賞する。 		
●成果と▲課題		アイデアの共有	
<ul style="list-style-type: none"> ●繰り返し取り組むことで、鑑賞するポイントが分かり、反応が増えた。 ●「次来るよ！」と予測して鑑賞する姿が見られた。 ▲自分で聴き取って反応する生徒と、周りの様子に合わせて反応する生徒もいる。自分で聴き取って反応できるまでに時間がかかる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・聞こえたら手を挙げるのもいいと思うが、言葉カードで提示するのはどうか。 ・提示する言葉を黒字ではなく、種類毎に色分けするのはどうか。より区別して聴きやすくなるのではと思った。 ・「文字によるカード」と「指で表す」表し方。指でのように表し方は、簡単な方がいいと思った。文字を読む(見る)ことに力が入ってしまう子もいるかと。 ・授業でも取り組んでいたように、旋律を自分で歌ったり、身振りで表現できたりすることで、意識的に曲を聴けるようになると思う。今の方法を継続する。 ・イメージの動作化、タイム ・「はーどっこい」などの言葉が聞こえたら、手を挙げるとき全員に確認しているが、一人ずつに聞き確認するのはどうか。 ・歌詞に合わせた動きをしたら、子どもたちも楽しく動きそうだった。 	

- ・その言葉が聴こえたところで、手を挙げる→一緒に歌う→身体を動かすとかは楽しそうですがどうでしょうか。
- ・1年生でやってみた方法です。スライドに歌詞を書いて、掛け声「はいはい」はピンク、「はーどっこい」黄色、「はーどっこいしょ」は青に色を付けて表示してみた。歌詞を見ると、生徒も曲の構造を捉えやすいかもしれないと感じた。
- ・歌詞のあるものは示し、注目してほしいポイントは強調するのはどうか。「聞いて」分かるにこだわらず、多感覚で「聴く」にシフトするともっと多くの子が「くるよ～」の期待をもって聴けるのではないか。
- ・2曲目、曲に合わせた動きで生徒の反応が良くなった？→さらに分かりやすい身近な動きを取り入れてみる。
- ・動物の謝肉祭では、始めに「動物たちが登場する曲を聴いてみよう」と大まかなテーマを聴いてもらうとイメージしながらできるようになると思った。
- ・動物の謝肉祭は、音の動き(低→高)動きを記号で示したものを掲示してみると音の動きを感じるとかも。
- ・教師が歌って聴かせる、声の大きさ、ジェスチャー、表現など、生徒を注目させる指導の仕方、大好きです。生徒が聴いたことのない曲をもっともっと！！
- ・3Cの生徒は「聴く」ことはできていても、それを聴いて「挙手をする」ということに苦手意識がある生徒もいるのかなと思った。導入段階なら、全員で楽しめる「振り」みたいなものだと楽しく参加できるかなと思った。
- ・生徒が聴いたことのある曲を取り入れてみる。
- ・歌詞のないものは、そのメロディーのイメージを共有し、グループ毎にイメージに合った動きをしてみるなどどうか。聴覚の子も楽しめるかも。
- ・視覚支援として、電子黒板をもっと活用してもいいと思う。曲の情景を伝えたり、歌詞を提示したり、声に出す言葉の文字の色分けをして提示したり・などなど。
- ・曲もスマホからではなく、パワポに貼り付ける等してもいいかも。

感想

- ・鑑賞の指導の段階的な内容について勉強になりました。
- ・中2の子たちがよく聴き取って、すぐ歌っていたのすごかったです。先生の生の歌唱をしっかり聴かせることがよかったです。より分かりやすくなっているということが分かりました。
- ・導入としてソーラン節という生徒たちが親しみやすく、分かりやすい題材を取り扱うことで、曲を聴き取ることに対して、抵抗感なく臨めると思いました。
- ・生徒が集中して聴けるように、短い特徴的な旋律を選んでいるところに工夫を感じました。
- ・1の旋律を聴き取っている生徒がいた。すごい。
- ・T2～4で授業に入っていて、A児やB児と音を聴いて手をあげたり、立ったりしていますが、2人を待てずに、私の促しが強かったかなと思いました。
- ・視覚支援が多く、3年生にとっては分かりやすいと感じました。

- ・CDではなく、先生の声で歌っていたのが良かった。
- ・盛り上がる所、聴いてほしいポイントを分かりやすく伝えていると思いました。(動作、声の強弱など) 勉強になります。
- ・「ハイハイ」「どっこいしょ」、どれも曲を構成する上で大切な言葉だと思います。この曲、旋律は、言葉(合いの手)もあっての作りだから、効果的な方法だと思います。
- ・特に聴いてほしい所の旋律を何度も歌い、その後元の曲を聴かせることで、耳で聴いて気付く生徒が多くてすごいなと思いました。
- ・2年生のC組の生徒たちは、繰り返し鑑賞に取り組む中で、メロディーやそのタイミングを覚えて積極的に取り組んでいる様子が見られるので良いと思います。
- ・一部分から「聴く」というのも難しいことなのだなと思いました。今回は、これを聴くというのがはっきりしていて良いと思いました。
- ・子どもたちが期待感や盛り上がるポイントを感じて音楽を楽しめる手だてが工夫されていたと思います。
- ・音の強弱やメロディーの変化に気付いて反応する生徒と反応が難しい生徒の違いは何なのかなと気になりました。
- ・C組の生徒に鑑賞は難しそうだと思います。生徒は音楽が好きなので、楽しい音楽でいいのでは。

授業改善後 ●成果と▲課題

【取り入れた手立て】※アイデア欄のマーカ一部分

- ・「動物の謝肉祭」の鑑賞を行い、それぞれの曲が動物のどんな様子を表している曲なのか、**鑑賞するポイントを明確に示した。**
- ・**パワーポイントを活用し、聴いてほしいポイントを明確に示した。**
- ・速度の違いを感じ取るために、「天国と地獄」の楽譜を使用し、音符の上を亀とウサギが走るイメージで紙人形を動かした。
- ・動画を活用し、「オーケストラのみ」と「アニメーション＋オーケストラ」の2本を活用した。また、動画鑑賞中も選択肢について考えられるように、動物の写真を机に貼って提示した。
- ・動物なりきりタイムを設け、生徒一人一人が楽曲をどのように捉えているのか分かるようにした。

【児童生徒の変容、様子】

- 何を聴くべきか理解し、「音を聴く」ことに集中できるようになった。
- 速度の遅い「天国と地獄」という曲名に気付くことは難しかったが、紙人形を動かすことで速度の変化に気付くことができた。
- 「音が強そうな感じがするから、ライオンだと思う」など、「○○だから□□」のように、理由を説明できる生徒が増えた。
- 前は周りの様子を見て反応する生徒が多かったが、選択肢を提示したことで自分で考えて反応できる生徒が増えた。
- ▲発問の仕方、映像・イラスト・説明等提示の順番により生徒の反応が大きく異なるため、提示の仕方については今後も生徒に合った方法を探していきたい。

<生徒の言葉>

- 休日にテレビで「動物の謝肉祭」を取り扱った番組を見たと話してくれた生徒が数名。「音楽の授業で白鳥はいつやるの??？」と組曲の中に出てくる曲名を覚えており、「早く聴いてみたいです！」とお願いされることがあった。

研究会での質問と授業者からの回答

1、メロディーや音の上下の動きは、身振り以外でどのように可視化しているのでしょうか。

A→今回の授業の中では、身振り以外では可視化していませんでした。可視化するとすれば、簡易楽譜を用いて滑らかな音の動きや、跳躍した音の動きなどを表せるかと思います。

2、目標3つ目「聴き取ったことや感じたことを表現する(主)」

この目標は主体性を求めているので、生徒個々の差が大きいです。評価の仕方も工夫が必要だと思いますが、何か評価する側のアイデアはありますか。

A→知覚・感受を見取る方法として、生徒がどのように考え、感じ取っているのかを表現してもらうようにしています。身体表現と思われてしまうかもしれませんが、言葉で表現することが難しい生徒の場合、有効になることもあります。今回の授業の「ソーラン節」で言えば、「はーどっこい」などの掛け声に関して、A目標が自分で聴き取って反応できる、B目標が友達の様子を見て気付いて反応する、C目標が教師と一緒に反応するように段階を分けて評価しているのではないかと考えています。

3、導入曲は、言葉に着目して終わりなのか。次の段階があるのか学びたい。

A→「ソーラン節」については、言葉の着目のみを狙いとして、次の曲へ取り組むための練習として取り組みました。「教師が聴き取ってほしい言葉(音)を指示する→生徒は答える／手を挙げる／反応する／立ち上がる」など、“鑑賞のルール”作りを行うことで、次の曲からの取り組み方も示すために、この方法を取り入れました。

4、このあと映像を見せる予定はあるか。(演奏している様子、オーケストラなど)

A→あります。これまで映像を見ずに鑑賞した生徒たちにとって、段階を経てオーケストラやイラストの映像を見ることはとても新鮮に映り、注目できると考えています。演奏者の表情、激しさ、穏やかさ、強弱など様々なことを感じ取ってもらえるように、今後の授業を構成していきたいです。

5、映像があると聴き取りの邪魔になるか。

A→邪魔になることもあります。例えば、どんな音が聞こえるか(楽器が使われているか)考えながら聴くときには、オーケストラ等の映像が邪魔になってしまうこともあります。純粋に曲を味わうのか、視覚的にイメージをもたせたいのかなど、鑑賞の狙いによって映像を提示するかどうかを考えています。

6、どう思ったか、どう感じたかを言葉で伝えることが難しい生徒にどのような手立てがありますか。実態的に難しい生徒が多いと思う。感想の選択肢が必要かと思うがどうか。

A→そうだと思います。「楽しい／悲しい／明るい／暗い」などの選択肢を提示することで、感想を話すことができる生徒が増えると思います。

7、「ラ～」の音やリズムに合わせての動き(指)の作り方のポイントを知りたい。低い音は指を下に下げる??

A→旋律の違いを感じ取るために、1と2のメロディーというように旋律を分けました。1はメロディーとして口ずさむことができ、指で1を示しながら拍に合わせて動かすことができるようにしました。2は半音階で音が上昇・下降する様子を表すために、指で2を示しながら音の上下に合わせて手や腕を動かすようにしました。この動きに慣れたうえで、「2の時は椅子からおしりを離してみよう」と伝え、立ったり座ったりの動きを取り入れました。

令和7年度 授業及び指導実践シート(幼小中学部)

授業日	7月1日～ 毎週火	学 部	中学部1・2・3AB組
単元(題材)名 (指導場面)	イメージがもたらす音楽の秘密 を探ろう (ジョーズのテーマ)	授業者 (指導者)	角館愛加
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。(知) ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。[思] ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、構成の違いによる曲想の変化、およびイメージと音楽との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の授業に取り組む。[主] 		
(目標に対する)実態	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴いて、曲想を自分の言葉で表すことができる。 ・鑑賞に対して親しみはあるが、音楽の要素を知覚することは難しい。 ・感じ取ったことや聴き取ったことを自分の言葉で表すのに時間がかかる。 		
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・感じ言葉シートを用いて、当てはまる言葉を選択肢の中から選べるようにする。 ・2つの選択肢の中から、答えを選べるようにする。(A児) ・注目してほしい要素に合わせて楽譜を提示したり、演奏動画を用いたりする。 ・二人で話し合いを行い、自分の意見だけでなく他者の意見を共有できるようにする。 ・聴き取ってほしいポイントを事前に提示する。 		
●成果と▲課題		アイデアの共有	
<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な映像を使うことで、音楽の要素に着目して鑑賞することができた。 ● 聴き取ってほしいポイントを提示することで、その場面に注目して聴くことができた。 ▲ 音楽を形づくっている要素に気付くことはできたが、時間がかかる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ A児へ質問をする際は、選択肢があったほうが良い。(すべてにおいて) ・ 愛加先生が目の前で弾く。 ・ プリントに書くだけでなく、身体で表現してみるのはいかがでしょうか。 ・ 曲を聞いて感想、言葉で表すのも良いが、身体で表現させるのはどうか。個々、表現の仕方が違っていても面白いと思う。 ・ 生徒がどのくらい知覚、感受しているか見とるために、プリントの他にも、強弱や速度を手の動きなどで表して、どのくらい感じ取っているのかやってみてもいいかも。 ・ 速度や雰囲気を聴覚の子に手拍子は難しいかも。例えば、歩く、走る(手の振りでもいい?)、スキップなどで、更にイメージが膨らんだりするかなと思った。AB組なので、ダンス的なものより、少し限定的な、とっつきやすい方法で。 ・ 聴覚の生徒が強弱や旋律をどのくらい聴き取れているのか、理解できているのかを把握する。 	

感想

- ・「感じ言葉シート」を参考にして、自分の言葉で表現する機会を繰り返し設けることで、普段はなじみが薄い音楽を表現する言葉に慣れ、自然と使えるようになっていくと思うので、とても良いと思った。
- ・「感じ言葉シート」便利！！
- ・「感じ言葉シート」は、考えられない、言葉にしにくい生徒にとって、とても良い手立てだと思います。
- ・話し合い活動すごい。話し合う生徒、素敵！
- ・ドキドキするという感じが「楽しい」につながるのも分かる気がした。
- ・友達感じたことを交流しやすくする工夫がとても良いと思いました。「理由」も言えるとなお良いと思いました。
- ・他の生徒がどう考えたのかを視覚で確認できていて、良いと思った。
- ▲音楽を視覚的に見せるのは難しいですね。オーケストラくらいしか思いつきません。
- ・曲の雰囲気、速度が分かりやすい曲なので、映画のシーンと合わせて見ることで、イメージが深まって良いと思った。
- ▲知っている曲と知らない曲では、感じ方に違いがでると思うので、どちらも扱うと鑑賞の幅が広がると思った。
- ・聴いたことのある、親しみのある曲想なので、生徒達も考えやすかった。
- ・鑑賞の学習を深く掘り下げて行っている実践をこれまで知らなかったので、勉強になりました。いろんなジャンルの曲を気軽に聴く良さもある(余暇として)ので、嫌にならない程度に学んでほしいと思いました。
- ・要素一つ一つに着目させるというのがよいなと思いました。言葉が少ない、言葉で表現することが難しい生徒達なので、「感じ言葉シート」は助けになると感じました。
- ・聴いて、要素に注目して感想を書くのは、難しいと思ったが、生徒たちがチャレンジするのは良いと思う。

授業改善後 ●成果と▲課題

【取り入れた手立て】※アイデア欄のマーカ一部分

- ・リズムの動きに合わせて手を動かしながら旋律を歌うことで、主題の旋律を捉えられるようにした。(身体で表現してみる、手を動かしてみる)
- ・音楽を鑑賞する前に、事前に考えてほしいこと(どんな楽器、どんな場所、演奏されている年代)を示すことで、ポイントに注目して鑑賞できるようにした。

【児童生徒の変容、様子】

- 身体を動かしながら主題を歌うことで、耳で聴くだけよりも旋律を捉えることができた。
- 曲想の感じ取ったことや気付いたことを自分の言葉で表現する活動を繰り返し行ってきたことで、自分の言葉で気付いたことや感じたことを書けるようになった生徒が増えてきた。
- ▲主題を歌ったり身体を動かしたりして表現をしてから、拡大楽譜を見て主題探す活動をしたが、楽譜を見て主題を探すことが難しかった。主題を見つけられるように、繰り返し歌ったり身体を動かしたりすることが必要であると感じた。演奏を聴いて主題が聴こえたら手を挙げてみても良いかもしれないと思った。

課題に対するアイデア(研究会内にて)

- ・楽譜を見て主題を探すことは、「楽譜をよみとる」という知識・技能が必要だが、現段階では難しそうではないか。「楽譜をよむことができる」までを狙うのか、進め方の検討が必要。
- ・同じフレーズがある等、気付いてほしいポイントを提示する。

・流れている部分を、枠で囲む等、視覚的に分かりやすい教材を準備してはどうか。

研究会での質問と授業者からの回答

1. ゴジラ、バグアウトザフューチャー、ハリーポッターの曲を選んだ理由は？
A→教科書に載っている曲で、イメージが湧きやすい曲であると感じたため。
2. A児、B児の音の強弱、高低は、どのように聞こえているのか教えてほしい。
A→強弱は分かる。高低は、難しい。メロディーの聴き取りはできている。
3. 自分以外の考え(感想)を聞いたときの反応や、考えの変化などがあったのか知りたい。
A→女子は、お互いにいろいろ話をしていて。男子は、一方的に話をする。
4. 質問項目の正解があるのか。それにたどりつくことができればいいのか？
A→質問項目は、教科書にあるものを簡単にしている。出してほしい答えを選択肢で提示している。
5. 音に合わせて、体を動かしてみましたか。
A→今回はやっていません。
6. こちらが意図しない意見が出たときどうするか。(感じ方は人それぞれ違うことがありますが)
A→生徒の話した意見の内容から、こちらが答えてほしい内容に重なる部分があれば、その意見を採用するようにする。

6 実践のまとめ

2年次の研究について、職員アンケートを実施した。

【実践を通して、児童生徒の主体性を引き出す授業づくりができたか】

- ・できた 44%
- ・少しできた 56%

【授業実践シートは有効に活用できたか】

- ・できた 40%
- ・少しできた 48%
- ・できなかった 12%

→1年次は職員全員が授業実践したが、今年度は作成しなかった職員もいたため、できなかったと回答した職員も多かった。

(1) 成果

- アンケートの結果から、授業実践を通して、児童生徒の主体性を引き出す授業づくりができた。
- 授業実践シートを活用しての授業提案→研究会(意見交換やアイデアの共有)→授業改善→研究会(授業改善後の様子について)のサイクルで実施することができた。

○実践シートを有効に活用することができた。アイデアの共有欄があることで、単に授業の良し悪しに終始せず、自分ならという視点で考えることができた。

○知的「音楽」は多くの職員が授業に関っている教科だったため、それぞれの立場でたくさんの意見交換ができ、とても貴重な機会となった。生徒への支援方法、教材・教具の活用、主体性を引き出すにはどうすればよいかについて、授業改善することにつながった。

○実践の積み重ねができた。

(2)課題

●実践シートを活用していくには、様式の検討は必要である。アンケートからの意見は以下の通りである。

- ・実践シートについて、様式の中に教材(写真や説明欄)があるとよい。
- ・日常的に授業実践に活用するやり方がよい。
- ・年間指導計画などとリンクさせると評価にもつながるのではないか。

●グループワークのように小グループで話し合うほうが意見を出しやすい。

7 2年次研究のまとめ

2年間の研究を通して、実践シートの作成、授業展開、研究会、授業改善～授業実践のサイクルで、児童の主体性を引き出す授業づくりをすることができた。日々の授業を充実させることや日常的に授業実践に活用できないかという意見もあったことから、今後も一つのツールとして実践シートを活用できるようにしていきたい。

研究主題

社会人・職業人として自立できる実践的な知識・技能・態度を育む支援のあり方

～高等部段階でのキャリア教育の視点から～

1 主題設定の理由

本校舎の高等部生徒は、病弱と肢体不自由、知的障がいを中心とする生徒が在籍している。教育課程は複数あり、生徒の実態は多岐に渡る。

前次研究では、「豊かな学び」を実現させ、「卒業後につながる力」を育てるべく、多様な生徒の実態に応じた自己評価方法や指導のあり方について、作業学習を中心に授業実践を行い、明らかとした。同時に、課題も挙げられ、引き続き、多様な実態の生徒に応じた支援のあり方を探っていきたいと考える。

そこで、全校研究のテーマである「主体性を育む支援」を目指し、「社会人・職業人として自立できる」力をキャリア教育の視点を踏まえて検討することで、より丁寧に生徒への支援に取り組めるのではないかと考え、本主題を設定した。

2 推進計画

実施日	研究活動	内容
4月16日	第1回全校研究会	
5月14日	学部研究会①(全体)	1年次の取り組みの確認と、研究方針や研究方法の検討 各研究グループの目指す姿の協議 対象教科及び単元・対象生徒、時期の決定 アンケートの実施
6月	学部研究会②(グループ)	授業実践、授業研究会
7月	学部研究会③(グループ)	授業実践、授業研究会
9月	学部研究会④(グループ)	授業実践、授業研究会
10月	学部研究会⑤(グループ)	授業実践、授業研究会
11月21日	学部研究会⑥(グループ)	グループ研究のまとめ(生徒の変容の振り返り) まとめアンケートの実施
12月16日	学部研究会⑦(全体)	まとめアンケート結果による成果と課題の確認 来年度の方針の確認
1月21日	学部研究会⑧(全体)	学部研究まとめの確認
2月20日	第2回全校研究会	学部研究の発表、全校研究のまとめ

3 高等部における、めざす「主体的な姿」

(1年次)

- ・生活を豊かにするための基礎的な学力を高める
- ・なりたい自分を描き、自己選択・自己決定する力を高める
- ・自己実現、進路実現に向けて、進んで活動に取り組み、自己有用感を高める

(2年次)

各グループでめざす「主体的な姿」の具体的な姿を設定した。(実践シート参照)

4 1年次の研究概要

1年次は、全員が一事例ずつ、対象の指導場面や生徒を設定し、実践シートの作成を行った。授業実践を動画に記録し、協議は小グループで行い、アイデアを出し合い、実践者へ還元する形で取り組んだ。授業実践シートの様式項目は生徒の実態、キャリア教育で育成したい力、目指す姿、研究会でのアイデアの共有とした。

職員にアンケートを行った結果、「成果があった」と答えた職員は77.8%だった。成果は、課題を解決するアイデアについて協議することにより、生徒の指導に役立てたり、普段関わらない生徒の実態を共有したりすることができたことだった。課題としては、実践数が多く、研究会で動画を見てアイデアを出し合う時間が足りなかったことや、アイデアの協議後の取り組みの改善状況が分からないという意見があった。

5 2年次の研究実践

(1) 研究方針

2年次は教育課程や学年が同じ職員で構成するグループ内での一つ以上の事例について協議することとする。小グループで目指す主体的な姿を設定し、対象の指導場面や生徒を決め、対象場面について授業実践シートの作成を行う。実践時の動画を撮影し、動画と実践シートを活用してアイデアを共有するために意見交換を行う。アイデアを取り入れた改善後の授業実践や主体的な姿の評価についても意見交換を行う。また、活用したアイデアや授業改善後の生徒の様子について学部全体に情報共有をする機会を設ける。

(2) 実践シートの活用について

令和6年度の実践シートに関する課題を受け、「生徒の実態、めざす主体的な姿、キャリア教育で育成したい力(図2)、手立て、研究会でのアイデアの共有」に加えて、1枚で1回目の実践から改善後の実践までの経過が分かるように、新たに「授業の成果及び課題」と「授業改善後の生徒の様子」について項目立てした。

令和7年度 授業及び指導実践シート (高等部)

授業(実施)日		学年・組	
単元名 (指導場面)		授業者 (指導者)	
実態把握 (個人または学習 グループ全体)			
めざす 主体的な姿	各グループで設定した内容に応じて記入		
キャリア教育で 育成したい力*			
手立て			
授業の 成果及び課題			
アイデアの共有(アイデアや感想を入力してください)			
①			
授業改善後(取り入れたアイデアや生徒の変容等)			

【図1 実践シート】

	知的・重複	準ずる教育
健康・体力	生活リズムを維持する力 働くために必要な体力	心身の調整力 働くために必要な体力 健康的な生活を維持する力
豊かな人間性	仲間との協力 余暇を楽しむ	いろいろな人と関わる力 自分の気持ちや考えを伝える力
確かな学力	日常生活に必要な基礎的な学力	基礎的学力 よりよく判断・表現する力
将来設計力	卒業後の生活を具体的に見通す力 自己選択・自己決定する力	将来を具体的に見通す力 自己選択・自己決定する力
職業観・勤労観	主体的に働く力 自己有用感の向上	主体的に働く力 自己有用感の向上
社会を把握する力	社会の出来事に関心をもつ 公共施設の利用の仕方をも身につける	主体的に社会と関わる力 必要な支援を利用する力

【図2 高等部段階におけるキャリア教育で育成したい力】

(3) 授業実践と授業改善

各グループで1つ以上の場面で実践を行い、実践シートを作成し、アイデアの共有を行い、授業改善を行った。授業実践については以下のとおり。

実践	グループ	対象授業
1	A	HR、各教科
2	1C	数学「大きな数」
3	1C	日常生活の指導「朝の運動」
4	2C	生活単元学習「修学旅行」
5	3C	総合的な探究の時間「進路学習」
6	D1	日常生活の指導「朝の準備」
7	D1	日常生活の指導「あいさつ」
8	D2	体育「ダンス」

【図3 授業実践一覧】

令和7年度 授業及び指導実践シート(高等部)

授業(実施)日	6月～7月	学年・組	1年A組 Aさん
単元名 (指導場面)	HR、各教科	授業者 (指導者)	小山、滝村、各教科担
実態把握	<p>【健康の保持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓や身だしなみを整えることが難しい。 ・生活リズムや基本的な生活習慣(食事・睡眠・排せつ)が身に付いていない部分がある。 <p>【心理的な安定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団や初めての場所への不安をもつことがある。 ・自分の困難さの状態を理解したり、受容したりしている。 ・人が多いところや視線が集中するところが苦手であり、不安定になってしまう。 ・「汚れる」ことを極端に嫌い、手や物などを水洗いしてしまう。 <p>【身体の動き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体幹が弱く、長時間の姿勢保持が難しい。 ・ボディイメージをもつことが難しく、体操の動きなど模倣できていない。 ・左肩が常時あがっており、廊下を真っすぐに歩くことが難しい。 <p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを伝えることができる。 ・友達との交流の仕方が分からず、相手の嫌がることをして気を引こうとすることがある。 ・その都度声掛けをしなすと、敬語を使うことが難しい。 <p>【学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートへの書き写しが遅い。 ・自分のルールで計算式や日誌を書いてしまう。 		
めざす 主体的な姿	<p>①基本的な生活習慣の確立 (服装や頭髪を正しく整えることができる、元気よくあいさつをするなど)</p> <p>②自分の役割に責任をもち、進んで活動に取り組む (自分から係の仕事を行うことができる、HRの進行をスムーズに行うことなど)</p>		
キャリア教育で 育成したい力※	<p>①総合生活力(健康・体力)…働くために必要な体力、健康的な生活を維持する力</p> <p>②人生設計力(職業観・勤労観)…主体的に働く力、自己有用感の向上</p>		
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌を用いたチェック表を作成し、自己評価と他者評価を定期的に行う。 ・整理整頓をする時間を設け、机上の整理がしやすいように、机を拡張する。 ・ズボンのチャックを閉め忘れないように、チャックにキーホルダーを付け、目立つようにする。 ・実習では、作業に必要な手順表を作成する。 		
授業の 成果及び課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェック表を用いたことで、「できること」と「できないこと」を把握することができた。 ・なぜ「できる日」と「できない日」があるのか、考えることができた。 ・整理整頓をすることで、「物を探すことが楽になった」と話していた。 		

【課題】

- ・自己評価がとて高く、他者評価との乖離がある。
- ・他者の意見を素直に受け止めることができず、言い訳をしてしまう。
- ・「できる」の捉えが、異なっている場合があり、マイルールを作ってしまう。
- ・授業終わりは余裕がなく、片付ける時点で教科書を横置きにってしまう。
- ・注意をされて直しても、その場だけで次につながらない。

アイデアの共有(アイデアや感想を入力してください)

①生活面での課題が多いため、優先的に取り組むべき内容について、共通理解を図りたい。

- ・項目が複数あるチェック表は難しいため、内容を精選し、目標を2つに絞る。
- ・メタ認知が難しいので、動画を撮影し、本人と確認する。
- ・チェック表の記入では、×を書きたくないことが分かったため、◎・○・△に改善する。
- ・「おはようございます。」「おつかれさまです。」のような基本的な挨拶をすることから始める。
- ・正しい姿勢を維持できる体力を身に付け、正しい姿勢を具体的に伝える。
- ・指導においては、役割分担を行い、連携しながら進める。
- ・本人が、他者の意見を聞いて良かったと思える経験を増やし、今後につなげたい。

授業改善後(取り入れたアイデアや生徒の変容等)

【取り入れたアイデア】

上記の「アイデアの共有」の内容

【生徒の変容】

- ・校内実習中の目標を「自分から挨拶をすること」「話を聞くときは姿勢を正す」の2つに絞ることにしたことで、達成すべき目標が明確となり、実習後にも意識して行う場面がみられた。
- ・視覚優位であるが、処理速度が遅いという実態があり、書く内容を精選する必要がある。生徒の実態と教科の特徴を生かした授業づくりが必要である。今後も、進学という進路を見据えて、対応を考えていく。
- ・正しい姿勢を○秒維持することから始めたり、体力づくりを取り入れたことで、授業中に足を組むことが少なくなった。また、指摘すると正しい姿勢に直すことができた。体育においては、フライングディスクが上手できるようになったことで、とても喜んでいて。今後の方針として、作業療法士と相談しながら、進めていきたい。
- ・分からないことや予想外のことが起きると、「なんで?」「やだよ」と反抗的な態度になってしまうことが分かった。できるだけ事前に予告したり、自分の対応について振り返ったりしながら、様々な経験を増やしていきたい。
- ・今までの経験からか、自分を守るために攻撃的な言動がみられることがある。その背景を理解し、対応を考えていく必要がある。まずは、本生徒にとって、学校が安心できる場所となるように努めたい。
- ・校内実習を経験し、時間はかかるが他者の意見や助言を受け入れることが少しずつ増えてきたように感じる。慣れない環境や初めての活動の場面では、素直に受け止めることが難しいが、納得して次の行動に移すことができるように支援していく。

最後に、指導について共通理解を図り、その都度情報を共有しながら改善を行うことができた。小さな変化ではあるが、生徒自身の心情や行動に変化がみられたことは嬉しい。校内実習後には、「実習で立派になったから、来週会ったらびっぴりすると思うよ。」と本人なりの達成感を感じている様子もみられた。今後も生徒の気持ちに寄り添いながら、社会人・職業人として自立できるように、成長を見守りたい。

令和7年度 授業及び指導実践シート(高等部)

授業(実施)日	1回目6月5日、2回目10月23日	学年・組	1年C1・2組 (数学がんばり隊グループ)
単元名 (指導場面)	数学	授業者 (指導者)	菊池信也
実態把握 (個人または学習 グループ全体)	大きな数を扱うとき、読まれた数字を一般的な数字(アラビア数字)に表記する際に桁を間違える生徒がいる。特に途中の桁がゼロとなるような場合(4桁の数字であれば、2桁目、3桁目が0の場合など)その桁を書かずに桁数の少ない間違った数字を表記してしまう。(例:読まれた数字4506を456と記入してしまう。)		
めざす 主体的な姿	大きな桁数の数字を正しく表記し、自信を持って発表できる		
キャリア教育で 育成したい力※	日常生活に必要な基礎的な学力		
手立て	1行のマス目に桁と単位を記した記入表を作成し、桁と単位を視覚的に確認できるようにした。その記入表をラミネートし、ホワイトボードマーカーで消しながら何度でも使用できるようにし、問に答える際に数字の並びを確認できるようにした。		
授業の 成果及び課題	<p>各桁の単位を確認しながら数字を記入できるので、間違いは大きく減った。ただ時々、言わない桁がある場合(表記上0になる場合)に、記入せず空欄にしてしまう生徒がいた。この場合そこには0が入ることを説明するとそのような間違いもなくなっていった。</p> <p>ただ、ゆっくり数字を言った場合であっても、記入が追いつかない生徒もいることから、2度繰り返し言っている。ただ、そのように行った場合でも記入が追いつかない生徒もいることから、認知的力を高める効果があるといわれているウォーミングアップ的なエクササイズも行いはじめた。特にBさんは他の生徒より大幅に遅れることから、学習内容が十分に定着しないまま、次の学習に進まざるを得ないことが考えられ、少しでも進度を早める力を育成する手段となりうることを願っている。</p> <p>今後の課題は、桁の大きな数字を聞いた後、記入表に頼らずに数字を正確に書き並べることができること、聞いた数字をそのまま電卓に打ち込みながら、正確な計算結果が得られるようになることである。</p>		
アイデアの共有(アイデアや感想を入力してください)			
<p>① 聞いた数字をもとに正確に数字を電卓に打ち込み、計算結果を正確に得るためにはどうするか。</p> <p>② Bさんの遅れ気味な学習活動のペースに対してどのように対応するか。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・生活上の学習を重点にするのであれば、桁数を1万、あるいは、10万程度までの指導でよいのではないか。 ・お金を使ってみてはどうか。使う必然性の状況を考えて、お金を使用する学習を取り入れる。 ・数字、値段を聞いてというよりも、見た数字を正確に理解できるようであればよいのではないか。 ・3年間あるので、1年生段階ではどこまで身につければよいか、身につけさせるべき内容の検討があるとよいのではないか。 ・帯活動として、5分程度毎回授業で継続して取り組んでいくとよいのではないか。 ・Bさんの主体性を引き出そうしている指導の様子がわかった。 ・5桁(万)まで覚えられれば十分なのではないか。 ・ビジョントレーニング、脳トレ的な活動もウォーミングアップ的に継続してやっていきたい。 ・ポイント制でゲーム感覚でやってみてもよいのでは。 			
授業改善後(取り入れたアイデアや生徒の変容等)			
①帯活動として、5分程度毎回授業で継続して取り組む。			

・ひらがなで書き表した数字をアラビア文字で書き表す学習をしばらくぶりで行ったところ、忘れていた生徒が多かったが、繰り返し学習することで理解できた。短い時間での常活動を継続的に実施し今後も定着を図りたい。

②計算をポイント制で行う。

・最初に20マス計算を行う際に、順位を競うよりポイントを与えるようにしたところ、Bさんの計算速度が非常に増し、これまで2～3問くらいしか解けなかった問題を全問解くようになった。競争しポイントを得ることがモチベーションになり積極性が増したと思われる。また、自分から手をあげるようになった。

③数字、値段を聞いてというよりも、見た数字を正確に計算することに取り組む。

・聞き取りによる数字の書き表しをやめて、見て確認できる数字表記問題にしたことで、よく考えるための余裕が生まれ、正確な数字表記につながるようになった。

実践3 1Cグループ②

令和7年度 授業及び指導実践シート(高等部)

授業(実施)日	6月5日	学年・組	1年C1・2組(日生2グループ)
単元名 (指導場面)	日生	授業者 (指導者)	千葉史恵
実態把握 (個人または学習 グループ全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・外でランニングができるときは、10分間走、雨天時は室内の筋力トレーニング等に取り組んでいる。 ・走ることに苦手意識を感じていたり、体力に課題があったりする生徒がほとんどで、走ることに気持ちが向かず、すぐに歩いたり、不調を訴えたりすることが多く、10分間、一定のペースで走ることや、時間まで走りきることが難しい。 ・先輩を目標にすることで、周回数を伸ばす場面が増え、同じ学年の仲の良いメンバーでまとまって歩くことが減ってきている。 ・室内での活動では、筋力トレーニングを嫌がり、不調を訴えて取り組めない生徒や活動の中でのにぎやかな声などが不快で、活動に取り組めない生徒もいる。 		
めざす 主体的な姿	体力をつけるために、自分で決めた周数やトレーニングに取り組むことができる。		
キャリア教育で 育成したい力※	健康・体力:働くために必要な体力		
手立て	<p>(今回は外でのランニング、リズム運動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走力が近い先輩たちとグルーピングをして、グループごとのスタートで走り始める。 ・走り始める前の目標周数、達成できたかの確認で達成感や次回の周数の目標を意識できるようにする。 ・教師と相談しながら、自分の現在の体力に合った目標周数の設定をする。 ・後半にリズム運動など、楽しい活動を準備する。 		
授業の 成果及び課題	<p>【成果】・走力が近い人と一緒に走ることで、お互いに意識し合って取り組む姿が見られた。</p> <p>・歩きがちな生徒も、先輩を目標に走り、周回数をのばすことができた。</p> <p>【課題】・グループから遅れ、一人で走り始めるとペース配分ができず、走るのをやめてしまうことがあった。</p>		
アイデアの共有(アイデアや感想を入力してください)			
① 走力にばらつきがある	<ul style="list-style-type: none"> ・グルーピングして走ったのは、初めて。10分間走がいいのか、別の方法がよいのかは迷うところ。 ・5分間走も検討してみる。 ・インターバルトレーニング形式を取り入れていくとよいのではないか。コースの山側は走る、畑側は歩くなど。また、差が開かないように、走りが遅いチームは、トラック半周のところ、ショートカットで戻るのはどうか。遅いチーム→速いチームの順で走らせる(半周チームと1周チームに分けて走らせることで、チーム全員そろってまた再スタートできる)。 		

② 周回数の発表について

- ・自分で目標を決めることで、自分で頑張ろうとすることができるのではないか。
- ・記録用紙を使用するのはどうか。夏休みまでの目標を設定したり、毎日の達成のようすを記録したりするようなもの。
- ・その日のトレーニング内容(腹筋10回等)と達成したらシールを貼るようなもの。
- ・タブレットを活用し、記録させる。
- ・トレーニング項目が書かれたビンゴ形式の用紙にして、個々にチャレンジさせていく方法はどうか。
- ・回数等のカウントについては、ペアで取り組ませるのはどうか。先輩と後輩で組ませることで、頑張る意欲も増すのではないか。
- ・ホワイトボードを使って、その日の全員の目標回数を設定し、練習後に達成できたかどうかのチェックと評価を全体で確認できるのではないか。前日の結果もあるとよいのではないか。
- ・練習内容項目を固定する。

③ その他

- ・体を動かすバランスが難しかったり、動きにぎこちなさがあったり、筋力をつける必要がある生徒もいる。今回の後半で取り組んでいたリズム体操的なものも続けていくとよいのではないか。

授業改善後(取り入れたアイデアや生徒の変容等)

① 5分間走、インターバル走

- ・10分→5分の取り組みでも、2, 3年の数名の生徒は走り切れるものの、1年生については、途中でとまりがちであった。
- ・インターバル走では、短い距離ということもあり、普段すぐに歩いてしまう生徒もゴールまで止まることなく、速いペースで走りきることができた。これまで外でのトレーニングでは、インターバル走の内容に取り組み、2グループの生徒たちに効果的だということが分かったので、今後も外での活動では取り入れていきたい。
- ・暑い時期ということや、走る活動としては、インターバル走に切り替えたことで、長く走り続ける内容には取り組めなかったため、アイデアをいただいた周回数のカウントについては、未実施。走力がついてきたら、今後、取り組んでいきたい。

② ペアでの活動

- ・室内の活動では、内容により取り組みを渋る傾向のある1年生と先輩のペアを作り、最初は先輩に声をかけてもらいながら、決められた内容に取り組むことができた。その後、様々な活動で、ペアでの取り組みは効果的。内容によっては、一人で取り組むものもあり、渋る生徒もいるが、声をかけると参加できるようになってきた生徒もいる。

③ リズム体操や、いろいろな体の動かし方のトレーニングの継続

- ・筋力トレーニングのような形よりも、ゲーム的な活動の中に様々な動きを取り入れると、積極的に参加できる生徒が増えたので、継続したい。

実践4 2Cグループ①

令和7年度 授業及び指導実践シート(高等部)

授業(実施)日	9月10日	学年・組	2年C2組 Cさん
単元名 (指導場面)	生単(修学旅行事前学習)	授業者 (指導者)	森岩 優子 佐々木 幹斗
実態把握	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に気を遣い、自分を後回しにしてしまうため、自分の気持ちや考えを積極的に表出することが少ない。 ・発言・質問するまでに考え込んでしまい、時間がかかる。 		
めざす 主体的な姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや考えを伝える力を高める(豊かな人間性) ・必要な支援の受け方や利用方法を身に付ける(社会を把握する能力) 		
キャリア教育で 育成したい力※	自己選択・自己決定する力		

手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行を楽しむために、自分達で情報を得る必要があることを伝え、それぞれが知っていることを発言する場面を作る。 ・以前から興味があったものや、新たに挙がった情報の中から興味深いと感じたものを選択する場面を作り、選択したものをさらに掘り下げるためにはどう調べたらよいか、助言する。
授業の成果及び課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行先に大阪について、学級でさまざまな名物を挙げたことで、その中から調べたいものを選択して発言することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習については、調べるためのキーワードや手掛かりをもっと具体的に提示すればよかった。
アイデアの共有(アイデアや感想を入力してください)	
①調べている最中の操作や画面を見られるのが苦手なのか、あまり教師に相談することは少なく、自分で「大阪」などのワードを入力してしらべていたが、なかなか絞り切れない様子だった。主体的に目的をもって調べるためには、どのような働きかけ、声かけが必要か？	
<ul style="list-style-type: none"> ・見立てよりも、調べ方が分かっていない様子なので、調べるためのキーワードを提示する。または、どう調べると欲しい情報にたどり着けるかを具体的に提示する。 ・調べた内容や知っていることについて座席順に質問していったが、他の生徒が積極的にたくさん答えてしまうと、答えが重複したりして答えることがなくなっている様子がある。発問の順番を変えるだけでも、他の生徒にとっても答えが出しやすくなると思われる。 	
授業改善後(取り入れたアイデアや生徒の変容等)	
<p>【取り入れたアイデア】</p> <p>調べるためのキーワードを提示する。または、どう調べると欲しい情報にたどり着けるかを具体的に提示する。</p> <p>【生徒の変容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道頓堀でどのように行動するか調べ学習では、道頓堀のマップを見ながら、教師と相談し飲食店や有名な看板の種類を絞り込んだ。事前学習の発表に向けて、どの店に行くか、その店のどの写真を使うかを自分で選び、スクリーンショットなどをしながら掲示を作ることができた。 ・興味があることを表出するのも苦手だったが、学級単位での調べ学習では、ガイドブックやマップ、ipadを見ながら、教師にいろいろ質問したり自分が食べたい物を伝えたりして、意欲的な面が見られた。 	

実践5 D1グループ①

令和7年度 授業及び指導実践シート(高等部)

授業(実施)日	前期実習後の7月～8月、 後期実習後の10月	学年・組	3年C2組 Dさん
単元名 (指導場面)	生単または総合	授業者 (指導者)	阿部文子
実態把握	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れ親しんだ職員とは、対話ができおり、心配ごとにも早めに相談できるようになっている。また、笑顔も多く、冗談を言ったり、仲間を称賛したりなど、明るい面がある。 ・常に遠慮しがちで、自己肯定感が未だに低い。 ・特定の生徒に体を触られるなど、嫌な行為を何度もされ、相談してきている。パーソナルスペースについて全体指導をしているが、効果は薄い。本人から「やめてください」となど、言葉で断ることができない。本人が言うには、「自分は言葉で伝えようとすると乱暴な口調になり、手を出してしまう」ということだった。 		

	・授業や実習先でも担当職員などが忙しそうにしていると、遠慮をしてしまい、報告や相談の機会を逃し、離れたところで待ち続けていることが多い。普段からも作業速度がゆっくりである上、その影響で、益々作業量がこなせないでいる。
めざす主体的な姿	卒業後の生活を考え、なりたい自分を描き、自己選択する力、自己決定をする力を高めている姿。作業学習や実習を通して主体的に働く姿勢を身に付けるとともに自己有用感を高めている。
キャリア教育で育成したい力※	職業観・勤労観 主体的に働く姿 自己有用感の向上
手立て	・学級のメンバーと、コミュニケーションに関する内容のワークシートに取り組む。 ・PPを使用した〇×クイズを提示する。ワークシートで記入したことを発表したり、クイズの正解とその理由を聞いたりし、コミュニケーションを大切さを理解する時間を設ける。
授業の成果及び課題	前期実習後に実践したところ、遠慮しがちな面が自身を苦しめてしまう傾向があり、学級の仲間とコミュニケーションについてワークシートやPPで幾度と学習した。後期実習後には徐々に成果が表れてきた。
アイデアの共有(アイデアや感想を入力してください)	
相手の行動や様子に応じた適切なコミュニケーションができるようになるためには	
<ul style="list-style-type: none"> ・対教師ばかりではなく、友達に「遠慮しなくていいよ」「譲らなくて大丈夫だよ」など励ましてもらう機会を設けたほうが良い。 ・本人自身、自分が作業速度遅いことを感じている。「もっと早く！」の声かけだけはプレッシャーになり、自信をなくする。作業が遅いことを指摘せず、同じ作業を繰り返すと必ず早くなるということを信じて行い、速度が速くなったときに褒めると効果的である。 ・関係機関に相談できる方法があることも分かるとよい。 	
授業改善後(取り入れたアイデアや生徒の変容等)	
<p>【取り入れたアイデア】 上記の「アイデアの共有の内容」</p> <p>【生徒の変容】 本人は、相変わらず遠慮がちであるが、入学時より、自己肯定感が上がり、笑顔も多くなってきている。 前後期の実習先への就労に向け、前向きに取り組んでいる。実習先では、笑顔と挨拶、丁寧な言葉遣いや謙虚で素直な態度が好評である。また、手を抜かずに丁寧に綺麗に仕上げようとしたり、ルールに従って取り組んだりする姿勢も評価を得ている。スタッフとの関係も良好であった。様々な学習と同様に、技術の習得までは時間を必要とするため、本人は作業速度等が課題だと感じているが、実習先では、積み重ねて覚えていく生徒だと理解し、丁寧さを重視して取り組む姿を褒めていただいている。 本人は、就労先での人間関係や土日が必ず休日でないことが気になると話していた。仲間と一緒にプラス思考になるよう学習の中で支援していきたい。 心配な点としては、強い口調の指示や上から目線と感じられる人、挨拶を返さない人、パーソナルスペースを守らない人を苦手としている。周りから「そういう人もいるよ」と励まされて解決するような簡単なことではない。将来、幾度と悩むのではと感じられる。 残り少ない学校生活を楽しみ、自己肯定感をもって取り組めるよう、高等部の先生方からもアドバイスや励ましなどの多くの支援をいただければと思う。 先日、就労支援機関の見学では、卒業後に何かあって困ったときに相談できる場所だと分かり、安心していたのがとても良かった。</p> <p>【〇×クイズの回答】 Q:学校(就労先)で、登校(出勤)時に苦手な人とすれ違います。あなたはどのようにしますか？ ・前期実習後も後期実習後も一挨拶はするが、心はこめない。 苦手な人を、ずっと拒む傾向があるが挨拶は必ず行う気持ちでいる。</p>	

Q:忙しそうにしている職員に必ず報告しなければならないとき、あなたはどうしますか？

- ・前期実習後—距離をとって待っている。別な人が自分より後に報告しようとした場合、順番を譲る。
- ・後期実習後—最初は、様子は見るが、時間を置かずに「すみません。今よろしいですか」と聞く。

職員への報告の際、「今よろしいですか」の確認を心掛けるようになった。

Q:学校(就労先)で体調不良になったら、あなたはどうしますか？

- ・前期実習後—我慢して作業をする。遠慮して我慢する。
- ・後期実習後—少しぐらいなら我慢する。ひどくなってきたら、さすがに「少し休んでもいいですか？」と報告する。

報告が困難になる前に、体調不良の報告をし、少し休んで復活を試みることを意識できるようになった。

Q:学校(就労先)で仲間や職場関係者から頻繁に体をベタベタ触られるようになったら、あなたは、どうしますか？

- ・前期実習後—職員に相談する。触る相手から距離を置く。近づかない。
- ・後期実習後—職員に相談する。

R7はすぐ相談することができた。学校で起きた不審なことは、すぐに職員に相談できるようになった。

(昨年度、特定の人物から触られることが頻繁にあり、2か月後に相談してきた。相談が遅いのが課題だった。)

実践6 D1グループ①

令和7年度 授業及び指導実践シート(高等部)

授業(実施)日	5/19(水)	学年・組	2年D1—3組 Eさん
単元名 (指導場面)	登校から朝の準備	授業者 (指導者)	菅原岳人
実態把握 (個人または学習 グループ全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・現状はすべての行動に職員がつき、一人で行動することはほとんどない。 ・大まかに一人で着替えることができるが、襟を整えたり、踵をつぶさずに履いたりすることができない。 ・一人でトイレに行くこともできるが、お尻の拭き取りができない。促しがなければまき散らした尿を拭くことや手を洗うことが難しい。 ・着替えた服や帽子について、現在は名前を書いた本人用のかごにしまうように指導しているが、空いているかごや、友だちのかごに適当に入れてしまうことがある。入れたことを忘れて、着替えがなくなっても職員に助けを求めることができず、下着のまま直立している。 		
めざす 主体的な姿	朝の準備(着替え、提出物の提出、トイレ)を自分から一人で行うことができる →(意見交換後に変更)着替えや持ち物の準備を自分から一人で行うことができる。		
キャリア教育で 育成したい力※	健康・体力 生活リズムを維持する力		
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・着替えについて、赤い色に反応を示すことが多いので、本人の着替えを入れるかごにのみ、赤いスズランテープを巻いて目印にしている。帽子は本人の帽子をかける用のフックを用意し、テプラで「(なまえ)ぼうし」という表示を付けてそこにかけるように指導している。 ・トイレについて、担任とトイレに入った際は、拭き取りの練習を2回行い、最後に職員が仕上げを行うようにしている。また、排尿の際、立ちの便器で行くと、お尻を丸出しにしてしまうため、今後家庭での時間も増えることから座って排尿するように指導している。担任と排便、排尿に行く際はドアを閉めて鍵を自分から閉めるが、家庭では開けたままでしている。座って排尿するようになってから床にを汚してしまうことが減ってきた。 		
授業の 成果及び課題 ○成果 △課題	○赤い目印を付けてから帽子を忘れることや自分の着替えを入れるかごに服を確実に入れることができるようになった。作業の際もEさんの作業内容のみ赤く困ってもらうことで、自分から書くことができるようになった。		

△トイレに一人で行くことに挑戦してみたが、パンツに残尿を付けてしまったり、手を洗わずに出てきたりした。トイレにはもっと大きい目印が必要。

アイデアの共有(アイデアや感想を入力してください)

①今行っている着替えの支援以外で効果がありそうな支援や指導の方法

②色に特に反応を示す生徒であるため、その特性を利用した支援の方法

①今行っている着替えの支援以外で効果がありそうな支援や指導の方法

・声掛けでできていること以上に、どこまで一人でできるようになってほしいのか。声掛けなしでできるようになってほしいなら、視覚的に着替えの手順を示すことや、着替えてほしい実物(作業着など)を渡すことで着替えることが難しいのか。→今日の予定に書いてある「さぎょうぎ」「うんどうぎ」を見て判断することが難しい。

・「さぎょうぎ(赤で書く)」「うんどうぎ(青で書く)」作業着は赤い袋(かごでも OK)に入れ、運動着は青い袋(かごでも OK)に入れるなどはどうか。

②色に特に反応を示す生徒であるため、その特性を利用した支援の方法

・着替えのかごに赤いスズランテープの他に、入れるべきものの写真を貼ったらどうか。(帽子、運動着など)ものの名称とものそのものがマッチングできるなら。→ものの名称は理解しているが、注視が難しい。

・他生徒だが、赤はもえるごみ、青はもえないごみと色で理解している生徒はいる。色での支援は良い方法だと思う。生徒の持ち物に赤いテープを貼るとか、リボンのようなものを付けるとか。トイレの個室に誘導したい場合、入ってほしい個室に赤いテープを貼るなど。

・服薬調整があり体調が関係しているのであれば、今後できるようになるものなのかも見極めも必要なのではないか。

・一人でできるようになってほしい部分の目標をもう少し狭めて見ていった方が良い。

・今できていることも褒めながら、卒業までにどこまでひとりできて、どこから支援が必要で、どんな支援でできるのか、誰に支援されてもできるのか明確していくことが必要ではないか。

授業改善後(取り入れたアイデアや生徒の変容等)

【取り入れたアイデア】

着替えのかごに赤いスズランテープの他に、入れるべきものの写真を貼ったらどうか。

【生徒の変容】

・目印がついてから、決められた場所に自分から物を片付けたり出したりすることが増えて、教師から声を掛けることが少なくなった。

・本人の名前シールの両端に赤い丸シールを貼ったことで、帽子を自分で引っ掛けるようになった。

・着替えのかごには、赤いスズランテープの他に本人が自分で選んだ写真を貼った。赤に反応しているのか、顔写真があるからなのかは分からないが、着替えの際、他の生徒と間違えることはなくなった。

・連絡帳の提出も流れでできるようになってきた。(動画の日は、他生徒が先に連絡帳を提出していたため、真似て所定の場所に提出できた可能性もある)

・トイレの自立はまだ難しい。

【改善後の取り組みや成果に対する意見】

・赤い丸シールで自分の置き場所が分かったのは大きな成果だと思う。

・学級外でも同様に活用してもらえるように、ラミネートをかけて赤い丸シール付きのネームカードを多く作成しておいてはどうか。現場実習先でも使ってもらえそう。

・工芸班の作業内でも活用できそう。

・トイレについては、衛生面を理解して行動するのは難しい実態であるため、完全な自立は難しいかもしれないが、行動の流れとしてネームカードを活用して個室で排尿する習慣にすれば、ズボンを汚すことはないかもしれない。

・手を洗ってからトイレを出ることも、ネームカードを頼りに流れに組み込めたら良いのでは。

・引き続き実践を続けてもらい、成果や課題を共有してほしい。

令和7年度 授業及び指導実践シート(高等部)

授業(実施)日	7月	学年・組	D1-1 Fさん
単元名 (指導場面)	日常生活	授業者 (指導者)	関谷、小野寺、関山
実態把握 (個人または学習 グループ全体)	コミュニケーションモードが不明であり、聴覚活用も不明な時がある。(本校実施の聴力測定では異常なし)温厚な性格で、活動参加に対して抵抗はないが、指示を待っていることが多い。2, 3の手話を使うが自発的な意思を伝える方法が確立されていない。		
めざす 主体的な姿	積極的な人とのかかわりを増やす。 音声で挨拶をすることで人とのかかわりを広げる。		
キャリア教育で 育成したい力※	仲間との協力		
手立て	帰りの挨拶の場面で、音声を活用してクラスメイトに個々に行うことにより、挨拶の方法への理解を深める。		
授業の 成果及び課題	音声言語を活用できることに驚き、大変うれしかった。		
アイデアの共有(アイデアや感想を入力してください)			
①今後も音声活用を続けていきたいと思うが、具体的な方法やコミュニケーションを広げる方法を知りたい			
<p>◆副担任より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語リハに通っているが、どんなリハビリをしているかが不明。何ができて何ができないのか知りたい。学校では、おはようの「お」は出るが、苗字の頭文字は出ない。 ・家でも話しているのか。家庭訪問で聞いてみたい。2つのことを指示した時、理解が難しそう。1つの指示で理解して行動に移せている。 <p>◆Gさんの発語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食の際に食材を使って先生とやり取りをすることがある。 → みかんを「み・か・んー(不明瞭ではあるが聞き取れた)」。先生の「〇〇を?」のあとに「く・だ・さ・いー(不明瞭)」 「い・た・だ・き・ま・すー(不明瞭)」。どれもはっきりとした発音ではないが、音の数が合っている。Gさんは、ひらがなが分かり、物の名前と単語が一致しているためか。逆に、「バイバイ」などのあいさつの言葉は出ない。 <p>◆卒業生Hさんの発語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に1音の発声だが、彼もひらがなが分かり、文字で表現できるため、物によっては「パン」と言ったり「パパ、ママ」飼い猫の名前「もも」と言ったりした。 ・(グループの意見)Fさんの実態から、語彙を増やすことよりも、人とのかかわりを増やす方が良いと考える。 ・初めは先生が介入することになると思うが、生徒同士のやり取りにつなげていきたい。学級外の生徒、先生とも「バイバイ」と挨拶できるようにしてほしい。 			
授業改善後(取り入れたアイデアや生徒の変容等)			
<p>◆下校時に「バイバイ」を発語で挨拶する。クラスメイトから始め、学級外の職員とも挨拶を交わす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当生徒の音量が大きくなり、周囲との関りが増えた。 ・声を掛けてもらう回数も増えた。 ・授業で返事をする際にも声が出て息が出せるようになった。 <p>→挨拶時の音量とタイミングに違和感が無くなり、表情が明るくなった。高等部段階におけるキャリア教育で育成したい力である「いろいろな人と関わる力」が向上したと思われる。</p>			

令和7年度 授業及び指導実践シート(高等部)

授業(実施)日	毎週金曜日4時間目 5月23日～(5回)	学年・組	1・2年D2-1・2組.2、3年A組
単元名 (指導場面)	体育ダンス「盛岡さんさを楽しもう」	授業者 (指導者)	高橋淳子 (他4名)
実態把握 (個人または学習 グループ全体)	肢体不自由を伴う生徒たちではあるが、簡単な動きを模倣することができる。 褒められることを素直に喜ぶことができ、ダンスの学習を楽しむことができる。		
めざす 主体的な姿	総合生活力の豊かな人間性を育む		
キャリア教育で 育成したい力※	①自分の良さ、周りの人たちの良さを知り、仲間と協力して活動する力 ②余暇を楽しむことができる心		
手立て	様々なダンス(踊り)の活動を通して、精神的開放感や充実感、楽しさを感じることができるよう、模範を示したり声をかけたりする。		
授業の 成果及び課題	①時間の初めに行う「ジャンボリミッキー」のダンスを好み、楽しむことができた。 ②盛岡さんさの大まかな歴史を知り、かけ声をかけながら踊ることができるようになってきた。		
アイデアの共有(アイデアや感想を入力してください)			
① 余暇としてのダンスの取り入れ方について			
<ul style="list-style-type: none"> ・盛岡さんさの動画を0.75倍速にする等して、動きの正確性を身につけさせたい。その中で、できる喜びやできたことへの褒められる喜びを感じさせたい。 ・繰り返し学習することで岩手の歴史や盛岡の場所等を覚えることができ、定着することができたと感じる。 ・盛岡さんさのかけ声を覚えた。 ・学級に戻ってきたときに、「楽しかった。」と言っているのが、良いと思った。 ・さんは身体の様子を見ながら、配慮が必要。昨年度よりも立位が衰えてきている。 ・これからも余暇への広がりが増えていってほしいと思う。 			
授業改善後(取り入れたアイデアや生徒の変容等)			
<p>【取り入れたアイデア】 できる喜びやできたことを褒められる喜びを感じられるように、分かりやすく簡単で楽しい日本の踊りとして、「沖縄」に焦点を当てて取り組んだ。</p> <p>【生徒の変容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒がとても楽しそうでした。内容や動画は2回目ということでしたが、新鮮な驚きや喜びを表現しているのが素晴らしいと思います。暑さ対策、D2の体力、肢体不自由ということで、動と静を両方、くり返し、くり返し、が彼らには良いのかなと思いました。ただ、Fさんの活動として何か、横になる時間を入れるとかあってもいいのかなと思いました。 ・ランニングをしたり、ニュースポーツにもチャレンジしたりしたい。 ・各地域のダンスシリーズが、歴史を学ぶことにもつながり、面白いです。次が楽しみです！ ・親しみやすく、夏に耳にする盆踊りの曲、生徒も馴染みやすく、簡単にリズムにのれて楽しそうに取り組んでいる。 ・Jさんの活動については、毎週火曜日4時間目にマットに横になってマッサージやリラックスを行っています。 ・ランニングやニュースポーツについては、毎週月曜日5時間目のDグループ全体体育で取り扱う予定。 ・毎週金曜日4時間目の体育は、高等部研究も見据えてダンスシリーズにしました。 ・10月実習後からは、外国のフォークダンスを行いたい。 			

6 実践のまとめ

2年次の研究について、5月と11月に職員アンケートを実施した。【生徒の主体性を引き出す授業づくりができたか】については、11月のアンケートで「できた」、「まあまあできた」と答えた人は 85.1%であった。5月のアンケートでは、55%であったため、研究によって主体性を引き出す授業づくりの意識が向上したといえる。【キャリア教育を意識した授業や支援ができましたか】については、11月のアンケートで「できた」、「まあまあできた」と答えた人は 92.6%であった。5月のアンケートでは、55%であったため、研究によってキャリア教育を意識した授業や支援への意識が向上したといえる。

(1) 成果

- アンケートの結果から、研究の取り組みにより、生徒の主体性を引き出す授業づくりやキャリア教育を意識した授業や支援ができたと答える割合が多くなった。
- 授業実践シートを活用して意見交換を行い、そこで共有したアイデアを元に生徒の変容を促す授業改善をすることができた。
- 同一の教育課程と学年の小グループ内で普段関わることが多い生徒について意見交換を行ったことにより、実態に即したアイデアを出し合い、他教科での様子を踏まえた支援方法を工夫して改善することができた。
- 実践シートを有効に活用することで負担感を緩和し実施することができた。

(2) 課題

- 他のグループの取り組みを知る機会が足りなかった。
- 主体性やキャリア教育の基本的な知識や授業事例について研修する機会がなかった。

(3) 終わりに

教育課程ごとに小グループ内での取り組みを行ったため、普段関わる生徒についてアイデアの意見交換を行うことができ、生徒の実態に沿った具体的な授業改善に取り組むことができた。そのため、具体的な取り組み内容について話し合うことでキャリア教育を意識し、生徒の主体性を引き出す授業づくりにすることができたと答える割合が増加したと考えられる。

実践シートに必要最低限の情報を網羅することにより、授業内容や生徒の変容を共有することができた。今後も実践シートを活用し、他グループでの取り組みについて共有する工夫を行いながら、学部全体での意見交換で改善方法について深めることができる機会を設定し、授業改善を継続していきたい。

研究主題

個々の学びを深め、集団学習や日々の生活に生かす授業づくり

1 主題設定の理由

わかばグループは、令和4・5年度の校内研究において、「集団学習における、人やものとの関わりを促す授業づくり」をテーマに実践研究に取り組んだ。研究を通して、年齢や実態が異なるわかばグループの児童が、集団学習において、それぞれもつ力を最大限発揮できる働きかけを深めることができた。一方で、一人一人の実態や課題に合わせた手立てや支援方法を探ること、個別での学びを集団学習や日常生活に生かすことが課題として挙げられた。

そこで、令和6・7年度は、上記テーマを設定し、わかばグループにおける「主体的な姿」や主体性を育む支援方法を明らかにして、個々の学びを集団学習や日々の生活に生かす授業実践を行い、課題に迫ることとした。

2 推進計画

月 日	研究活動	内 容
4月16日	第1回全校研究会	
5月14日	グループ研究会①	1年次目の取り組みの確認と、研究方針や内容の検討
6月12日	グループ研究会②	授業実践①
17日	グループ研究会③	児童生徒の実態把握、共通理解 ①わかば自立活動実態整理シート作成・検討・共通理解 ②わかば学級 授業実践計画提示実践シートの作成について
19日	グループ研究会③	授業実践②
26日	グループ研究会④	授業実践③
7月16日	グループ研究会⑤	授業研究会
7月25日	グループ研究会⑥	授業研究会
10月20日	グループ研究会⑦	授業研究会
11月25日	グループ研究会⑧	他学部授業実践動画視聴・研究協議
1月15日	グループ研究会⑨	グループ研究まとめ
1月21日	グループ研究会⑩	グループ研究まとめ
2月20日	第2回全校研究会	グループ研究の発表、全校研究のまとめ

3 わかば学級における、めざす「主体的な姿」

- ・周囲に興味をもって、顔を向けたり、表情を変えたり、言葉や身振りを使ったりして発信する。
- ・様々な教材教具に触れて、感触を感じたり、両手の動きを広げたりする。
- ・手を使った活動に集中して取り組む。
- ・学ぶことに興味をもって、自分から活動しようとする。
- ・学びを他の授業や生活場面に生かそうとする。

4 1年次目の研究概要

1年次目は、個々の学びに焦点を当て、個々の学びを深めるための指導・授業実践を各学級で行い、わかばグループ全体で共有した。授業ビデオと実践シートをもとに授業研究会を行い、アイデアの共有や振り返りができた。また、それをもとに授業改善を行い、指導を深めることができた。各学級で行われている、個に応じ

た自立活動の指導を見合うことができ、児童理解にも役立った。

また、他学部の授業実践ビデオ(あすなる分教室)を視聴し、意見交換を行った。普段、なかなか見ることができない他学部の実践を知ることができてよかった、お互いの授業を見合い、アイデアを共有したり、授業改善につなげたりすることができてよかったとの意見があげられた。

5 2年次目の研究実践

(1)研究方針

- ①自立活動実態把握整理シートを活用し、児童一人一人の実態把握を行い、共通理解を図る。特に、「主体的な姿」に関わる部分について焦点をあて、伸ばしたい力や期待する姿などを職員間で共通理解する。
- ②今年度は「個々の学び」を「集団学習に生かす」取り組みを中心に行う。
授業実践では、集団での自立活動「なかよしタイム」を取り上げ、研究授業・授業研究会を行う。
- ③実践シートを活用して授業実践に取り組み、アイデアの共有や意見交換を行って授業改善につなげ、実践を積み重ねていく。

(2)実践シートの活用について

実践シートの項目に、「研究授業における児童の様子」、「研究協議の内容」の二つを追加し、1枚で網羅できるよう作成した。グループ内で出されたアイデア・意見等は「研究協議の内容」に記載し、他学部の先生方からいただきたいアイデアは「アイデアの共有」へ、意見や感想等は「感想」に記入してもらうようにした。

実践シートには、たくさんの先生方からアイデアや意見を記入していただいた。今後の取り組みに生かしたい。

(3)授業実践と授業改善

実践1

令和7年度 授業及び指導実践シート(山目わかば)

授業日	R7年6月12日(木)3K	学部	山目校舎 わかば学級 (わかば1・2・3・4組)
単元(題材)名 (指導場面)	自立活動「なかよしタイム」 「みんなで絵の具遊び①」	授業者	中田咲子 他5名 (各学級担任・副担任)
目標	1 絵の具に触れたり、えがいたりして、好きな色や使いたい道具を選びながら、興味をもって活動する。 2 遊びをとおして、友達や教師との関わりを広げる。		
(目標に対する)実態	<目標1> ・自分から好きな色や使いたい色、使いたい道具を選んだり、使いたいものを教師に伝えたりすることができる。 ・教師と相談しながら色を選んだり決めたりすることができる。 ・教師の手本を見たり、話を聞いたりして活動に意欲をもち、自分から取り組もうとする。 ・教師や友達に誘われると、意欲をもって活動に参加できる。 ・自分なりに活動に見通しがもてるまで友達の様子を見たり活動内容を確認したりしたあと、教師に誘われて活動に参加する。 <目標2> ・自分から友達に話し掛けたり、場を共有して一緒に取り組もうとしたりする。		

- ・友達からの関わりを受け入れ、返事をしたり、視線を動かしたりする。
- ・友達の活動に注目するように教師から働き掛けられると、そちらを見ることができる。
- ・教師が仲立ちをして、児童の発声や様子、表情などを見ながら気持ちを代弁するような言葉掛けを行い、やりとりをする。

<教材教具の工夫>

- ・児童が持ちやすいように、筆やローラーの柄の長さを工夫する。(長くする、先端に向かって湾曲させた柄に筆やローラーを取り付けるなど)
- ・児童が使いたいものを選ぶように、筆やローラーをたくさん用意する。
- ・児童が好きな色を選んだり、混色を楽しんだりできるように、絵の具の色をたくさん用意する。



- ・みんなで一斉に取り組めるように、大きな模造紙を用意する。
- ・色水づくりでは、握りやすい小さなペットボトルを用意する。

<場の設定の工夫>

- ・友達同士、関わりながら活動できるように、教室の真ん中に大きなテーブルを用意し、みんなで囲んで活動できるようにする。



<教師の関わり工夫>

- ・児童が興味や関心を抱くような声掛けを行い、見本を見せる。
- ・上手にできている児童や、工夫して取り組んでいる児童を称賛し、その友達に注目できるように声掛けを行う。
- ・教師が仲立ちを行い、友達同士で関わりながら活動できるように支援する。

手立て

<活動の流れの工夫>

- ・活動を以下に分ける。

①出席確認・始めのあいさつ

- ・一人一人呼名を行い、一緒に活動するメンバーを確認したり意識したりできるようにする。

②絵の具で自由にえがこう

- ・大きなテーブルに大きな模造紙を広げ、自由に描く。

③にじみ絵をつくろう

- ・大きな模造紙に水を刷毛でぬったものを中央に置き、周りを囲んで絵の具をたらし、にじみ絵に取り組む。



④ペットボトルの色水づくりと和紙染め

- ・あらかじめふたの裏に絵の具をつけておき、振って色水を作る。一人一本ずつ取り組む。
- ・色水を容器に分けて、一人一人に折った和紙を渡し、好きな色水につけて折り染めに取り組む。



⑤感想発表・終わりのあいさつ

・はじめの位置に戻り、感想発表とあいさつをする。

児童の様子

<わかば1>

A:躊躇することなくはけや手で絵具をぬっていた。時間があればいつまでもやっついそうな勢いだった。

B:どの活動もダイナミックに取り組んだ。にじみ絵がお気に入り、混色による色の変化やにじむ様子で楽しんでいた。大きい模造紙に描く活動では、天音さんが筆を動かした後から追いかけるようにして絵の具を重ねていた。

<わかば2> [欠席]D

C:活動中は眠っていた。持ち手の長いローラー、割りばしなど道具を使っでの活動ができそう。

<わかば3> [欠席]E

F:様々な色や筆を使って真剣に取り組んでいた。テーブルの高さ・立ち作業でやりにくそうな場面もあった。

G:昨年度は号泣だったらしいが今回は取り組み初めに拒否はあったものの泣かず。見立て遊びをしながら筆を自分で思いのままに動かしていた。にじみ絵も同様。

<わかば4>

H:はじめは活動を受け入れて取り組んだ。徐々に手を引っ込めようとしたり嫌がったりするようになった。「とんとんとん」、「1・2の3」などリズムに合わせて、「あと1回頑張ろう」と声を掛けたりして、いやいやながらも最後まで取り組んだ。支援なしで筆をもって取り組む場面もあった。

I:本当は手で触りたいが手荒れがひどく、保護者から直接触らないでほしいと言われたため道具使用のみで取り組む。自分から手を動かし楽しんでいましたが、直接触りたくて手を伸ばす・止められるを繰り返して、中断してしまうことがあった。

研究協議

<教材教具の工夫>

・活動しやすいテーブルの高さだったか？(1年生はOK。3組はFさんが立ちっぱなしだったのが辛そうだった。車椅子の児童は自分の車椅子のテーブルで活動。)

<教師の関わりの工夫>

・「青取って～」と車椅子の児童についているTが声を掛けたところ、Bさんがとってくれた。たくさん絵の具の皿がある中で、大人がやり取りをしてしまったが、子ども同士でやり取りする工夫があってもよかった。

・「〇〇さんが作った色だね、使ってみる？」という声掛けがあった。こうした声掛けの工夫・やりとりで関わりが広がるのでは。

<活動の流れの工夫>

・絵の具の活動のやり方で、一斉にやるのもよいが、グループを分け、たとえば、わかば1・3組が行う、2・4組はそれを見学する、など、交互にやってみてはどうか。子どもたちは、お互いを見ながら活動していた。

<感想>

・色水づくりの反応がよかった。楽しみながら集中して取り組んでいたように思う。

・折り染めはもっといういろいろな色や模様を楽しみたい児童もいたように思うので継続を！どの折り染めもきれいだった。

アイデアの共有

①手をすぐに口にいれてしまう児童、絵の具がついた手で体中触ってしまう児童について、本当はできるし、させたいのだが、常に手を教師が押さえている状態で活動している。何かいい方法はないだろうか。

・色水を作るなら、食紅を使うのもあります。今は様々な食紅の色があるので口に入れても安全だと思います。ただドロドロ状(粘り気)がないので絵具状ではないかもしれませんが。(本校舎中学部)

・マスクと汚しても良い給食着などを着用、とにかくマスク・給食着も汚しても良い日(アート作品として)をつくる。その様子を観察し、どの程度汚すのか、どの程度で飽きるのかを見とり、その後に本来させたい作品作りや活動をさせてみる。(汚したままの格好の方が良い。)(千厩分教室小学部)

②絵の具遊びについてのアイデアや先生方の実践を教えてください。
・模造紙にマスキングを貼って、色を塗り、はがすという活動を高等でしたことがあります。また、今年度、指絵具を購入しましたので必要な時お声がけください。(本校舎中学部)
感想
・色水づくりで、児童が自分のミニペットボトルを両手でしっかり握りリズムカルに振っているときに、とても動きが良く表情も明るく見えました。また、その後の活動も、興味をもっている色々な色水をよく見ているように思いました。動きが分かりやすい活動を行うと、その次の活動にもより意欲的に取り組めるように感じました。(本校舎中学部)
授業改善後
【取り入れた手立て】 ・実践2 支援の手立ての工夫参照 【児童生徒の変容、様子】 ・実践2 児童の様子参照 【成果○と課題●】 ○児童が「やってみたいな」「おもしろかった」と思う活動を続けていきたい。 ●後期に絵の具遊びパート2をやりたい。 【今後の方針】 ・次回は、ビー玉を転がしてできる模様を楽しむ絵の具遊びに取り組む。 ・一人一枚ずつビー玉による絵の具作品づくりを行う。(うちわづくり) ・にじみ絵の手本を見せずに取り組ませてしまったので、次回行うときは、水多めの描き方を提示する。 ・支援の手立てを、4つの柱で考え、今回同様に継続して講じていく。

実践2

令和7年度 授業及び指導実践シート(山目わかば)

授業日	令和7年6月19日(木)3K	学 部	山目校舎 わかば学級 (わかば1・2・3・4組)
単元(題材)名	自立活動「なかよしタイム」 「みんなで絵の具遊び②」 ビー玉絵の具をしよう	授業者	中田咲子 他5名 (各学級担任・副担任)
目 標	1 ビー玉の動きに注目したり、転がしてできる模様や色の組み合わせなどの変化を楽しんだりして興味をもって活動する。 2 遊びを通して友達や教師との関わりを広げる。		
(目標に対する)実 態	<目標1> ・教師の手本を見たり話を聞いたりして活動に見通しをもち、出来上がりを期待しながら活動することができる。 ・教師と一緒に、教材教具を確認したり、前時を思い出したりしながら活動する。 ・自分から好きな色やビー玉を選んだり教師に伝えたりすることができる。 ・教師と一緒に絵の具の色やビー玉を選び、確認しながら箱に入れたり、教師と一緒に箱を動かしたりして模様付けする。 ・ビー玉が転がる様子に注目したり、音を聞いたりして楽しむことができる。 <目標2> ・自分から友達に話し掛けたり、場を共有して一緒に取り組もうとしたりする。 ・友達からの関わりを受け入れ、返事をしたり、視線を動かしたりする。		

- ・友達の活動に注目するように教師から働き掛けられると、そちらを見ることができる。
- ・教師が仲立ちをして、児童の表情などを見ながら気持ちを代弁するような言葉掛けを行い、やりとりをする。
- ・友達の歓声などにぎやかな声を聞いて、表情が緩んだり視線を動かそうとしたりする。

手立て

＜教材教具の工夫＞

- ・一人一つずつ、児童が操作しやすい大きさの箱を用意する。
- ・箱の中身が見えるようにふたを窓状にくりぬいて透明フィルムをはり、中のビー玉の動きを目で追うことができるようにする。
- 箱には画用紙を敷いておく。
- ・児童が好きな色を選ぶことができるように、絵の具や絵の具皿をたくさん用意しておく。



- ・ペットボトルは児童が握りやすいように小さいものを用意する。また、児童から要望のあったサイズの物も用意する。
- ・一人ずつ異なる色水を作ることができるように絵の具の色を工夫して、あらかじめ、ふたにつけておく。
- ・折り染めでは、和紙を挟んで染めることができるように、割り箸を用意する。



＜場の設定の工夫＞

- ・友達同士、関わりながら活動できるように、教室の真ん中に大きなテーブルを用意し、みんなで囲んで活動できるようにする。



＜教師の関わり工夫＞

- ・児童が興味や関心を抱くような声掛けを行い、見本を見せる。
- ・上手にできている児童や、工夫して取り組んでいる児童を称賛し、その友達に注目できるような声掛けを行う。
- ・教師が仲立ちを行い、友達同士で関わりながら活動できるように支援する。
- ・みんながどんな作品を作っているか教師と一緒に回って歩き、友達の様子を見て活動に見通しがもてるようにする。

＜活動の流れの工夫＞

①出席確認・始めのあいさつ

- ・一人一人呼名を行い、一緒に活動するメンバーを確認したり意識したりできるようにする。



②ビー玉でえがこう

- ・テーブルを囲んで立ったり座ったりして個人作品に取り組む。

③ペットボトルの色水づくり

- ・あらかじめふたの裏に絵の具をつけておき、振って色水を作る。
- 一人一本ずつ取り組む。



④折り染めをしよう

- ・作った色水を容器に分けて、一人一人に折った和紙を渡し、好きな色の水につけて折り染めに取り組む。

⑤感想発表・終わりのあいさつ

- ・はじめの位置に戻り、感想発表とあいさつをする。

児童の様子

<わかば1> [欠席]B

A: 前回より反応は薄かった。ビー玉は箱を床に置き、手で払いのけるようにして動かす。こなさんがずっと見ており、途中こなさんと箱のやりとりあり。折り染めは積極的ではなかったがTと一緒に紙を持って染めることができる。

<わかば2> [欠席]D

C: 寝ていたが、ゆっくり手元で動かしながら取り組んだ。Fさん、森Tに手伝ってもらい折り染めを行う。折り染めでは目覚め、何色にするか聞くと、何度聞いてもピンクでにっこり笑うのでピンクで染める。

<わかば3>

E: 初めての活動で見通しがもてず、拒否する様子がみられたが、ビー玉が入った箱を覗き込むようにして見ていた(悠さんの様子)。頃合いを見計らいTに誘われて、箱を振ったり、動かしてビー玉を転がしたりして取り組むことができた。色水はTと一緒に割りばしで行う。スムーズに染めることができた。

F: 自分からどんどん取り組もうとする。好きな色の絵の具・好きな大きさのビー玉を自分で選ぶ。教師に箱に入れてもらい、自分で動かし、マーブリングのような綺麗な模様をつくる。周りから「きれいだね」と声を掛けてもらい嬉しそう。色水・染めも楽しみながらじっくり取り組む。そのため、児童同士の関わりは少なかった。

G: 教師が誘導すれば好きな色を選ぶことができるが積極的ではない。ビー玉は手が汚れる活動ではないので騒ぐ・泣くなどはないが、うろうろと落ち着きなく歩き回る。やっつけ仕事のように少しビー玉を転がして終わりにしようとするが、教師に励まされてたくさん模様をつけることができた。色水の活動は好き。染めは、和紙を割りばしにはさみ、「焼肉」と言いながら自分からたくさん色水につけていた。

<わかば4>

H: あまり好きな活動ではないが、前時は手を引っ込めようとするが多かったが、今回は受け入れることが多かった。「ボトルを振る」は本当は一人でできるが、わざと投げる行為を2回行ったので教師と一緒に取り組んだ。ビー玉は箱を教師と一緒に持って揺らしたり傾けたりする。ビー玉の動きは見ようとしめない。促すと2回目までは手を出してやろうとするが、繰り返すと飽きたのか、嫌になったのか「うーうん」とやりたくないアピール。しぶしぶだが最後まで取り組んだ。

I: ビー玉がぶつかる音に喜び笑う。ビー玉を自分で取った。転がるのをニコニコ見ている。色水は大きいペットボトルを自分からとった。ペコペコとペットボトルをつぶして楽しんでた。指でつまむように持って上手に振っていた。色水をよく見ている。一人でできる活動が多かった。

授業研究会(研究協議)

<教材教具の工夫>

- ・一人一つずつの箱を用意し、あらかじめ中に入れる紙の大きさなど合わせておいたのだが、箱の大きさがまちまちで、セッティングに時間がかかった。
- ・道具を配るとき、ほかのTも手伝えればよかった。
- ・ものを配布するとき、2か所に分けて置き、配れば早かったかもしれない。
- ・利用した箱を、次の時間、中に作品を入れて展示した。枠の中に作品を入れたようになり、よかった。

<教師の関わりの工夫>

- ・子どもにあった声掛けができていた。

<活動の流れの工夫>

- ・一人で活動できる児童はじっくりと最後まで取り組んでいた。あまり乗り気ではない児童は、教師の支援(励まし、興味関心をひくような声掛けや手本、手を添えて一緒に活動するなど)を受けながら活動していた。一人ひとり、作品づくりにかけたい時間がそれぞれ違う。待ち時間の有効な使い方はないか？

・例えば、早く終わった児童は、色水の活動にすすんでみてはどうか。(その児童に関わっているTが臨機応変に次の活動にすすんでみる。)色水の活動を一回行ってから、またみんなと一緒に活動に戻るのはどうだろうか。「きれいだから見て！」というときに、見られない子もいる。

⇒なかよしタイム担当の教師同士で共通理解し、次の機会があれば取り組んでみる。

アイデアの共有

集団活動においての、待ち時間について。

どうしたら待ち時間を短縮できるか？いい待ち時間の方法はないか？

・短縮できればたくさん活動ができることにつながりますが、一方で「待つ」時間は「互いに見合う」ことを意識できると有意義になると思います。仲間がやっていることを見てやり方を覚える、アイデアを共有する、自分ならこうしたいと考える。そのための位置取りの工夫とか、注意を向けるように促す声掛けとか。(他学部)

感想

・ビー玉で絵を描くところは、先生がお手本を示すところから児童が興味をもって見ていたように思いました。ビー玉をふたのある箱の中に入れて転がすことで、それぞれの児童の動きやすいやり方で自由に絵を描くことができ、自分から楽しそうに活動に取り組んでいると感じました。(本校舎 中学部)

授業改善後

【取り入れた手立て】

・支援の手立てを上記の4項目から考え、実践した。

・実践3 支援の手立ての工夫参照

【児童生徒の変容、様子】

・実践3 児童の様子参照

・友達活動を見ることで見通しがもて、「やってみようかな…」という気持ちになった児童がいた。

・前時より、活動への取り組みが良い児童がいた。(意欲向上。)そうでない児童もいた…。

【成果○と課題●】

○一時間で取り組む活動量を前時より精選した。

●でもまだ、盛り込みすぎかもしれない。

●待ち時間短縮の工夫について、他グループの先生方からもご意見いただきたい。

【今後の方針】⇒ 6月26日実施の授業

・大きい段ボールに前時に取り組んだにじみ絵を入れ、全員でビー玉を転がして模様をつける。

・本時で取り組んだビー玉アート作品で短冊をつくり、願い事を書く。

・本時で取り組んだビー玉アート作品でうちわを作ってきてもらうように伝える。(学級でも取り組んでもらう)

☆七夕会のお知らせをする。

<学級でも折り染めやビー玉アート、うちわづくりなどに取り組む、七夕会で発表したり、作品展に出品したりしました>



令和7年度 授業及び指導実践シート(山目わかば)

授業日	R7年6月26日(木)3K	学部	山目校舎 わかば学級 (わかば1・2・3・4組)
単元(題材)名 (指導場面)	自立活動「なかよしタイム」 「みんなで絵具遊び③」	授業者 (指導者)	中田咲子他
目標	<p>1 友達と一緒にビー玉の動きに注目したり、転がしてできる模様や色の組み合わせなどの変化を楽しんだり、興味をもって活動する。</p> <p>2 遊びを通して、友達や教師との関わりを広げる。(遊び方を共有する、感じたことを表現するなど)</p>		
(目標に対する)実 態 手立て	<p><目標1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の手本を見たり話を聞いたりして活動に見通しをもち、出来上がりを期待しながら活動することができる。 ・教師と一緒に、教材教具を確認したり、前時を思い出したりしながら活動する。 ・自分から好きな色やビー玉を選んだり教師に伝えたりすることができる。 ・教師の声掛けを聞いたり、友達と動きをあわせたりして箱を動かし、模様付けする。 ・教師と一緒に色やビー玉を選び、確認しながら箱に入れたり、箱を動かしたりして模様付けする。 ・ビー玉に注目して、動きを追うことができる。 ・ビー玉の転がる音を聞いて興味をもつことができる。 ・模様ができていく様子を楽しむことができる。 <p><目標2></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から友達に話し掛けたり、場を共有して一緒に取り組もうとしたりする。 ・友達からの関わりを受け入れ、返事をしたり、視線を動かしたりする。 ・友達の活動に注目するように教師から働き掛けられると、そちらを見ることができる。 ・教師が仲立ちをして、児童の表情などを見ながら気持ちを代弁するような言葉掛けを行い、やり取りをする。 <p><教材教具の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時にみんなで描いたにじみ絵を使う。 また、前時に一人一人が作ったビー玉アートの作品で短冊を作っておく。 ・みんなで一斉に一つの作品づくりに取り組めるように、大きな箱を用意する。 ・車椅子の児童が揺らしやすいように、箱の横にひもをつけておく。 ・絵の具はたくさん用意しておく。(色、数ともに) ・いろいろな大きさのビー玉を用意しておく。 <p><場の設定の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで取り組んだ作品を教室の壁面に飾り、活動を振り返ったり、鑑賞して達成感を味わったりすることができるようにする。 ・みんなで周りを囲んで動かすことができるように、教室の真ん中にテーブルを置き、箱を設置する。 ・箱を前後左右に揺らすことができるように、小さめの台を用意して、その上に箱を設置する。 		



- ・小さなテーブルを用意し、テーブルを囲んで会話しながら短冊を書くことができるようにする。
 - ・車椅子の児童同士も集まり、教師と相談しながら短冊を書く。
- <教師の関わりの工夫>
- ・児童が興味・関心をもてるような声掛け、教材の提示の仕方を工夫する。
 - ・児童の気持ちを汲み取り、共感しながら一緒に活動する。
 - ・児童の気持ちが動くのを待ち、活動に誘う。
- <活動の流れの工夫>
- ・児童に分かりやすい活動の流れを組み立てる。
- ① 始まりのあいさつ
- ・一人一人呼名を行い、今日のメンバーを確認する。
- ② 大きい箱に敷いたにじみ絵にビー玉を入れてみんなで転がすビー玉アートを行う。
- ・教室の真ん中に置いたテーブルや台をみんなで囲んで行う。
- ③ 短冊に願い事を書く。書き終わった短冊を教師に笹飾りにつるしてもらう。
- ・小さいテーブルを囲み座って書く児童と、車椅子の自分のテーブルで書く児童に分かれる。
- ④ 感想発表・終わりのあいさつ
- ・その場で教師の話聞き、感想発表・終わりのあいさつを行う。



児童の様子

<わかば1> [欠席]B

A: はじめ興味もてない様子だったが、ビー玉が提示されると興味を示し、箱の動かし方が分かると自ら下に傾けて自分の方へビー玉を寄せて楽しんだ。さらにビー玉を上下にバウンドさせてその動きを声を上げながら見て楽しんでいた。

<わかば2> [欠席]D

C: 最初は眠っていたが、ビー玉が転がる音を聞いて目を覚ました。音が聞こえるたび目をぱちぱちさせていた。

<わかば3>

E: 周囲を回ってしばらく様子を見て、気持ちが動いたときに活動に誘い加わった。ビー玉の動く様子、音に興味を示し、手を伸ばしてさわった。この活動が気に入ったようだった。

F: ビー玉を転がそうと頑張って揺らしていた。テーブルがやや高く、ビー玉の様子がよく見えていなかったかもしれない。椅子の上で行ったときは体勢も楽そう楽しんでいることができていた。

G: 提示された教材に興味津々だった。泣く・騒ぐ等なく活動できていたが、はじめはさほど意欲がみられず。ビー玉が勢よく転がる様子を見てからは、自分と反対の方向にビー玉を動かして楽しんでいた。

<わかば4>

H: ビー玉をよく見て動きを楽しんでいた。大きな段ボールも自分から持っていた。時々、手を離すが、持つように促すと持っていた。楽しく活動に参加できていた。

I: ビー玉の動きを目で追う。(ビー玉を動かそうと?)意識する感じではないが、大きな段ボールのふちを一人で持ち、動かそうとすることができた。嫌がる様子もなく活動に参加できた。

研究協議

<教材教具の工夫>

- ・転がるビー玉への注目を促すために、もっと大きい、ピンポン玉・ゴルフボール・大き目の木の玉、もっと大きなサイズの球状のもの、いろいろな大きさのものがあれば注目できるかもしれない。
- ・ビー玉を取り上げたことがよかった。動きを目で追うこともできるし、ゴロゴロと音がするのもよい。また、手が汚れない。一人でも箱を動かしたり、触りたい児童は触ったりすることができてよかった。

- ・〈教師の関わりの工夫〉
- ・この授業(題材)では、児童同士の関わりをもたせるのは難しかったかもしれない。子ども同士の関わらせ方の部分で、T同士の配慮があればよかった。
- ・ビー玉を転がすときに、「〇〇さん行くよー！」などと、児童同士の関わりを広げるような声掛けをすればよかった。
- ・蓄光絵の具で描いてもよかった。七夕で会場を暗くするのでおもしろかったのではないかな。
- 〈場の設定の工夫〉
- ・短冊を書く時の場の設定の工夫が必要。車椅子の子、そうでない子と活動の場が分かれてしまい、交流がなかった。
- 〈感想〉
- ・前回取り組んだ活動を次の授業でも生かしつつ(たとえば、色水。ビー玉アートなど、次の授業でも取り上げて行ったり、作った作品を飾ったりなど)、行ったことで、児童の好きな活動を繰り返すことができたり、見通しをもって活動できたりして、とてもよかった。
- ・活動内容は異なっても、連続性があり、まとまりのある単元だったように思う。
- ・なかよしタイムで作った作品を行事(七夕会)に生かしていくのはよい。学びのつながり、連続性があった。
- ⇒清明祭にもつなげていく。
- ・もくもくと取り組んでいた児童もいた。友達との直接の関わりは少なかったが、それはそれでよかった。

アイデアの共有

①車椅子の児童とそうでない子が関わりあいながら(接点を持ちながら)活動するための場の設定の工夫について

(短冊を書くとき、寒天遊びのときも動けないから接点を持ちにくかった。動ける児童がかかわってくれるから、関わり合いが生まれた。活動する机の高さなどが違い、一緒に活動する場の設定がむずかしい。先生方の経験から、よいアイデアをいただきたい。)

- ・車椅子の子に背を向けずに、そちら側を空席にするだけでも分断された感じはなくなると思います。
- ・書いている間は集中したい場合もあるかもしれないので、書くことに困ったときに、〇〇さんはなんて書いたの?とのぞいて見たり、見せ合いっこしたりすることで交流できると思います。(他学部)

②制作のアイデアについて(研究協議で、ビー玉ではなくいろいろな大きさの玉・ボールでやってみたらおもしろいのではないか、という意見が出ました。先生方から、こんなのはいかが?これをやってみたらおもしろいですよ!というアイデアを頂戴したい)

- ・絵の具を使った制作でしたら、毛糸等を使った糸引き絵もいかなと思います。引いて開くまでどんな風に出上がっているか分からないのでわくわく感もあります。トイレットペーパーの芯のようなものに巻き付けて転がしたり、糸をずらして色を付けたり、いろいろな方法が試せると思います。(他学部)

感想

- ・授業の初めから先生が「絵具をやります」と言うと「イエイ」と答える児童がいて、絵具遊びを楽しみにしている様子が伝わりました。また、大きな箱の中をみんなで持ってビー玉を動かしているときに「オー」と声を出したり、箱をのぞき込んでビー玉の動きを見たりするなど、児童が自分から楽しんで活動に取り組んでいることが伝わってきました。毎回、前回の活動を発展させたものに取り組むことで、児童も知っている活動に安心して取り組む気持ちを持ちながら本時の活動を楽しんでいるように感じました。(本校舎中学部)
- ・ダイナミックな授業、素晴らしいですね。動画や指導案を見て、こうした方が……と思ったことをすぐに取り組まれていました。活動に注目している(目を閉じていたとしても、周囲の声掛けや雰囲気を感じることができる)環境づくりが素敵ですね。(千厩分教室)

【取り入れた手立て】

・活動量の工夫。(盛り込みすぎない)

【児童生徒の変容、様子】

・テーマに沿った絵の具の活動を繰り返したことで、興味や見通しをもち、(嫌がることなく)活動することができた。

【成果○と課題●】

○絵の具の活動を繰り返してきたことで、活動に見通しがもて、期待感や意欲につながっていた。

○どれみタイムで、なかよしタイムで作ったうちわを使った活動を行った。横断的な学びの拡がりを目指すことができた。

○なかよしタイムで行った活動(色水遊び、ビー玉絵の具の活動)を各学級でも取り組んだ。活動に見通しをもち、出来上がりに期待感をもって取り組むことができていた。

●一つの作品を囲んで一斉に活動するときの、机・台などの高さの調整。

●車いすの児童(自分のテーブルで作業・活動)と、そうでない児童(大きなテーブルを囲んで作業・活動)が分かれてしまい、友達とのかかわりをもてなかった。場の設定や、関わりながら活動するための教師の支援の工夫が必要だった。

【今後の方針】

・次の時間は、これまで制作してきたものを使って飾りづくりを行う。また、各学級でも飾りを制作する。

・これまで制作してきたものを七夕会の装飾などに生かし、七夕会を行う。

< わかば学級「七夕会」 >



なかよしタイム「みんなで絵の具遊び」での折り染めやビー玉アートでこんなにすてきな作品が出来上がりました。後ろの笹飾りは、にじみ絵にビー玉アートで模様付けした夜空に収まっています。思い出に残る七夕会となりました。

< 絵の具遊びパート2 夏休み明けに実践 これまでの作品は清明祭のキーアイテムとしてステージに登場！ >



うちわと七夕飾りも
展示しました

6 実践のまとめ

(1) 成果

- わかば学級における、児童の「めざす主体的な姿」を確認し、共通理解することができた。今後の指導・支援に生かしていく。
- 「わかば自立活動実態シート」については、児童一人一人の実態把握と、職員間での共通理解を図るために有効なことから、今後も継続して作成していく。
- 1年次目は、研究を通して、わかば学級の中でも実態が様々な児童の学習の様子を見合い、児童理解を深めるとともに、アイデアの共有や指導の工夫について意見交換を行い、授業改善に役立てることができた。
- 2年次目は、個々の力を集団学習でよりよく発揮できるような授業づくりを目指して実践に取り組んだ。指導の手立ての工夫を4つの視点(教材教具の工夫、場の設定の工夫、教師の関わりの工夫、活動の流れの工夫)から具体的に講じることで、児童の「主体的な姿」をたくさん見ることができた。(実践シート参照)
- 実践授業「自立活動 なかよしタイム みんなで絵の具遊び」で取り組んだ活動を、各学級でも取り組み、作品づくりや七夕会の飾り・短冊づくりを行って、できたものを発表しあう活動を授業に取り入れた。また、「なかよしタイム」で作ったうちわを、「自立活動 どれみタイム」で使ったり、みんなで作った作品を清明祭のキーアイテムとして使ったりして、指導を横断的にを行い、児童の学習活動を深めることができた。
- 児童が学校生活において、他クラスの友達を意識し、気に掛ける様子が多くみられるようになった。合同での学習や、休み時間に友達と遊ぶことを楽しみにしたり、授業や廊下で会った際に声を掛けたり視線を送りあったりするなど、友達同士の関わりが増えた。
- 他学部の先生方に動画を見ていただき、実践シートへアイデアや感想・意見をたくさんいただくことができた。

(2) 課題

- 今年度行った授業実践(実践シート)への意見やアイデアを蓄積し、今後の授業に生かしていく。
- 実践シートを活用した授業実践を次年度も継続して行っていく。
- 実践内容をより分かりやすく伝え、蓄積していくために、写真を残しておくといふ。(教材・教具の写真や場の設定写真など、必要に応じて実践シートに記載する。)
- 児童が「個々の学び」で得た力を、学校生活で発揮する姿をみることができたので、学校以外の生活への拡がりにつなげられるといふ。

(3) 終わりに

わかばグループの2年間の取り組みは、「個別最適な学び」と「共働的な学び」の双方向に常に作用し合い、2つの学びの一体的な実現がなされた実践だったと考える。特に、2年次目の実践は、わかばグループでの様々な指導(授業)をつなげ、横断的な指導・学びの連続性を意識した取り組みができた。

その結果、わかば学級における児童の「めざす主体的な姿」を導き出したこと、児童が友達を意識して学校生活を送る姿がたくさんみられるようになったことは、大きな成果であった。2年次研究で得た成果を生かし、今後も、児童がより主体的に生活できるように支援していきたい。

研究主題

児童の実態と手立ての共有

1 主題設定の理由

研究主題「児童生徒の主体性を育む支援のあり方について」のもと、なのはなグループは、「児童の実態と手立ての共有」をテーマに設定した。児童の主体性を育むためには、実態を正しく把握し、適切な手立てを共有することが重要であると考えたためである。

R4～R5年度の研究では、各発達段階での日常生活の指導における具体的な目指す姿や教師の関わり方について共通理解を図ることができたという成果があった一方、日常の課題や児童の困り感に直接的に寄り添う形の研究の在り方についての検討が不十分であったこと、授業研究会後の実践・結果を互いに知る機会が少なかったことが課題として挙げた。

今回の研究では、『児童の実態と手立ての共有』をテーマに、校内で情報を共有し共通理解を深めることで、指導の質を向上させ、児童の主体性を育む支援の充実を目指した。

2 推進計画

R7年度(2年次研究、2年次目)の校内研究推進計画を以下に示す(Table1)。

Table1 R7年度 なのはなグループにおける校内研究推進計画

研究日	内容
5/14(水)	研究テーマ・方針の確認、検討
6/17(火)	「主体的な姿」の再確認・今後の実践への提案
7/16(水)	授業実践(各学級)
9/3(水)	授業実践(各学級)
10/15(水)	授業検討会①(なのはな4・5・6組)
11/25(火)	授業検討会②(なのはな1・2・3組)
12/16(火)	検討会後の実践について共有、次年度の方向性決定
1/21(水)	次年度の研究提案、今年度研究のまとめの共有
2/17(火)	全校研究会

3 なのはな学級における、めざす「主体的な姿」

なのはな学級におけるめざす「主体的な姿」を以下に示す(Table2)。

Table2 なのはなグループにおける「主体的な姿」

なのはなグループにおける「主体的な姿」
① 日常生活に必要な力や、問題を解決するために必要な力を身に付ける。
② 自分で見たり聞いたりしたことをもとに、自分なりに考え、選択することができる。
③ 自ら進んで行動したり、最後まで粘り強く活動に取り組んだりする。

4 1年次目の研究概要

(1) 方法

なのはなグループでは、実践シートを活用し(Fig.1)、各学級の目指す姿(主体的な姿)を整理して、なのはな1組~6組の各学級で授業および指導の実践を行い、その内容についてグループ内で検討会を実施した。取り上げる授業や指導内容は、前年度に挙げた課題である「日常の課題や児童の困り感に直接的に寄り添う研究の在り方を検討したい」という視点を踏まえ、各学級で日常的に感じている課題や児童の困り感をもとに選定した。

授業(実施)日	R6.4.24	学 部	〇〇校舎小学部〇年なのはな〇組
単元名 (指導場面)	「朝の会」	授業者 (指導者)	〇〇〇〇
目 標	「教師が伝えた天気カードを選ぶことができる」		
手立て	・窓から天気を見たり、実際に外に出たりし、天気を体感できるようにする。		
目指す姿 (主体的な姿)	・天気カードに注目して見ることが出来る。 ・カードを自分で選ぶようしている。		
アイデアの共有			
①「天気の理解を育むためのアイデア」 ②「選択を促すカードの提示の仕方」			
・「おひさまピカピカ」、「あめザーザー」など、擬音語やリズムカルな言葉を用いて伝える。(〇〇学部)			

Fig.1 1年次研究で使用した実践シートの様式(記入例)

(2) 結果

1年次の実践の結果を以下の表に示す(Table3)。

Table3 1年次研究の実践結果

学級	実践内容	取り入れたアイデア	児童の変容
1組	余暇時間	・遊びのレパートリーを増やした。 ・授業の中で外遊びを取り入れた。 ・「なかよく」をキーワードにして、声掛けを継続的にした。	・揉め事が減り、待つ・仲良くする姿が見られるようになった
2組	算数 10までの引き算	・ブロックケースに数字を記入した ・100玉そろばんを活用した。	・操作の誤りが減り、20までの引き算に挑戦できるようになった。
3組	着替え	・「裏返し」「反対」など言葉を統一した。 ・同じ手立てで取り組みを継続した。	・反対や裏の直しも自分でできる部分が増えてきた。 ・長袖・長ズボンの着脱でもつまずくことがある。
4組	朝の会	・iPad操作を児童に任せた。 ・教師が間を作った。	・支援を減らしつつ、聞く力を育てる工夫ができた。
5組	国語・算数	・焼きそばを題材に国語・算数・生活単元学習の授業を工夫した。	・繰り返しの学習で流れを理解し、買い物や調理への意欲が高まった。
6組	散歩	・ルートを変更した。 ・信号・横断歩道を指差して確認した。	・こだわりが減り、指示を聞いて考える力が育ってきた。 ・手話の学習もしている。

(3) 研究の成果と課題

アンケート結果をもとに、Copilot を使用して内容を整理し、表形式でまとめた。(Table4)。これらの課題を踏まえ、2年次研究では「児童の実態と手立ての共有」をさらに深め、「主体的な姿」に焦点を当てた協議や、共有の仕組みづくりを進めていきたい。

Table4 1年次研究の成果と課題

	主な内容
成果	・主題に沿った研究ができ、指導改善につながった。
	・指導上の困難点を共有できた。
	・実践シートや動画で分かりやすく、負担軽減につながった。
	・職員間で多様な考え方を学べた。
課題	・協議は話しやすく、時間も適切で有意義だった。
	・実践内容をまとめて、困った時に参照したい。
	・教科や指導場面を統一するか方向性を検討したい。
	・主体性に焦点を当てた協議を深めたい。
来年度に向けて	・教科や指導場面を統一するかメリットを踏まえて、方向性を検討する。
	・「主体性」について協議をする。
	・実践シートや動画の活用を継続する。

5 2年次目の研究実践

(1) 研究方針

実施の枠組み: 実践前になのはなグループにおける目指したい主体的な姿について話し合い、具体的に深めた(Fig.2, Table2)。その内容を踏まえ、なのはな1組～6組の各学級で実践シート(Fig.3)を活用し、授業・指導実践を行った。

実践内容の選定基準: 前年度の課題「児童の困り感に寄り添いたい」ということを踏まえ、各学級が日常的に感じる課題や児童の困り感を実践内容として選出した。

共有手段: 実践シートと動画を事前に共有し、検討会をした。協議では、各学級が協議の柱を設定し、それを踏まえて「アイデアの共有」を行った。各学級の実践場面をもとに、支援のアイデアについて意見を出し合った。

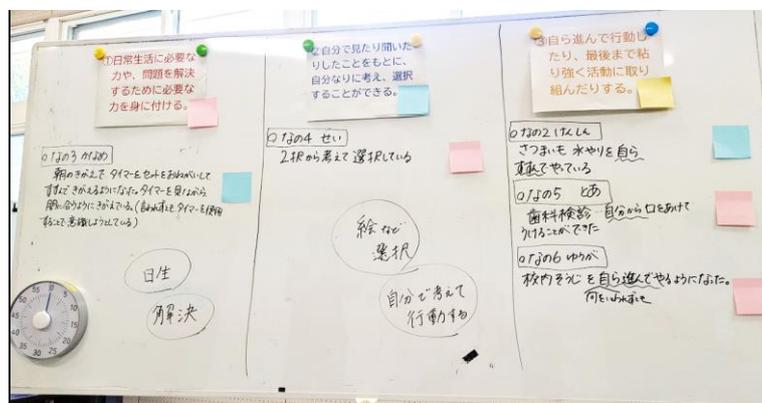


Fig.2 「主体的な姿」を話し合ったホワイトボード-児童の主体的だと感じた行動を3つの視点(①日常生活と課題解決、②選択、③自発的行動)に分類し、具体例を整理した。氏名は伏せている。

令和7年度 授業及び指導実践シート

なのはなグループ の目指したい主体的な姿	① 日常生活に必要な力や、問題を解決するために必要な力を身に付ける。 ② 自分で見たり聞いたりしたことをもとに、自分なりに考え、選択することができる。 ③ 自ら進んで行動したり、最後まで粘り強く活動に取り組んだりする。		
授業日	〇月～	学部	山目校舎小学部 なのはな〇組
単元(題材)名 (指導場面)	〇〇	授業者 (指導者)	〇〇〇〇
目標			
目標に関連する 主体的な姿			
(目標に対する) 実態			
手立て			
アイデアの共有			
① 協議の柱①		② 協議の柱	
※検討会で得たアイデアを記入。			
授業改善後			
【取り入れた手立て】			
【児童の変容・様子】			
【成果と課題】			
【今後の方針】			

Fig.3 2年次研究で使用した実践シートの様式 -1年次の項目に加え、「目指したい主体的な姿」「目標に関連する主体的な姿」「授業改善後」を追加し、研究主題に沿った視点の明確化と授業改善後の記録を可能にした。

(3) 授業実践と授業改善の結果

なのはな1組～6組の実践シートを次ページに示す。

令和7年度 授業及び指導実践シート(山目なのはな)

<p>なのはなグループ の目指したい主体的な姿</p>	<p>① 日常生活に必要な力や、問題を解決するために必要な力を身に付ける。 ② 自分で見たり聞いたりしたことをもとに、自分なりに考え、選択することができる。 ③ 自ら進んで行動したり、最後まで粘り強く活動に取り組んだりする。</p>		
<p>授業日</p>	<p>4月～</p>	<p>学部</p>	<p>山目校舎小学部 なのはな1組</p>
<p>単元(題材)名 (指導場面)</p>	<p>日常生活の指導 「そうじ」</p>	<p>授業者 (指導者)</p>	<p>館下 智子、伊藤 起子、伊藤 真美</p>
<p>目標</p>	<p>・掃除の基本的な動作を身に付ける。 ・友達や先生と協力して掃除する楽しさを知る。</p>		
<p>目標に関連する主体的な姿</p>	<p>・机を運んだり、ほうきを取り出したり、ほうきで掃いたりなどの、活動に自分から取り組んでいる。 ・先生や友達のことを手伝って、活動しようとする。 ☆清掃について、自分から取り組めるようになれば、帰りの支度もスムーズになり、「できた!」という成功体験を積むことができるのではないかな。</p>		
<p>(目標に対する) 実態</p>	<p>【児童F】 ・教師と一緒に机と椅子を持ち上げて運ぶことができるが、引きずることも多い。 ・ミニほうきよりも座敷ほうきを好み、ちりとりにごみを掃きいれることができる。 ・集中が継続しづらく、活動に取り組めないこともある。</p> <p>【児童G】 ・教師と一緒に机と椅子を運ぶことができる。 ・ミニほうきを使うことを理解し、自分で取り出すことができる。 ・ミニほうきの使ってちりとりでごみを取ることができる。 ・ごみ捨てに行くことができる。</p> <p>【児童H】 ・教師と一緒に机と椅子を運ぶことができるが、引きずってしまうことが多い。 ・ホワイトボードやハンガーラックを運ぶことを好む。 ・ミニほうきを使ってちりとりにごみを入れようとする。 ・ちりとりを床に叩きつけてしまうこともある。</p>		
<p>手立て</p>	<p>・ちぎった紙を床にまいて、ごみを見えやすくする。 ・扱いやすいミニほうきを用いる。 ・イラストを用いて、手順を視覚的に提示する。</p>		
<p>アイデアの共有</p>			
<p>① 清掃に自分から取り組みたいような環境設定・手立てについて</p>	<p>② これから発展した清掃活動はどのようなことができそうか。</p>		
<p>・掃く区域を視覚手に示す。例えば教室を半分ずつ掃除する。(半面に机を運ぶ。) ・掃除が終わったらご褒美シールがもらえる、好きな〇〇ができる、といったご褒美制度を設ける。 ・全部終わったら好きなことができる、など見通しがもてるスケジュールを提示する。 ・例えば「机を運ぶ」、「掃く」、「拭く」など、自分の仕事のみ取り組む。</p>	<p>・実態に合った長いほうきを使ってみる。 ・机と椅子の持ち方を確認する。(都度指導する。) ・学級の教室以外の教室も掃除する。(〇〇のために)、(目的意識をもって)というような掃除をする目的を併せて確認する。</p>		

【協議の柱の横断的な意見】

- ・もう少し大きいほうきを使ってみてもよいのではないか。→3組など他学級のほうきを使ってみる。
- ・一緒に取り組んで良くない刺激になる場合は、活動内容やスペースを分けてみるとよいのではないか。
- ・みんなごみ捨てに行きたいのであれば、自分の範囲のゴミを集めてマイゴミ箱に入れて捨てるに行くのも楽しみがあって集めるのも励みになるかもしれない。

授業改善後

【取り入れた手立て】

- ・机・椅子は廊下に出さず、教室後方に移動した。
- ・ゴミを置くスペースをそれぞれに分け、個別作業をできるようにした。
- ・大きめのほうきを使用した。
- ・児童Hは他活動を優先し、掃除はゴミ捨てのみとした。

【児童の変容・様子】

- ・机と椅子を運ぶ距離が短くなり、行動範囲が狭まったことで廊下の飛び出しがなくなった。
- ・自分のスペースのゴミを掃こうとする姿がみられた。
- ・大きいほうきで掃除でき、自分から掃除しようとするやる気がみられた。
- ・ゴミ捨てに専念することで、帰りの身支度の時間が確保できるようになった。

【成果と課題】

○成果

- ・活動内容を個別に設定することで、それぞれのやる気を引き出すことにつながった。
- ・使用する道具の工夫で、行動が変わることを再認識した。
- ・児童の休憩時間を確保でき、余裕をもって帰りの準備ができることが増えた。

●課題

- ・机を引きずりや、危険ないすの持ち方がみられる。
- ・児童Hは掃く活動で集中が途切れやすく、他児童にも影響がある。

【今後の方針】

- ・引き続き、机といすの持ち方について指導していく。
- ・ゴミ箱を2つ用意し、他2人が掃き終わっていても、ゴミ捨てに行けるようにする。
- ・始めに「えいえいおー!」、終わりに拍手などより達成感ややる気を引き出す声掛けをする。
- ・今後も主体的にできる掃除の活動を検討していく。

～提案した実践の様子～



令和7年度 授業及び指導実践シート(山目なのはな)

<p>なのはなグループ の目指したい主体的な姿</p>	<p>① 日常生活に必要な力や、問題を解決するために必要な力を身に付ける。 ② 自分で見たり聞いたりしたことをもとに、自分なりに考え、選択することができる。 ③ 自ら進んで行動したり、最後まで粘り強く活動に取り組んだりする。</p>		
<p>授業日</p>	<p>4月～11月</p>	<p>学部</p>	<p>山目校舎小学部 なのはな2組</p>
<p>単元(題材)名 (指導場面)</p>	<p>視覚支援を用いた文字のなぞり書き (児童J)</p>	<p>授業者 (指導者)</p>	<p>眞岩、遠藤、佐々木</p>
<p>目標</p>	<p>・視覚支援教材を活用して、簡単な文字をなぞることができる。 ・少しずつなぞれる文字を増やしていく。</p>		
<p>目標に関連する主体的な姿</p>	<p>・視覚教材を活用して、自信をもってなぞり書きすることができる。 ・自分で字形を整えてなぞり書きすることができる。 (特に名前の文字)</p>		
<p>(目標に対する) 実態</p>	<p>・見る時に目をかなり近付けて見ることが癖になっている。 ・医大に年に一度定期通院しているが、見え方については検査をしても視力の問題なのか認知の問題なのか判断が難しい段階のようだ。 ・なぞり書きについては、簡単な一画の文字はおおむね書くことができるが、二画以上の文字は難しい。 ・同じ塗り絵を繰り返し取り組む中で、以前は色を教師に聞きながら塗っていたが、慣れてくると自分で色や塗る場所を覚えて塗ることができるようになってきている。</p>		
<p>手立て</p>	<p>・様々な視覚教材を用意し、本児に合う教材を見つける。 ・簡単な文字から始め、文字を大きくして書きやすいようにする。 ・正しい姿勢で書くよう指導する。</p>		
<p>アイデアの共有</p>			
<p>① 視覚認知の特性から、どのような支援や指導がよいか。</p>	<p>② 文字を書く支援として、どのような教材・教具がよいか。</p>		
<p>・図形の教材について、○△□など、それぞれの形に切って、触覚的にも分かりやすくする。 ・体を使った作業的な課題をする。例えば、指でなぞる、色集めをする、など。 ・文字だけでなく、線(波線やギザギザ)や形(○△□など)のなぞり書きもする。 ・レゴブロックを模倣する課題、おすすめです。 ・大きい文字→徐々に小さくしていく。 ・粗大運動と微細運動で「注目」、「認知面」の向上を図る。例えば、粗大運動はパズル、微細運動は洗濯ばさみを挟む課題があげられる。 ・生活や遊びの中で、認知面の発達を促していく。 (物の名前やパズル、塗り絵など)</p>	<p>・1画ずつ色が異なる教材を使っているのが、見やすく良いと思った。プリントで名前を書くときも、そのようにしても良いのではないか。 ・現在活用している教材を繰り返し取り組む。 ・段ボールの型を使ったなぞり書きが良いと思った。もう少し大きくして、ペンが滑りやすくなるようテープをはるのも良い。 ・ザラザラした紙に書くことで、力を入れてぐらつかずに書くことができるかもと思った。</p>		
<p>提案を受けての感想</p>			
<p>・色を分けるのは、認知の特性が強いのではないか。動画では、5色を分けていたが、3色に減らすなど段階を踏んでも良いのかもかもしれない。</p>			

・色々な取り組みをされているので、その繰り返しや徐々に発展させていくことが良いと思った。

授業改善後

【取り入れた手立て】

- ・丸、三角、四角の形との図形の型はめ
- ・はたらくるまの型はめパズル
- ・同じ色に同じ色の洗濯ばさみをはさむ
- ・ざらざらした平仮名のプリントを指でなぞる
- ・大きい文字の平仮名プリントのなぞり書き
- ・丸、三角、四角の形や、ギザギザ、なみなみの形のなぞり書き

【児童生徒の変容、様子】

- ・形や色の種類が少なく、立体的なものでの型はめは分かりやすかったようで、すぐにできた。また、繰り返し行ううちに、マジックテープを貼る形や色分けがより複雑になった課題も正しくできるようになった。
- ・1画ごとに色分けし、A4に大きく書かれた平仮名だと、「か」や「も」など線が交差している平仮名も正しくなぞり書きすることができていた。

【成果と課題】

○成果

- ・触覚的に分かりやすい課題を使用したことで、形や色の違いを認識しやすくなった。
- ・見やすいプリントを使用したことで、平仮名の形やなぞり方などが認識しやすくなった。

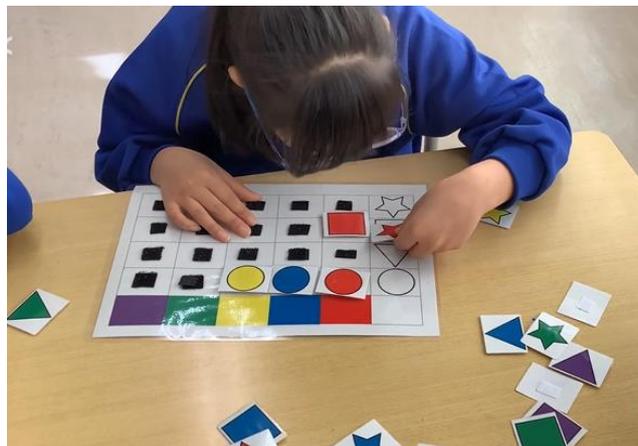
○課題

- ・ブロックを模倣する課題や、作業的な課題も取り入れていきたい。

【今後の方針】

- ・平仮名は1画ごとに色分けしたプリントと触覚的に分かりやすい指でなぞれるものを併用しながら、取り組んでいきたい。
- ・パズルや型はめ、せんたくばさみ課題などの「注目」と「認知面」の向上を図る課題にも、引き続き段階に合わせて取り組んでいきたい。

～提案した実践の様子～



令和7年度 授業及び指導実践シート(山目なのはな)

<p>なのはなグループ の目指したい主体的な姿</p>	<p>① 日常生活に必要な力や、問題を解決するために必要な力を身に付ける。 ② 自分で見たり聞いたりしたことをもとに、自分なりに考え、選択することができる。 ③ 自ら進んで行動したり、最後まで粘り強く活動に取り組んだりする。</p>		
<p>授業日</p>	<p>7月～10月</p>	<p>学部</p>	<p>山目校舎小学部 なのはな3組</p>
<p>単元(題材)名 (指導場面)</p>	<p>自立活動 (児童K)</p>	<p>授業者 (指導者)</p>	<p>宮田 恵莉、安部 千恵子</p>
<p>目標</p>	<p>自分の気持ちや要求を言葉やイラストで伝えることができる。 自分の要求が通らないとき、気持ちを落ち着ける方法を選択しようとする。</p>		
<p>目標に関連する主体的な姿</p>	<p>・友達との関わりで困ったときに、叩く・押すなどの行動ではなく、言葉やカードで要求を伝えようとする姿① ・視覚支援や教師の声掛けを手掛かりに、自分で納得できる方法を選んで行動する姿② ・気持ちが高ぶっても、選んだ方法を最後までやり遂げようとする姿③ ・「できた」と達成感を味わい、次への意欲につなげる姿③</p>		
<p>(目標に対する)実態</p>	<p>① 友達の言動が気になったときに、衝動的な行動(叩く・押す)で気持ちを表すことがある。 ② 友達への要求を言語化したり、適切に表現したりすることが難しい。 例: 友達に近づいて何かを訴えたい様子だが、要求が読み取れない。 「わあああ！」などと大きな声で叫ぶ。 ③ 制止が逆効果になりやすく、エスカレートしてしまう傾向がある。 ④ 落ち着くパターンは多様で、友達に「分かったよ」「〇〇だよ」と言われて納得できるときもあれば、要求が通るまで友達に訴え続けるときもある。 ⑤ 「おはなししよう」などの文字やイラストで見ると、言葉で伝えようとする姿もみられる。 ⑥ 報酬(ご褒美シール)による動機づけが有効な場面もある。</p>		
<p>手立て</p>	<p>・教師が児童の要求を確認し、児童がその要求を紙に書いて相手に伝える。 ・エスカレート防止のため、制止ではなく代替行動を促す。(「〇〇してね」など言い方を教える) ・「がまん」「まあいっか」「おはなししよう」などのイラストを示し、行動の選択肢を分かりやすくする。 ・「がんばりボード」を活用し、良い行動ができたときには、ご褒美シールを渡す。 何を頑張るかなど具体的な目標をイラストで選択させる。(児童Lが気になってできないこと「体操をする」「体育座りをする」「朝の会の司会」などなど)</p>		
<p>アイデアの共有</p>			
<p>①新たな手立てのアイデア</p>		<p>②落ち着く方法のバリエーション</p>	
<p>・ポジティブな声掛けや報酬を用意する。 ・朝・帰りの会や授業など一緒に活動しなければいけないときは、視覚(パーテーション)、聴覚(イヤーマフ)を遮って、児童Lの情報を得られないようにする。 ・この時間我慢出来たら好きな活動ができる、とご褒美を用意する。</p>		<p>・クールダウンできるスペースを教室外や教室内に用意する。 ・他に夢中になることを増やす、例えばパズル、本、タブレット、DVD、感触グッズなど。 ・児童Lと距離を置くために、他学級に行ってリフレッシュする。 ・要求を適切に表現したり、言語化(気持ちの代弁)したりする。</p>	

- ・感覚的な(音・声など)苦手が強いのなら、児童と別々の時間を作っておく。
- ・「好きなこと」を上手く使う。→机にはる、日課表にはるなど常に意識できる形での提示をする。

【横断的な意見】

- ・友達の様子があまりにも気になるときは、カーテンで仕切ってみえないようにする。
- ・落ち着く場所や物を状況に応じて活用する。

授業改善後

【取り入れた手立て】

- ・他学級に行き、クールダウンをする。(主に2組)。2組で朝学習、朝の会に参加した。

【児童生徒の変容、様子】

- ・友達の言動が気になり、落ち着かなくなったときに他学級に移動した。始めは抵抗感もみられたが、他学級に入ると気持ちが落ち着き、やるべき事に取り組んでいる。また、リフレッシュにもなるようで、学級に戻った後は友達の言動が気にならなくなっている。

【成果と課題】

- ・普段は見せる機会が少ない児童の実態や学級の様子を共有することができて良かった。他学級にも協力いただくことで、支援の負担が軽減され、児童を受け入れる体制を整えることができている。児童にとっても、他学級との関わりは良い刺激になっている。・児童のこだわりや執着について、様々な視点から把握し、快適に過ごせるよう支援をしていきたい。

【今後の方針】

- ・休み時間にも他学級と一緒に活動し、リフレッシュできるようにしていきたい。
- ・他の手立ても取り入れ、有効的な支援を増やす。

～提案した実践の様子～



令和7年度 授業及び指導実践シート(山目なのはな)

<p>なのはなグループ の目指したい主体的な姿</p>	<p>① 日常生活に必要な力や、問題を解決するために必要な力を身に付ける。 ② 自分で見たり聞いたりしたことをもとに、自分なりに考え、選択することができる。 ③ 自ら進んで行動したり、最後まで粘り強く活動に取り組んだりする。</p>		
<p>授業日</p>	<p>4月～</p>	<p>学部</p>	<p>山目校舎小学部 なのはな4組</p>
<p>単元(題材)名 (指導場面)</p>	<p>手先をたくさん使おう (自立活動)</p>	<p>授業者 (指導者)</p>	<p>種綿、佐々木真</p>
<p>目標</p>	<p>・手先を使った活動に慣れる。 ・日常生活に必要な力を身に付ける。</p>		
<p>目標に関連する主体的な姿</p>	<p>① 日常生活に必要な力を身に付けることができる。 ② 繰り返し取り組むことで、自分なりの方法で課題に取り組むことができる。 ③ 目標数を、時間いっぱい取り組むことができる。</p>		
<p>(目標に対する) 実態</p>	<p><児童M> ・時間いっぱい着席をして課題に取り組むことができるようになってきた。 ・教具が口にいきがちなので、注意が必要。 <児童N> ・課題の内容や順番が分かり、意欲的に取り組むことができる。 ・手指の動かし方に困難さがあり、手先を使った作業に難しさがある。筆圧が薄い。 <児童O> ・課題の内容が分かり、最後まで意欲的に取り組むことができる。 ・注意が逸れやすく、課題に注視することが難しい。また、微細な作業が苦手な傾向にあり、苦手意識もある。</p>		
<p>手立て</p>	<p>☆現在取り組んでいる課題 <児童M> シール貼り、型はめ、プットイン課題、色塗り <児童N> ボタン掛け外し、洗濯ばさみ操作、シール貼り、型はめ、はさみで切る(短辺のみ)、スティックのりで塗る、平仮名・数字なぞり <児童O> 箸つかみ、洗濯ばさみ操作、シール貼り、型はめ、運筆(始点、終点の意識、なぞり書き)</p>		
<p style="text-align: center;">アイデアの共有</p>			
<p>①後期の取り組みに向けて</p>		<p>②はさみの使用について</p>	
<p>今後のレベルアップを狙うにあたり、どのような課題を取り入れるのが有効であるか。 主な課題として挙げられるのが↓ ・児童M→手指の使い方(握る、つかむ)、課題への注目、ペンの持ち方 他 ・児童N→手指の使い方(指感覚の独立、手のひらを開く、閉じる他)、ボタンの掛け外し(小ボタン)他 ・児童O→課題への注目、手指の微細な動き(力の調節)他</p>		<p>後期の取り組みの1つとして、「はさみの安全な使用」を挙げている。自立活動の時間の中でも毎日のように取り組んでいく予定である。技能の向上において、どのようなステップを踏んでいくとよいのかアイデアをいただきたい。ちなみに↓ ・児童M→(現状)教師と一緒に扱う。 →(ゴール)回数をこなし扱いに慣れる。 ・児童N→(現状)一人で扱えるが、見守りは必要。直線一発切りであればできるが、曲がる。 →(ゴール)まっすぐ切る。長い直線を安全に切る。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・児童0→(現状)手元を見ず力任せ。一人で扱うのはまだ危険。 →(ゴール)手元を見て、短い直線を一人で切る。
<ul style="list-style-type: none"> ・レベルを上げた新しい課題を用意するより、今やっている課題の精度を上げる。例えば箱やプリントが動かないようにする、指でなぞってみる。 ・課題の出し入れ(準備)からする。 ・ボンドの上に砂のせたものをラミネートして指でなぞることで、繰り返し取り組める課題をする。 ・児童M→ペグ差しや小さい細い積み木入れをする。 ・児童N、児童0→ゲーパーパーと手を動かしたり、ボールを握ったりして手のひらを使う。 ・児童0は滑り止めシートを敷いて鉛筆で書く。 ・児童MはA地点からB地点に移動する課題をする。 例)ペットボトルキャップを取って隣の机の箱に入れる。距離を少しずつ離して、教室内の端から端へ行く。 ・滑り止めシートがあれば、手先の動きがより身に付きそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薄い紙は意外と切りにくいため、画用紙を使う。 ・子ども用のハサミを使用して、色の付いた所を切る。 ・児童Mはカスタネットはさみを用いる。 ・毎日はさみに触れるために、掃除の時に床にまく紙を切る(細長い紙を切る)。 ・短冊状の紙に印をつけて1回握って紙を切る、実際に切る活動をしてはどうか。 ・練習用のハサミを使う ・掃除に使うゴミを作ったり、ラミネーターを切ったり、シュレッダーのように細く長く切ったりするなど、いろいろただ切る活動をする。
提案を受けての感想	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童Mが静かに座って活動して行って日々の成長を感じた。 	
授業改善後	
<p>【取り入れた手立て】</p> <p><後期の取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの課題をレベルアップしたり、新規で導入したりした。 児童M→より小さいプットイン課題、布引っ張り、○△□の型はめ 児童N→パズル、ボールペン組み立て、ひも通し 児童0→○△□の型はめ、色に対応した洗濯ばさみ課題、 <p>※3人共通で書く課題に取り組む際に、「すべらない下敷き」を導入。</p> <p><はさみ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれに合った課題を用意し、個別学習の時間に毎回取り組むようにした。 児童M→線に沿って切る課題を用意。動物や食べ物のイラストを入れることで、手元に注目しやすくなるよう。 児童0→画用紙等の厚紙を一発切りする課題を導入。 <p>【児童生徒の変容、様子】</p> <p><後期の取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の取り組みに慣れてきて、精度が上がってきている。 <p><はさみ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・成功体験を積み、日々技術の上達が見られる。 児童N→線に沿って切れるようになってきた。(集中すると無言になる) 	

児童0→手元注視の集中力アップ。教師と一緒にはさみを扱うだけでなく、一人で安全に扱うこともできるようになってきている。

【成果と課題】

＜成果＞

・いただいた助言を基に授業改善をしたことで、児童の成長につながった。

＜課題＞

・課題設定には適切な実態把握が不可欠。実態把握をより密にしていくことの重要性を痛感した。

【今後の方針】

・現在の取り組みを継続するとともに、少しずつ変化をつけていき、マンネリ化しないようにする。

～提案した実践の様子～



令和7年度 授業及び指導実践シート(山目なのはな)

<p>なのはなグループの目指したい主体的な姿</p>	<p>① 日常生活に必要な力や、問題を解決するために必要な力を身に付ける。 ② 自分で見たり聞いたりしたことをもとに、自分なりに考え、選択することができる。 ③ 自ら進んで行動したり、最後まで粘り強く活動に取り組んだりする。</p>		
<p>授業日</p>	<p>8月下旬</p>	<p>学部</p>	<p>山目校舎小学部 なのはな5組</p>
<p>単元(題材)名(指導場面)</p>	<p>時計ゲーム (個別課題の一部活動の場面)</p>	<p>授業者(指導者)</p>	<p>佐々木 碧 (石田 祥子)</p>
<p>目標</p>	<p>・文字や言葉で時間を確認し、〇時のアナログ時計の針を合わせることができる ・〇時に行う活動について、いくつかの選択肢の中から正しいものを選ぶことができる。</p>		
<p>目標に関連する主体的な姿</p>	<p>・自分で言葉や文字を確認し、正しい時間に針を合わせる。 ・それぞれの時間に行うべき活動を考え、見通しを持つ。</p>		
<p>(目標に対する)実態</p>	<p>・アナログ時計の〇時ちょうどとデジタル時計の〇時ちょうどをマッチングすることができるが、間違えることがある。 ・一日の活動(給食、そうじ、皿洗い、昼休みなど)を示したシールを、一日の流れに沿って並べかえることができる。 ・「何時に何をするのか」という時間と活動のマッチングは、できないことが多い。</p>		
<p>手立て</p>	<p>・〇時の部分が視覚的にわかりやすい教材を作成・活用する。 ・〇時に何があるのかについて、はじめは容易に判断できるものから選択させ実態に応じて徐々によく考えて判断する選択肢にしていく。(はじめ→12じにするのはきゆうしよくとよるごはんどっち? / 次→あさ7じにするのは、おきるのとランニングどっち?)</p>		
<p>アイデアの共有</p>			
<p>② 時計の学習の進め方について</p>		<p>② 時計の学習のアイデア</p>	
<p>・時計の学習をこれまでどのように取り組んできたか助言をいただきたい。(〇時5分や〇時30分など、どのような順番で取り組んでいくと理解しやすいのかなど)</p>		<p>・日常的にできる時計の学習のアイデアを教えてください。</p>	
<p>・たくさんの教材を出し入れするのではなく、取り組みやすい一つの教材で繰り返し取り組む。 ・時計の針を自分で動かす。 ・アナログ時計の〇時のところを目立たせる。 ・iPadのアプリやプリントでも取り組むことができる。 ・生活の中で時計を見る機会を作る。 ・教室にアナログ時計とデジタル時計を並べて置いたら覚えた児童がいた。生活の中で時計が役立つという経験をする必要があると思う。 ・「スケジュール」⇔「時計」は分けて考えてよいのではないか。関連付けたいのであれば、興味のあるところから始めると良い。例)「昼休みは〇時〇分からだね」など。 ・①何時の理解、②何分の理解という順で、何時と何</p>		<p>・日常的にクラスの時計は見てもらうよう、声を掛ける。 ・日常生活の中で時計の針を設定させる。 ・給食後、遊びに行くのは「9」から(12時45分)と声を掛けるなど、日常生活と関連させる。 ・本児童の好きなことを「〇時〇分になったらやろう!」と声掛けする。そうすれば、本児からその時間になったことを教師に報告するようになるかもしれない。 ・日常的に、「今何時?」「10分後は何時何分?」といったクイズを出題し、時計の針を自分で動かしてみる機会を設ける。</p>	

<p>分を丁寧に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時計の「1」の先には「5」、「2」の先には「10」といった〇分の数字が書かれた簡単時計から始める。 ・クイズ形式にして「今は何時何分でしょう？」と学級全体に出題してみる。答えられる児童がいれば、答えることが難しい児童でも自然と時計に注目するようになってくる。 	
授業改善後	
<p>【取り入れた手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の教材を使うのではなく、時計の針を動かして指定された時間に針を合わせる教材の一つに絞り、繰り返し指導を行った。 ・教材の短い針(赤)と長い針(青)の色に合わせて〇時と〇分の字に色を塗り、視覚的に〇時と〇分を区別しやすくした。 ・日常生活の中で、今が何時かを聞いたり、「長い針が〇になったら終わり」など、時計を確認する時間を設けた。 <p>【児童生徒の変容、様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめは〇時と〇分の区別がつかず、針を合わせられなかったが、繰り返し課題をこなす中で、短い針・長い針をどちらに合わせれば良いのかが定着していき、〇時ちょうどを針で合わせたり「〇時3分」のような時間も針で表せたりすることができるようになった。 ・日常生活の中でも短い針がどこを指しているのかを聞くと答えることができた。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・針を〇時・〇分に合わせることはできるが、2時と3時の間などに短い針が来た時、何時なのかはまだ定着していない。 ・1～20までの数の順序はある程度理解しているが、それ以上の数の順序は難しいので、「〇時25分」などの数を指定すると、長い針を合わせるのに時間がかかる。 <p>【今後の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇時と〇時の間が何時かについて、教材を改良して視覚的にわかりやすくなる工夫をする。 ・時間と並行して、数を数える学習も少しずつ行っていく。 	

～提案した実践の様子～



令和7年度 授業及び指導実践シート(山目なのはな)

<p>なのはなグループの目指したい主体的な姿</p>	<p>①日常生活に必要な力や、問題を解決するために必要な力を身に付ける。 ②自分で見たり聞いたりしたことをもとに、自分なりに考え、選択することができる。③自ら進んで行動したり、最後まで粘り強く活動に取り組んだりする。</p>		
<p>授業日</p>	<p>6月19日(木)～</p>	<p>学部</p>	<p>山目校舎小学部 なのはな6組</p>
<p>単元(題材)名 (指導場面)</p>	<p>たし算ゲーム</p>	<p>授業者 (指導者)</p>	<p>川村 有 及川 舞</p>
<p>目標</p>	<p>・楽しくゲームに取り組みながら、数を合わせて繰り上がる処理に慣れる。 ・1から9までの数について、いくつかの選択肢からマッチングできる。</p>		
<p>目標に関連する主体的な姿</p>	<p>・足される数と足す数について、算数ブロックを自分で操作し、答えを出す。 ・自分が振るサイコロの目に注目し、同じ数字のカードを選択肢から見つける。</p>		
<p>(目標に対する)実態 6月25日時点</p>	<p>・足す数がひと桁の繰り上がりの足し算を暗算で答えるが、間違ってしまうことが多い。(児童A) ・ひと桁同士の繰り上がり足し算について、算数ブロックを並べて10のかたまりになったことに気づくことができる。(児童B) ・ひと桁同士の繰り上がり足し算について、繰り上がって10からはみ出た算数ブロックの数から答えを推理することができる。(児童C) ・並べた算数ブロックの数を数えて書くことができる。(児童D) ・教師が言った数について、二択から正しく選ぶことが多いが、よく見ずに選んで間違ってしまうこともある(児童E)</p>		
<p>手立て</p>	<p>・足される数と足す数について、それぞれ色の違う算数ブロックを用意する。 ・算数ブロックを並べる表は、10で改行するように用意する。 ・サイコロと数字カードは大きく視認性の良いものを用意する。</p>		
<p>アイデアの共有</p>			
<p>① 単元計画</p>		<p>② 自立的な個別学習</p>	
<p>・この単元の後の展開として、どのようなグループ活動に取り組むと良いか。</p>		<p>・ここまでできたことを、一人で、プリント課題でできるようになるためのアイデア。</p>	
<p>・引き算をやってみてもよいかもしれない。 ・修学旅行にからめて計算の課題に取り組む。 ・児童Eの作った教材で足し算をする。 ・筆算につなげてよいかもしれない。 ・「$O+O+O$」の3口計算。 ・5や10の合成、分解ができるか確認したい。 →(担当者から)前年度5や10の合成や分解の単元をした。その際にはできていたが、今年度たまに宿題で出すと、難しいことがあった。学習を身に付けていくことの難しさを感じている。</p>		<p>・児童の好きなもの(キャラクター、新幹線等)を活用したプリントにする。 ・実際のシチュエーションを考えた問題(買い物や調理など)にする。 ・児童個人でも使える具体物を使って取り組む。(おはじきやビーズコースター等) ・できるだけそのままプリント学習にするためには…$8+O=$のように足される数は書いておき、足す数を小さいサイコロを振る、出た目分、丸シールをはるとできるのではないか。</p>	

提案を受けての感想

- ・実態差がある学級の中で、個別の実態に合った学習をしているのが素晴らしいと思った。
- ・実態に合った目標を設定しているのがよいと思った。

授業改善後

【取り入れた手立て】

アイデアの共有で出された意見の「修学旅行との関連」「 $\bigcirc+\bigcirc+\bigcirc$ の計算の要素」「児童の好きな新幹線の活用」を取り入れて次のグループ活動の単元を作った。モルックをモチーフにして現在位置の数とサイコロの出目を足してゴールを目指す活動「足し算モルック」に取り組んだ。さらに、足し算モルックをベースに修学旅行と関連させた活動「修学旅行すごろく」として発展させた。

【児童生徒の変容、様子】

数表と自分のコマの位置を確認しながら「10以上の大きな数」+「ひとけたの数」の計算に慣れ、最終的にタイルを並べなくても計算できるようになった児童、並べたタイルの数を数えることで正しい答えを出せる児童などがいた。タイルを使わないで計算できるようになった児童は、数表を使うことで足し算のプリント学習を一人で進めることができるようになった。また、発展した活動で60までの数を扱ったことで、大きな数の読み方や順序関係の理解が深まった。冬休みの宿題ではこれらの単元活動をフォローアップしたプリント課題に取り組む予定。

【成果と課題】

数と量の関係の理解を深めることができたが、この活動を進める中で数唱が覚束ない実態であることが分かった児童もおり、本質的には4種類の算数の学習が混在する単元活動となり目標設定や手立てのレンジがかなり広がった。これを一つの活動として展開するのはかなり難しかったが、「足し算モルック」というベースとなる活動と「修学旅行」というテーマがそれらを包摂することができた。

【今後の方針】

これらの取り組みは具体物操作を前提とした処理だったが、より抽象化し、より大きな数や複雑な計算の筆算につながるような活動を考えたい。また、実生活(買い物や計量など)を想定した数の実際的な処理を学ぶ機会を多く設けたい。

～提案した授業の様子～



～改善後の授業の様子～



6 実践のまとめ

2年次研究を終えて、教員にアンケートを実施した。アンケートは Microsoft Forms で集約し、結果は Copilot で分析・整理した。

(1) 成果

- 児童の主体的な姿が「とても育った」「ある程度育った」との回答が多数を占めた(Fig.4)。
- 掃除や時計学習など各学級で主体的な行動が増加した。
- 実態の共有によって新たな視点が得られた。
- 教材・環境設定の工夫や手立ての明確になった。
- 観察・記録を丁寧にすることができた。
- チームで授業・指導をする意識の高まりにつながった。

(2) 課題

- 研究内容や提案の共有方法の改善(例: Teams 等の ICT 活用)
- 参集回数・時期の調整による負担軽減
- 協議の柱として主体性の視点をさらに明確化し、議論を深める必要がある

2年次研究では、学級間で実態を共有し「目指したい主体的な姿」を具体化した。実践シート+動画を使った〈共有→協議→改善〉で、主体的な行動の増加や、教材・環境の工夫、手立ての明確化、観察・記録の質向上、チーム意識の高まりがみられた。

課題としては、共有方法(ICT)の工夫、参集回数・時期の調整、主体性の視点のいっそうの明確化が挙げられている。これらを次年度の設計に活かしていきたい。

2. 今年度、児童の“主体的な姿はどの程度育ったと感じますか？



Fig.4 「主体的な姿が育ったか」についての回答(R7 年度アンケート結果)– Microsoft Forms で集約した結果をもとに作成。

(3) 終わりに

1年次研究では、各学級の目標に沿った実践を通して、児童の変容が確認できた。一方で、目標に対する「主体的な姿」の捉えが曖昧で、授業改善後の共有が十分ではない場面があった。

2年次研究ではこの課題を踏まえ、実態と手立てを具体的に共有しながら協議で「主体的な姿」を言語化・具体化した。実践シートと動画を活用した〈共有→協議→改善→再共有〉の循環を回すことで、各場面で主体的な行動が増加し、教材・環境、手立て、観察・記録、チーム連携などの面で指導の質が向上した。運営面では、ICT による共有の工夫、参集の最適化、主体性の視点のいっそうの明確化が次への課題となっている。

この2年間の取り組みで得られた知見は、次の研究主題に活かせる確かな基盤となった。教員が取り組みやすい共有・協議の仕組みと、児童の実態に基づく改善を、次年度も着実に進めていきたい。

研究主題

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現をめざした授業実践

1 主題設定の理由

あすなる分教室は、令和2・3年度、4・5年度の研究を通して、集団学習の充実を図り、児童生徒が主体的に学ぶ姿、学校教育目標に掲げられている「一人一人の豊かな学び」の追求と実現に取り組んできた。あすなる分教室のめざす「主体的・対話的で深い学び」と「豊かな学び」について導き出すことができたことは大きな成果であった。

平成6年度からの2年次研究では、あすなる分教室で重点をおいている「集団学習」において、児童生徒一人一人の「個別最適な学び」を支えるとともに、「協働的な学び」が一体的に実現できるような授業づくりを行い、実践を積み重ねていく。研究主題は、学習活動を通して児童生徒がよりよく変容し、主体的に人との関わりを深めていく姿をねがって設定した。

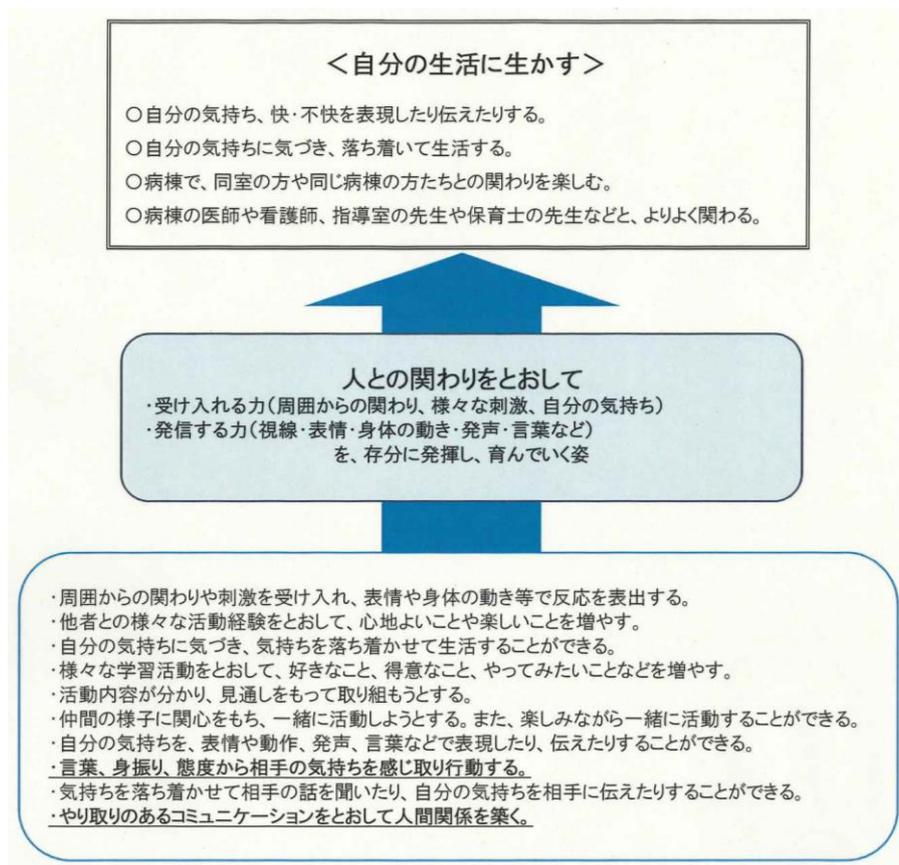
これまでの研究成果をもとに実践を行い、あすなる分教室の研究主題にせまりながら、児童生徒が主体的に学習活動に取り組むことができる有効な支援の手立て(支援のあり方)の蓄積を図っていきたい。

2 推進計画

月 日	研究活動	内 容
4月16日	第1回全校研究会	2年次取り組みの確認
5月14日	グループ研究会①	2年次目の取り組み・研究方針・内容の確認 アセスメントチェックリスト配付
6月17日 ～	グループ研究会②	アセスメントチェックリストを用いた生徒の発達段階について共通理解 夏祭りの取り組みについて
7月 日 16日	グループ研究会③ 夏祭り当日(動画撮影)	夏祭りの取り組みについて 夏祭りの取り組みと当日の様子を動画撮影し全校へ提案
9月 3日	グループ研究会④	夏祭りの取り組みについて(評価)
10月20日	グループ研究会⑤	あすなるタイムの取り組みについて
11月25日	グループ研究会⑥	あすなるタイムの取り組みについて(評価)
12月16日	グループ研究会⑦	グループ研究まとめ
1月21日	グループ研究会⑧	グループ研究まとめ
2月20日	第2回全校研究会	研究の発表、全校研究のまとめ

3 あすなる分教室における、めざす「主体的な姿」

あすなる分教室では、これまでの取り組みをとおして、学校生活で培った「人と関わる力を自分の生活に生かす」ことが「主体的な姿」であるととらえた。(図1)



【図1】

4 1年次目の研究概要

重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト(広島県立福山特別支援学校作成)を使用して児童生徒の実態把握を行い、人との関わりに関係する項目を中心にグループ内での共通理解を図った。それをもとに一人一人の具体的な指導目標を設定した。令和6年度は集団学習の実践として、夏祭りとあすなるタイムでのポッチャを取り上げた。二つの単元において、児童生徒一人一人について個別の指導計画、単元目標、本時の目標、その授業に特化して集団学習でねらいたい姿や身につけてほしい力、支援の手立てを具体的に挙げて検討し、職員間で共通理解を図りながら実践を重ねた。授業参観やビデオによる授業提案で他学部と意見交換を行った。ベッドサイドで学習する生徒について、オンラインによる集団学習への参加を行った。オンライン学習の指導計画作成にあたっては、どの授業でオンライン学習を行えば、より学習効果が高まるかを検討して実施した。授業後は、児童生徒の様子について共通理解を図り、オンライン授業の記録を蓄積できた。

5 2年次目の研究実践

(1)研究方針

- ・1年次の研究成果を生かしながら取り組む。授業実践では集団学習を取り上げ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に実現できるような授業を検討し、PDCAサイクルで実践を積み重ねる。また、有効な支援の手立てについて蓄積を図っていく。
- ・他学部との研究交流をとおして、より効果的な指導方法等について検討し、授業づくりに役立てる。
- ・病棟でベッドサイド学習をしている生徒と、あすなる分教室ホールをつなぐオンライン学習を引き続き行う。生徒が一体感を感じ、共に学ぶ仲間であるという気持ちを持ちながら取り組むことができるような学習内容を吟味し、授業を計画する。オンライン学習を含む、単元での学習活動をとおして「協働的な学び」が実現できるように、職員間で連携を図る。

(2)実践シートの活用について

研究実践として取り上げた夏祭りの取り組みについて、指導計画に関すること、授業参観から得られた意見や感想をシートに記入し、成果と課題として今後の取り組みに向けての資料とした。予定していたあすなるタイムの取り組みは行事日程の変更により今回の研究のまとめには記載しない。全校への提案資料としてフォルダに保存する際、あすなる分教室から他校舎・学部に通じたいことを具体的に挙げなかったため、当日参観いただいた方、全編の動画を視聴いただいた方以外から感想やアイデアを寄せていただくことができなかった。活用の不足として今後への課題とする。

(3)授業実践と授業改善

実践1

令和7年度 授業及び指導実践シート(あすなる)

授業日	7/16(水)	学 部	あすなる分教室 中学部・高等部
単元(題材)名 (指導場面)	夏祭り (自立活動)	授業者 (指導者)	熊谷(T1)、吉田、八重樫、森下、平山、大和田、菅原、及川
目 標	<p>ア 自分で、または教師と一緒に出店のゲームをしたり、くるくる音頭では教師や友達と一緒に踊ったり、進んで楽器を鳴らしたりすることができる。(知識・技能)</p> <p>イ 夏祭りのにぎやかな雰囲気を感じて、言葉や発声、表情、身体の動きなどで、気持ちを表現することができる。(思考・判断・表現)</p> <p>ウ 友達や教師と進んで関わったり、一緒に出店を回ったりして活動を楽しむことができる。(主体的に取り組む態度)</p>		
(目標に対する)実態	仲間や教師の働きかけを感じ取って受け入れることを目標とする生徒、仲間を意識して活動を楽しむことができる生徒、自分の気持ちを言葉や体の動きで伝える生徒。(人間関係の形成)(コミュニケーション)		
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りの雰囲気を感じることができる会場づくり(場の設定) ・生徒が楽しんで活動できるゲームの工夫(教材教具、場の設定) ・生徒が互いを意識できる位置取り、教師が生徒と関わりやすい位置取り(教師の関わり方、場の設定) 		
めざす 主体的な姿	人と関わる力を自分の生活に生かす。		
キャリア教育で育 成したい力	人との関わりを通して、受け入れる力、発信する力を育み、発揮する。		
感想(○よかった点、●工夫が必要)			
<p>○活動を楽しむことができる場の雰囲気づくりができていた。</p> <p>○活動中常に生徒が互いを意識できる位置取りになるように移動していた。</p> <p>●少人数の集団を盛り上げるための教師のかかわり方の工夫。Tも法被を着たり一緒に踊ったりするともっと盛り上がったのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年の出店決めのエピソードが知りたい。 ・くるくる音頭の三味線が風流でよかった。O.Mさんの手がよく動くようになった。 ・生徒の表情がよかった。O.Kさんが足で太鼓を叩いていて、楽しさが伝わってきた。 ・生徒それぞれに表情や声、顔の動きで表出があり、先生方が活動や道具を工夫されたことがよく分かった。 			

授業改善後

あすなるタイム①「ポッチャやろうぜ!!」12月実施。3/4回目は前年度卒業生招待、4/4回目はベッドサイド学習の生徒もオンラインで参加。

【取り入れた手立て】

- ・生徒が楽しんで活動できるゲームの工夫(教材教具、場の設定)
- ・生徒が互いを意識できる活動中の位置取り(教師の関わり方、場の設定)

【児童生徒の変容、様子】

- ・当初活動に乗り気でなかった生徒が、真剣勝負のゲームに楽しさを覚え、活動意欲が高まった。
- ・ベッドサイドから参加する生徒について、病室での投球練習ではポッチャのゲーム感を体感するのが難しいと感じた。当日のオンライン学習では、心拍数の上昇がありホールの雰囲気を感じている様子がみられた。
- ・卒業生参加の回では卒業生がゲームする様子に注目し、同じチームになった卒業生を気に掛ける様子が見られた。
- ・仲間の応援を感じて楽しそうに投球する様子が見えた。活動を楽しみながら勝敗を意識して真剣にゲームに取り組んでいた。

【成果と課題】(○成果、●課題)

- 生徒同士が互いに活動の様子を見合い、互いを意識して、場の雰囲気を感じることで活動意欲の高まりがみられた。
- 普段一緒に活動している仲間にとどまらず、卒業生の様子にも関心をもち意識しながら活動する様子が見られた。
- ベッドサイドで学習する生徒と分教室に登校している生徒が互いに関わりを意識することができる活動内容の設定、工夫について。

【今後の方針】

(4)指導の経過

ア アセスメントチェックリストによる児童生徒の実態把握。

参照：広島県立福山特別支援学校 HP より

<https://www.fukuyama-sh.hiroshima-c.ed.jp/kenkyuu/24check211.0.pdf>

イ 人との関わりに関する項目について共通理解を図り、指導目標を検討した。(図2-1、2)

生徒の発達段階について (アセスメントチェックリストの結果から)

1 対象児童生徒
○○○○ (○学部○年・○歳) ※対象児童生徒の氏名・学部・学年・年齢を記入

2 児童生徒の各分野・領域の発達段階 ※アセスメントチェックリストの結果を記入

分野	領域	段階 (月齢)	各領域における児童生徒像
コミュニケーション	要求表出	※段階1を満たしていない時は空欄	※児童生徒像の具体例を記入
	人間関係		
認知	聴覚言語		
	触覚等		
	視覚等		
昨年度からの変化 ※昨年度から継続してチェックしている方は、昨年度からの変化を記入			

3 指導内容記入表 (課題整理シート)

分野	領域	発達段階	領域番号・課題とする項目	具体的な指導目標 (中期目標)	支援・留意点
コミュニケーション			※コミュニケーションの分野から「時々できる」「おおよそでできる」にマークがついた項目から課題を設定する。		

【図2-1】

児童生徒の発達段階について (アセスメントチェックリストの結果から)

1 対象生徒
記入例 (高等部3年・17歳)

2 児童生徒の各分野・領域の発達段階 ※アセスメントチェックリストの結果を記入

分野	領域	段階 (月齢)	各領域における児童生徒像
コミュニケーション	要求表出	V (10~12ヶ月)	・選択を聞く場面では好きな物を決まて選ぶ。 ・支援者が見ている方向に視線を向ける。
	人間関係	IV (7~9ヶ月)	・支援者の介助に対して協力する様子をあらわす。 ・名前を呼ぶと叫ばれた方を向く。
認知	聴覚言語	IV (7~9ヶ月)	・自分の名前を呼ばれたとき反応がある。 ・数メートル離れた場所から声を掛けられて、反応がある。
	触覚等	V (10~12ヶ月)	・箱の中の物を出す。 ・(差し出された物や目の前に提示されたもの) 親指と人差し指でつまむ。
	視覚等	IV (7~9ヶ月)	・新着な物に対して興味を示す。 ・視野内に落ちたおもちゃ等を注視する。
昨年度からの変化 ・経験が積み重なって見直しをもって活動に取り組みができる場面が増えてきた。 ・気持ちの切り替えが早くなり、落ち込んで過ごすことができるようになった。			

3 指導内容記入表 (課題整理シート) 評価: よくできた◎ できた○ もう少し△

分野	領域	発達段階	領域番号・課題とする項目	具体的な指導目標	評価	支援・留意点
コミュニケーション	人間関係	V	V42 自分の名前を呼ばれると声を出したり、手を上げたりして返事をする。	・始まりの会で呼ばれた時、すぐに呼名者を見て声を出す。 ◎	◎	・呼名される前に声掛けをして注意を促す。 ・タイミングよく返事ができたときはフィードバックして定業につなげる。

<今年度の様子>
呼名に対する反応は速くなった。呼名者を見る場面が多くなった。スイッチを押したり、仲間や教師と物の受け渡しをしたりするとき、物の強い「軍」になった。

【図2-2】

ウ 集団学習の実践。生徒一人一人について個別の指導計画、単元目標、本時の目標、その授業をとおして集団学習でねらいたい姿や身につけてほしい力、支援の手立てを具体的に挙げて検討し、職員間で共通理解を図りながら実践を重ね、成果と課題を検討し共通理解を図った。本年度は、7月に自立活動「夏祭り」を取りあげた。(図3)

「夏祭り」学習の様子及びねらい等 (支援の手立ての工夫 ■活動の流れの工夫 ●教材教具の工夫 ☆教師の関わり工夫 ★場の設定の工夫)

生徒名	本単元における集団学習でねらいたい姿(目標)	ターゲットにしたい活動でのねらい(欠席)	支援上の手立て・留意点	評価	◎よくできた ○できた △もう少し
I. R 中1	・教師の声掛けやくるくる音頭に耳を傾けようとする。 ・教師と一緒に出店準備に取り組む。	(欠席)	★夏祭りの雰囲気を感じることができるよう、毎日くるくる音頭に合わせて楽器を鳴らす。 ☆教師が明るく声を掛けながら、生徒ができる動きで準備をすすめる。	◎ ◎	・目を覚まして授業に集中できるときは、教師の声掛けやくるくる音頭に耳を傾け、注意を向けようとした。 ・シール貼りやのり付けなど、教師と一緒にできることで出店の準備に取り組んだ。
W. A 中1	・仲間と場所や道具、材料を共有し、夏祭りの準備をしている雰囲気を楽しもうとする。 ・教師の声掛けや流れる音楽から感じた思いを表情、発声、身体の動きなどの方法で表現する。	・教師や保護者と出店を回り、魚釣りのあてを行いながら会場全体の楽しい雰囲気を感じる。 ・教師や保護者の声掛けや友達が楽しんでいる様子から夏祭りの雰囲気を感知、楽しもうとする。	☆夏祭りの楽しさを感じることができるよう、教師は、場の雰囲気、本人や友達の様子を読み取り、言葉にして伝える。	○ ◎	・教師や保護者と一緒に出店を回ることができた。普段と違う学習の流れや内容、雰囲気を感じ、楽しむことが難しかった。 ・教師や保護者の声掛けや促して、飾りを触ってみたり魚を教える声に耳を傾けたりして、夏祭りの雰囲気を楽しもうとした。
I. R 中2	・教師の声掛けに表情や身体の動きで応えながら出店の準備ができる。 ・夏祭りのにぎやかな雰囲気を感知し、感じたことを表情や口の動きで表現する。	・鳴子や太鼓の音、お踊りのリズム等を感じながらみんなとくるくる音頭を踊ることができる。 ・友達や教師と一緒にあてや魚釣りの出店を楽しむ。	★リズムを声掛けしながら踊ったり、教師と一緒に鳴子を鳴らす場面を設定したりする。 ☆友達や周囲の様子を意識できるように声をかけ、反応がみられた場合には共感したり言語化したりする。	◎ ◎	・曲や鳴子、太鼓などの音に注意を向け、踊りのリズムを感じながらみんなとくるくる音頭を踊ることができていた。 ・友達と一緒に出店を楽しむことができた。感想発表で友達と出店をまわって楽しかったことを話すと表情が和らいでいた。
O. K. 中2	・仲間と一緒に出店の準備をすることで、夏祭りへの期待感をもつ。 ・意欲的に自分の役割に取り組んだり、出店を体験したりする。	・友達の活動している様子に注意を向けることができる。 ・表情や足の動きで行きたい出店を選び、友達や教師と一緒にあてや魚釣りを楽しむ。	☆友達の様子に注意を向けることができるような声掛けをしたり、頭や身体の向きを調整したりする。 ☆周囲の様子を伝え、楽しい雰囲気を共感できるようにする。	◎ ◎	・魚釣りやあてでは、友達の活動に注意を向けて見たり、友達を意識して出店体験をしたりしていた。 ・浴衣が暑かったこともあり、表情が固いこともあったが、的あてでは順番を決める時に最初を希望する等意欲的に参加していた。

【図3】

6 実践のまとめ

(1) 成果

- 取り組む単元、ターゲットにした活動での狙いについて職員間で共通理解を図り検討することで、生徒一人一人に合わせた支援の手立ての工夫を共有することができた。
- 効果があった手立てを次の実践にも取り入れて生かすことで、人との関わりを広げたり、仲間との活動をより楽しむことができるようになったりした様子がみられた。

(2) 課題

- ベッドサイドで学習する生徒と分教室に登校して学習する生徒が互いに関わりを意識することができる活動内容の設定、オンラインも含めてやり取りのある活動の工夫について検討が必要。

(3) 終わりに

本年度、「個別最適な学び」を支えるとともに「協働的な学び」が一体的に実現できる学習の場として、集団学習の取り組みを実践した。1年次に引き続き重度・重複障害児のアセスメントチェックリストを使用して児童生徒の実態把握を行って共通理解を図り、指導目標と支援の手立てを検討した。そのことに基づいて授業実践を行い、夏祭り当日は他学部職員に向けて授業を公開し、寄せられた意見や感想を共有した。また、本研究で取り上げた集団学習だけでなく、ベッドサイドで学習する生徒と分教室に登校して学習する生徒が随時動画などを使用したメッセージを交換してやり取りのある活動を設定したことも、仲間と関わることに繋がった。あすなる分教室がめざす「主体的な姿」に向けて「人と関わる力」を育むための蓄積として、これからの指導支援に生かしていきたい。

次年度以降、生徒数の減少や生徒の体調面の実態により集団学習の実施が困難になることが予想される。人と関わる力を伸ばすために、少人数でも相手を意識したやり取りができる活動の工夫について考えていきたい。

研究主題

選ぶ そして 動く

～児童生徒が選択できるような環境を整える～

1 主題設定の理由

本研究グループの児童生徒は、千厩小学校・千厩中学校各校内に学びの場がある児童生徒たちである。小学部(ハピきら)を卒業した児童は中学部(みなとモ)へ進学し、みなとモを卒業する生徒は本校舎高等部または他校へ進学するケースが多い。そのような流れの中、学びの連続性が途切れてしまわないよう、また、児童生徒がこれからの生活においてより主体的に取り組むことができるために、それぞれの次のステージでどんな力を身に付けるか、一人一人の実態をあらためて把握し、今ある姿と目指す姿を共通理解して、児童生徒の可能性をさらに広げる意義のある授業実践・教師の意味のある仕掛けや選択場面の設定が重要と考える。昨年度の研究実践である「みる・聞く・話す(伝える)」を継続しながら、児童生徒の主体的な姿を育む支援の在り方を教師間で共有し、その都度、修正・検討を図り、より良い支援の在り方を目指す。

2 推進計画

月 日	研究活動	内 容
4月16日	第1回全校研究会	
6月23日	グループ研究会①	学部テーマ等についての確認。今年度の方向性について合同研究会①
7月16日	グループ研究会②	授業実践
9月3日	グループ研究会③	授業実践、動画撮影・編集
10月20日	グループ研究会④	授業実践、動画撮影・編集
11月25日	グループ研究会⑤	授業実践、動画撮影・編集
12月16日	グループ研究会⑥	千厩分教室の実践動画をみる。合同研究会②
1月21日	グループ研究会⑦	グループ研究まとめ
2月20日	第2回全校研究会	グループ研究の発表、全校研究のまとめ

3 めざす「主体的な姿」

「みる・きく・はなす(伝える)」は、場所や場面が変わっても学んだことを表出できるような力の基礎基本の部分にあたる。さらに表出となると人とのコミュニケーション能力や適応能力も必要である。千厩分教室では、「みる・きく・はなす(伝える)」の基礎基本の上に、場所や場面が変わっても学んだことや自分の気持ちを表出できることを「主体的な姿」と考える。

4 1年次目の研究概要

主体性を育てるためには、「児童生徒が自分で選択する機会や場面を多く経験することが重要である。」という仮説を立てて、児童生徒が自分で選択できるような機会や場面を意識的に教師側がつくった。そして、選択した児童生徒のその後の行動や変容を見取り、実践記録シートに記入し、(パソコン入力・手書き・選択場面を写真でおさめ印刷等)研究部ポストかフォルダに入れ、データを収集した。1年次は、とにかく児童生徒に選択する機会や場面を多く設定し、その後の行動を記録することに徹することに努めた。

令和6年度 授業及び指導実践シート

授業(実施)日	5月14日(火)	学部	千厩分教室小学部 2・3・4組
単元名 (指導場面)	体育(ヨガをしよう)	授業者 (指導者)	皆川桂輔、小野寺賢一 平野百合香、田中陽香
目標	・ヨガの前にダンスや体操を行い、児童の興味・関心や意欲を高める。 ・簡単なヨガを体験し、自分のからだを知る。		
手立て	・写真カードを渡し、児童が自分で3択からの1つを選び、写真をはる。 ・児童が選択場面では、できるだけ声掛けをしないようにする。		
アイデアの共有、感想			
・みなトモ全員で動画を拝聴。ハピきらの生徒理解の一助となり有意義な機会だった。 ・みなトモ体操が入っているのがありがたい。 ・選択できる力が身に付いていて素晴らしい。継続の大切さを感じた。 (11/21みなトモの感想)			

・アンケートの結果の概要

1年次のアンケート調査では69件の実践が行われ、記録シートに記録された。高い評価が示され、選択と主体性の関係が明確になった。選択後に児童生徒の意欲が高まる傾向が強く表れ、授業別の意欲構成比は、「体育」で、とても意欲的な様子が小学部・中学部でも多く見られた。他教科では、意欲の高まりが限定的で体育の設計要素を他教科に応用することが意欲向上に効果的であり、選択肢提示や変容に影響することも判明した。

・改善策と重点施策

- ①興味・関心に基づく選択肢を3つ以上用意し、児童生徒の意欲を最大化する。
- ②体育での明確な目標設定と達成感のパターンを他教科に展開し、学習効果を高める。
- ③目標や約束の振り返りを標準化し、花丸カードや自己評価シートで主体性を育成する。

5 2年次目の研究実践

(1)研究方針

- ア 1年目の実践成果・課題を基に仮説を変更または継続し、実践する。
- イ 小・中の連携を図る。授業を見合う機会や学習会を設定する。
- ウ 2年次研究の成果と課題をまとめる。

(2)実践シートの活用について

令和7年度授業実践シートを基に、目標、手だて、児童生徒の実態、研究会でのアイデアの共有、授業改善後の児童生徒の様子について1枚で網羅できるようにした。中学部(みなトモ)では、1人1実践で実践シートを活用し、中学部内での研究会で動画を見合ったり、実践シートを使って話し合いを深めたりして、情報やアイデアの共有を図った。

(3)授業実践と授業改善

実践1

令和7年度 授業及び指導実践シート(千厩分教室小学部)

授業日	9月16日(火)3校時	学 部	小学部6年生
単元(題材)名 (指導場面)	生活単元学習 「修学旅行に行こう」	授業者 (指導者)	皆川桂輔 他2名
目 標	1 日付・曜日・何の乗り物で行くか・誰と行くか・行先が分かる。 2 「楽しみなこと」・「がんばること」を自分で選ぶ。		
(目標に対する)実 態	<p><目標1に対する実態></p> <ul style="list-style-type: none">・日付・曜日・何の乗り物で行くか・誰と行くか・行先が分かる。・カレンダーワークの日付に○ができる児童や空欄にすると日付や曜日を平仮名・数字・漢字で記入することができる。・「何の乗り物で行くか」は、乗り物のイラストを提示すると全員が自分で選ぶことができる。・「誰と行くか」は、写真を使えば全員が答えることができる。・「行先」は、写真を使うと自分で名称を答えたり、教師が名称を言うと写真を選んだりすることができる。 <p><目標2に対する実態></p> <ul style="list-style-type: none">・「楽しみなこと」・「がんばること」を選択肢にするとその中から1～3つを自分で選ぶことができるようになってきた。		
手立て	<p><教材教具の工夫></p> <ul style="list-style-type: none">・iPadのロイノートを使い、反応をよくするためにタッチペンを使用する。・AppleTVを使用し、コードレスで児童の動きの制限を減らした。・AppleTVを使用し、テレビでも本人がやっている内容が分かるようにした。 <p><場の設定の工夫></p> <ul style="list-style-type: none">・集会の中で発表する機会を設定し、児童の意欲や修学旅行への気持ちの一体感を高める。		

<p><教師の関わりの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の評価「花丸」は、児童が答えたら・記入後、間髪入れずに行い称賛する。 ・見ている職員も、できた時は大きく称賛する。 <p><活動の流れの工夫></p> <ol style="list-style-type: none"> ①日時の確認(カレンダーに○をする。) ②日時と曜日の確認(日付と曜日を空欄にし、漢字で記入するように促す。) ③何の乗り物で行くかの確認。4つのイラストから1つを選ぶように促す。 ④誰と行くか(写真を全体に見せ、本人には見せずに答える。) ⑤行先の確認(写真を見せて、施設の名前を答える。) ⑥「楽しみなこと」「がんばること」の確認。「楽しみなこと」は、7つの写真から1～3つを選んで赤で丸を付けるように促す。「がんばること」は4つから1つを選んで赤で丸を付けるか、字を囲むように指示をする。 	
アイデアの共有	
①画面の共有はできるのか？	②評価はできるだけ早く行う。
・ホストをその都度、変更する煩わしさがある為、個人のiPadをテレビにつないで全体で画面を共有していた。	・児童が書き入れた瞬間に花丸、◎があると「やりがい」や「達成感」・「成功体験」につながる。
感想	
<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって発表し、みんなの反応をまっていた。拍手や歓声があがるととても嬉しそうな表情やリアクションをしていた。 ・修学旅行に対して「楽しみ」や「わくわく感」をもって事前学習に取り組んでいる姿がたくさん見られた。 	
授業改善後	
<p>【取り入れた手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「楽しみなこと」や目標・約束などを選択肢に入れた。 ・児童がイメージをもてるように行先や見学場所などの写真を活用した。 ・画面がタップしやすいように文字画面も(編集にならないように)スクリーンショットで写真扱いにした。 <p>【児童生徒の変容、様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行に対して「楽しみ」や「わくわく感」をもって事前学習に取り組んでいる姿がたくさん見られた。 ・写真があることで児童が自分の意志で選択することができていた。 ・選択(タップ)もタッチペンを使って迷わずにできていた。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発語が無い児童でも画面を共有することで選択場面や意思決定するところを見ることができた。 ・ロイノートを手掛かりに発表することができた。 ・教師の支援が過多になることが課題である。 <p>【今後の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が一人で操作できるように支援の在り方を考え、共有する。 ・児童生徒に「楽しみ」や「わくわく感」をどうやって、もたせるかは我々の永遠の「課題・やりがい」である。 	

実践2

令和7年度 授業及び指導実践シート(千厩中学部)

授業日	11月14・17・21日	学部	中学部
題材	布を染めてつくろう (①おり方②模様付けの道具と付け方③色の選択場面)	授業者	中山陽子
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・布の折り方や道具によって染まり方が違うことに気付くことができる(知) ・布の折り方、道具、染める色を主体的に選択することができる(思) ・積極的に素材や道具と関わり、試行錯誤しながら制作することができる。(主) 		
実態	<ul style="list-style-type: none"> ・染色の経験が少ないため、折り方や道具による染まり方の違いについて知識はほぼない。 ・選ぶことを楽しむことができ、そのことが作品の良さにつながっているが、構想し、考えて選ぶというよりは、感覚的に好きなものを選ぶ生徒が多い。 ・目の前にある素材や道具と関わることを楽しむことができる。 		
手立て	<p>より主体的な選択になるために(思いを膨らませたより主体的な選択を促すために)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・染色体験(自分の選択が作品に反映される経験)を重ねる。 ・生徒が選択できる場面を増やしたり、選択肢を広げたりする。 		
アイデアの共有			
生徒の選択場面を増やししながら、染色体験を繰り返す ※動画			
<ul style="list-style-type: none"> ①草木染め:折り方、道具、色(1色)は教師が指定。模様をつける場所のみ自分で決める。 ②化学染料染め1:折り方、道具、色(赤、ピンク、緑、黄緑、水色)を選択する。 ③化学染料染め2:同上 ④化学染料染め3(重ね染め):同上、重ね染めする布を②③から選択 ⑤化学染料染め4:布のサイズを倍にし、自由に制作する(重ね染めするかどうかも選択) 			
感想			
<ul style="list-style-type: none"> ・通年の美術活動の様子から、自分の選択が作品に表れる経験を重ねていくことで、生徒たちの主体性が育まれていく実感がある。ひとりひとりが思いを膨らませ、じっくりと考えながら選択できるようにするためには、画材や道具を知ること(豊かな材料体験)が大切だと感じた。 			
授業改善後			
<p>【取り入れた手立て】 選択場面を多く設定し、自分の選択が作品に現れる経験を重ねる。</p> <p>【児童生徒の変容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・染色の工程を何度か体験することで、見通しをもち安心して様々なことに挑戦できるようになった。 ・「自分が選択→気に入ったものができる」ことの繰り返し「次はこうしてみたい」という意欲につながっていた。 ・自分の表現を試行錯誤する様子や、選択した道具の扱いが難しくても諦めない様子もみられた。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが、より主体的な選択を行うためには豊かな経験が必要ということがわかった。 ・重複学級の美術では、色や形と関わる楽しい経験を重ねることが、主体的に選択する力につながっていくのではないかと考えた。 <p>【今後の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の選択が作品に反映される経験を重ねていきたい。 ・試作品作りの時間を設け、アイデアを共有したり、制作の流れを体験したりして、ひとりひとりがより豊かな選択ができるようにしたい。 			

4 実践のまとめ

ICT 活用と即時評価

生活単元学習では ICT と即時評価により児童生徒の自信と積極的な発表が促進された。

視覚的支援の効果

写真やイラストの視覚支援で発語がない児童生徒も意思表示が可能となった。

美術の主体性育成

美術では多様な選択肢と試行錯誤により児童の主体性と創造力が育まれた。

今後の課題と展望

自立的な操作や構想力育成、支援過多防止の工夫が今後の課題である。

(1) 成果

○ 選択と主体性の関係性の認識が高水準で維持

- ・両年度とも「選択は主体性を育む」に対する評価が平均 4.8 以上と非常に高く、教育方針の方向性が教員間で共有されていることが確認できた。
- ・相関(研究進め方評価 × 主体性認識)も中程度の正の相関を示し、授業設計の工夫が教師の手応えと児童の主体性理解を結びつけている可能性が示唆された。

○ 児童・生徒の意欲向上が継続

- ・「とても意欲的・意欲的」の割合は令和6年度 92% → 令和7年度 93%と微増した。
- ・否定的反応(「やや消極的」「かわらない」)は令和7年度でほぼ消失し、選択場面の設計改善が効果を発揮したと考えられる。

○ 成功事例の質的特徴

- ・体育: 目標カードや選択肢提示により、集中・見通しをもった行動が増加した。
- ・音楽: 選曲や発表の選択が自己表現の場面を強化することができた。
- ・制作活動(その他): 素材・色・工程の選択により、試行錯誤と作品への愛着が高まった。

○ 支援・手立ての工夫が定着

- ・「頑張ること・目標・約束」の明示、選択肢の絞り込み(2~3択)、興味関心の活用が多く記録され、見通し→選択→振り返りの流れが現場で意識された。

(2) 課題

● 授業タイプの偏りと変化

- ・令和6年度は「生単」「日生」「体育」が約 70%を占めたが、令和7年度では「その他」「体育・音楽」が増加した。
- ・生活単元学習や作業での選択場面設計が難しく、効果が分かれやすいことが課題。選択肢の質や活動の意欲づけを再検討する必要がある。

● 自由記述に見える「安心感」への配慮

- ・「選択できることが安心につながった」という記述が複数あり、選択の自由度と心理的安全性のバランスを取る工夫が今後も求められる。

● 事例共有の仕組み

- ・成功事例は自由記述に散在しており、体系化・共有の仕組みが未整備である。
- ・校内研修で「選択→主体性」モデルをテンプレ化し、授業設計の参考資料として活用することが望ましい。

6 2年次研究のまとめ

全体の進捗と成果は、研究テーマ「選択 そして 動く ～児童生徒が選択できるような環境を整える～」に沿って、2年次では選択場面の質的改善と多様化に重点を置いた。授業タイプの幅が広がり、体育・音楽・制作活動（その他）での選択場面が増加した。これにより、児童・生徒の意欲的な行動や自己表現の場面が多く観察された。アンケート結果では、「選択と主体性の関係」を肯定する評価が平均 4.81 と高水準を維持し、研究の方向性が現場で共有されていることを確認できた。児童・生徒の変容としては、「とても意欲的・意欲的」な反応が 93%と前年より増加し、否定的反応（やや消極的・かわらない）はほぼ消失した。

課題と次年度への展望として、教師の支援・手立てとして、「頑張ること・目標・約束」の明示、選択肢の絞り込み（2～3択）、興味関心の活用など、見通し→選択→振り返りの流れを定着させることが重要である。生活単元学習・作業での選択場面設計は依然として難しく、活動の意味づけや選択肢の質を再検討する必要がある。意欲や主体性の変化は自己報告中心であり、客観的評価指標（行動観察・達成度）との突合せが課題として、事例の体系化と共有評価枠組みの整備、選択肢の質的改善を重点に、研究の総仕上げを目指したい。

7 全体研究のまとめ

1 成果

○本校は4障がい種に対応しており、学部ごとに児童生徒の障がいや課題、実態が多岐にわたっている。そのため、教育上の課題も多様である。しかし、いずれの学部においても「児童生徒の主体性を育む支援」を充実させることが、本校の学校教育目標で示す幼児児童生徒像の実現に寄与すると捉えた。そこで、研究の中心テーマを「主体性を育む支援のあり方」とし、各学部では実態に応じて課題や取り組みたいテーマをグループごとに設定して研究を進めた。これにより、研究内容が具体的な実践に結びつき、各グループで研究の深化が図られた。

○指導案や指導略案に替えて実践シートを作成・導入したことにより、職員の負担が軽減された。また、1枚のシートで授業の目標から手立て、研究会での意見、改善内容、児童生徒の変容を一体的に整理できるため、授業の見通しと振り返りがひと目で分かるようになり、授業改善を継続的に進めやすくなった。これにより、働き方改革に資する効率化と、授業改善の質の向上という両面において成果がみられた。

○授業1時間すべてを記録するのではなく、5分程度の「見てほしい一場面」に焦点化して動画を共有できるようにした。動画と実践シートの確認を全校に案内したことや、動画が短時間であることで、時間のあるときに気軽に視聴できたことで、学部間や校舎間を越えて実践を知る機会となった。これまで接点の少なかった他学部の実践を知ることができ、児童生徒の実態に応じた支援の工夫や授業改善の視点を共有しやすくなった。

2 課題

- 他グループの実践視聴が任意であったため、グループで視聴に差が生じ、校内全体としての実践共有にはばらつきがみられた。全校的な視野で学び合う機会を安定して確保する点は、今後の課題である。
- 動画がフォルダ内で正常に視聴できないなど、共有が円滑に行えないことがあった。保存形式やファイルサイズを統一する、Microsoft Teamsを活用するなどし、共有方法を工夫する必要がある。
- 各グループで「めざす主体的な姿」を設定する際、同一グループ内であっても児童生徒の実態が大きく異なるため、共通の姿を描くことが難しいグループもあった。

8 次年度研究について

来年度の研究について、以下の方向性で進めたいと考えている。

全校研究主題 「授業実践シートを活用した授業実践(仮)」

2年次研究(令和8~9年度)

① 実践シートの活用を継続

2年間にわたり実践シートを活用して研究を進めてきた結果、「使いやすかった」「実践に役立った」という肯定的な意見が寄せられた。そこで、実践シートを授業改善の中心ツールとして位置づけ、授業の目標・手立て・児童生

徒の変容・改善内容を一体的に整理できるようにする。1枚で授業づくりから改善までを見通せるため、負担を軽減しながら、継続的な授業改善を可能にすることをめざす。

② 学部間の情報共有・情報交換

実践シートや短時間の実践動画を活用し、学部や校舎を越えた実践共有を促進する。それぞれの学部の児童生徒の実態に応じた工夫や支援の視点を共有することで、校内の連携を深めるとともに、他学部の実践を知り、学び合いの広がりをめざす。

③ 柔軟で効率的・効果的な研究推進

研究の進め方を固定化せず、各グループの実態に応じて柔軟に取り組める環境を整える。動画活用や Teams を用いた情報集約など、時間と場所にとらわれない研究方法を導入することで、効率的かつ実効性の高い研究を実現する。

④ 働き方改革・負担軽減の推進

実践シートの一本化や動画共有の効率化により、略案作成や長時間の資料準備を削減し、負担を軽減する。研究のための負担を減らしつつ、質の高い授業づくりと授業改善を可能にすることで、働き方改革にも資する研究体制の構築をめざす。

⑤ みんなで進める研究をめざす

研究に、全員が無理なく参画できる仕組みづくりを目指す。任意視聴や短時間動画、実践シートなど、誰でも携わりやすい工夫を取り入れることで、全校で研究を進め、組織としての学びを深める。

9 終わりに

2校舎3分教室という特徴のある体制の中で、校舎間の連携と情報共有のあり方、そして児童生徒一人一人の主体的な姿を踏まえた授業改善をどのように進めるかが、当初からの課題であった。

これらの課題に対して、本校独自の様式である「実践シート」を核として研究を推進したことは、成果であったと言える。実践シートは、授業の要点・ねらい・主体性を促す手立てや授業改善後の児童生徒の変容を1枚で整理できる形式としたことで、指導案作成や授業準備の負担軽減だけでなく、授業の見通し共有や授業改善に向けた議論の活性化にもつながった。さらに、動画と実践シートを用いた意見交換により、児童生徒の学びの姿をより具体的に捉え、他学部・他分教室の良さやアイデアを相互に取り入れる授業改善の動きも生まれた。手立てを工夫し改善を重ねたことで、児童生徒の反応や関わり方がより主体的なものへと変わっていった。このように、実践シートが主体的な学びを育む実質的なツールとして定着したことは、本研究の成果である。